

平成27年度 老人保健事業推進費等補助金

老人保健健康増進等事業

本人・家族の視点を重視する認知症ケアに向けた
グループホームの地域拠点化と、
新たな本人視点の質確保策のプロセス開発に関する
調査研究事業
報告書

特定非営利活動法人 地域生活サポートセンター

平成28（2016）年 3月

目次

I. 調査研究事業の概要	1
1. 調査研究の背景	2
2. 調査研究事業の目的と課題	3
1) 現行の外部評価制度における主な問題点	3
2) 現行の外部評価制度に関する課題	3
3) 本調査研究事業における検討事項	3
3. 調査研究事業における具体的検討内容（概要）と経過	5
1) 第1回委員会	5
2) 第1回ワーキング部会	6
3) 第2回委員会	8
4) 第3回委員会・第2回ワーキング部会合同会	9
5) 調査研究事業の経過	9
4. 調査研究事業体制	10
II. 試行調査	11
1. 試行調査経過	12
1) 試行調査期間	12
2) 試行調査ツール	12
3) 試行調査実施概要	12
2. 試行調査方法	13
1) 試行調査全体の流れ	13
2) 試行調査ツール一覧	14
3) 試行調査各ステップ詳細（進め方）	15
4) ツール類（各シート・アンケート票）の返送	20

3. 試行調査結果	21
1) グループホーム事業所アンケート結果	21
2) 運営推進会議参加者アンケート結果	39
3) 評価機関調査員（運営推進会議参加）アンケート結果	42
4) 各シートの項目について	49
5) 試行全体に対する主な自由意見	54

III. 考察と提案 63

1. 新たな質確保策の可能性について－試行調査結果から確認できたこと	64
1) ステップ1：事業所内の作業	64
2) ステップ2：運営推進会議の開催	69
3) ステップ3：今後の取組計画表の作成	70
2. グループホームの地域における存在性・存在価値の観点から	71
1) 利用者のより良い暮らしを目指して	71
2) 運営推進会議を活かした質確保・向上を目指して	71
3) 地域協働力の醸成を目指して	72
4) 今後に向けて	75

資料篇 77

1. 試行シート様式	78
2. 試行シート記入実例	83
3. 試行アンケート票様式	101
4. 試行協力事業所・評価機関一覧	108

I . 調査研究事業の概要

1. 調査研究事業の背景

現在、グループホームには、自己評価・外部評価制度や運営推進会議等が質確保策として義務づけられており、地域密着型サービスの質確保・向上策として成果を発揮している。一方で、制度本来の目的を見失い、形骸化させている事業所、制度を運用・実施する自治体の対応の温度差など、経年による「格差の拡大」とともに、制度そのものの機能の捉え方や期待する内容、実施方法にも齟齬が生じている。

グループホームの自己評価・外部評価の制度化の背景には、グループホームの急増に伴うリスクマネジメントが挙げられる。介護保険開始前夜の1999年度末、全国で僅か266事業所だったグループホームは、介護保険の居宅サービスに位置付けられ、ゴールドプラン21で具体的な目標数値が掲げられたことから、未曾有の開設ラッシュが見込まれた。量的拡大が期待される一方で、グループホームは①密室性の高さ②専門性に対する危惧③利用者の選択情報がない等の指摘が相次いでおり、ケアサービスの質の担保されないまま量的拡大が図られることは、グループホームの最低限のあるべき姿のコンセンサスが浸透していない中で、さまざまな危険をはらむものと考えられ、質の保証策が喫緊の課題に浮上した。事業者の研究会から発足し協会へと体制づくりを進めたグループホーム事業者団体は、こうした指摘に応えるべく、外的規範ではなく、主体的・自律的に現在の自己評価・外部評価の原型となる評価モデル事業に取り組み、事業者側の努力を基盤としつつ、それを後押しする行政と関係者がまちぐるみで一丸となったシステム構築を目論んだ。

3年間のモデル事業を経て2002年より制度化された評価事業は、全国で毎日4～5事業所が開設という破竹の勢いで急増するグループホームにとって、外部の目が入ること自体に相当の意味があったことがうかがえる。また、グループホームの事業理念や運営方法が確立されていない認知症ケアの黎明期において、グループホームに課せられるケアサービスの「実践（プロセス）」を「評価項目」から学び、ナビゲーションする役割が期待され、実際、そのプロセスを評価することによって質を担保する役目を果たしてきた。つまり、自己評価・外部評価制度は、創成期から普及拡充期におけるグループホームにとって、質の確保に向けたバイアスにも働くとともに、評価項目はグループホームケアの一つのメルクマールでもあり、項目通りに実践することが良質な事業所づくりの契機であるとされてきた。わが国でグループホームが制度化されて20年を迎えようとしている現在、時代の変遷や環境の変化等に伴い、グループホームの存在意義や価値が改めて問われるとともに、今後の地域包括ケアシステムの構築におけるグループホームの地域ケア拠点化に向けて、既存制度の効率化や統合化など、実効性ある制度の最適化が求められている。

2. 調査研究事業の目的と課題

これまでのグループホームにおけるサービスの質確保・向上をプロセスで評価する視点から、認知症の人自身がより良く暮らせているかを「本人の暮らしの状況」や「より良い暮らしの実現の支援」によって評価する視点へ移行することが求められており、それに対応するため、本人視点に基づく質確保のプロセス開発を行うことを目的とする。

また、各評価制度や運営推進会議等の特徴を活かしつつ、本人の状況把握とより良い暮らしに向けた支援の点検、協議、共創の場の創出にかかる有効な取組や運営手法について検討を行うことも、併せて目的とする。

1) 現行の外部評価制度における主な問題点

- 「評価とは何か」について、事業所、評価機関等関係者間の捉え方がさまざまなため、価値の共有ができていない。
- 「事業所の質確保・向上」が主目的となり、利用者視点による評価軸が欠けている。
- 「気づき」、「応援団」等、曖昧な言葉が用いられているため、外部評価の役割や評価項目の解釈が多様になり、評価調査の主体者によって、実務に相違が生じている。
- 現状のグループホームの運営実態に対して、必ずしも適当ではない評価項目がある。
- 評価結果が曖昧な表現で記載されており、開示された情報が分かりにくい。
(参考：平成25年度 老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「地域密着型サービスの質向上のためのサービス評価制度のあり方に関する調査研究事業報告書」)

2) 現行の外部評価制度に関する課題

本調査研究事業では、介護保険制度の全体観の変化（制度環境）、認知症の人の住い方の変化（居所の多様化）、事業所側の意識・認識の変化等の諸課題を踏まえ、グループホーム評価の今後のあり方・姿について、以下の3つの課題について検討を行うものである。

- ①現行の外部評価における問題点の改善・質確保のあり方
- ②運営推進会議を効果的に活用する方法や利用者視点に基づく支援のあり方
- ③グループホームの地域ケア拠点化を促進するための有効な手法

3) 本調査研究事業における検討事項

(1) 現行制度における問題点を踏まえた質確保・評価のあり方

- ①グループホームの事業特性や現状にあわせた確認・評価項目等。
- ②本人の暮らしの状況・状態像（暮らしぶりや力の発揮、満足度等）の状況を把握・確認するための手法、ツール等。

(2) 運営推進会議の特徴を活かした、本人の状況把握とより良い暮らしに向けた協議、共創の場づくり

今後の運営推進会議において、本人の状況把握と、よりよい暮らしの実現に向けた話し合いを行うための確認項目、記入シート（ミーティングシート等）類等。

(3) グループホームの地域ケア拠点化を促進するために有効な手法

現在の運営推進会議に参加する者や関わり方等の実態把握を通じて、グループホーム事業所のサービスの質の向上を支援、推進していく担い手の役割、地域における認知症ケアの拠点として備えるべき機能や手法等。

3. 調査研究事業における具体的検討内容（概要）と経過

1) 第1回委員会：平成27年8月21日

<検討内容>

○利用者本人の暮らしの状況を把握・確認・評価していく上で、必要な観点

- ・3視点「本人主体」「生活の継続性」「残存機能の活用」ができているか。
- ・今までどのような生活をしてきたか、それを大切にされたケアが提供されているか。
- ・認知症の人の特徴、健康状態を見極め、その人の状態にあった環境（職員等の人的環境、運営体制、医療連携、地域とのつながり等の社会的環境）を整えているか。
- ・「地域密着型サービス」の重要性を理解して関わっているか。
- ・GHは、誰のため、何のためにあるのか、働く人は何するために集まっているのか、確認できているか。
- ・利用者、家族が「自分の希望する生活が実現できる」思えるようなケアの提供ができてきているか。
- ・利用者本人だけでなく、家族の満足度を知ることが重視されているか。

○事業者自身が、(把握・確認・評価したことを)利用者本人の暮らしの質確保、よりよい暮らしにつなげていく上で、効果的な「外部の関わり」の関わり方・しくみ

- ・課題だけではなく、良い所の評価が必要。
- ・運営推進会議や市の認知症推進員の関わり等、地域の中で、GHの存在と他施策との関連性をつくる。
- ・医療面からの見方も必要。
- ・管理者だけでなく、全職員参加型の自己評価。
- ・外部との関わりで多いのは家族であるから、家族との接点を作っていく。
- ・地域での支えの対応について話し合う場として運営推進会議があるが、日頃からの関係構築が大切。

○「運営推進会議」と「外部からの評価」のあり方

- ・地域、自治体、家族、事業者が「質の確保向上改善策」を議論し、事業者が改善を図るようにしていくことが必要。
- ・運営推進会議には、評価結果の報告義務がある。評価された良い点や改善を求められていることの意味について、地域の人達へ解説する第三者が必要。
- ・現状の運営推進会議は、中身の濃淡にはかなり差があり、その点の補完策が必要。
- ・運営推進会議が「外の目」の役割が果たせるのか、外の目をどうやって確保できるかが重要な課題。

2) 第1回ワーキング部会：平成27年10月3日

<検討内容①：試行ツールの検討>

自己評価	<p>本人の暮らしの状況 把握・確認項目</p> <p>①個票</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目数：10 ・項目区分：3 <p>②全体表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全入居者の一覧（個票のスコア転記） 	<p>現行の「入居者を集団としてみるアウトカム項目」に対して、</p> <p>○入居者全員を対象に、一人ひとりの暮らしの状況把握・確認をおこなうようにした。</p> <p>○個票と全体表2様式を用意、</p> <p>①個票：3視点で構成、4択＋記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本人主体の暮らし」「生活の継続性」「残存機能の活用」 ・「本人は、」形式の項目文（アウトカム指向） <p>②全体表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個票のスコア一覧（マッピング）＋記述 <p>※「個票」は、事業所の日常の具体的な支援に活かしていく</p> <p>※「全体表」は、改善計画を含み、運営推進会議等で開示、及び公表</p>
	<p>プロセス評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目数：45（各項目に4択記入） ・項目区分：10（区分毎に課題を整理、記述） 	<p>現行の「プロセス項目評価結果」と「アウトカム項目評価結果」に関連性が見出せず、プロセス重視となっている現状に対して、</p> <p>○「本人の暮らしの状況・把握・確認項目」を確認したときに、不十分な項目に相対するプロセスは何か、相関性を持つ項目、項目順とした。（「本人」に対して、プロセスでは集团的取組のため「利用者」とした）</p> <p>○曖昧さを排除するとともに負担軽減ために、記述式から4者択一に</p> <p>○現在、開示されている外部評価結果、目標達成計画より、課題点が多くみられる項目は引き続き、確認項目とした</p> <p>※「全体表」は、改善計画を含み、運営推進会議等で開示、及び公表</p>
外部（地域）評価	<p>外部（地域）からの評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目数：17 ・項目区分：9 <p>※素案としては、「運営推進会議」での実施を想定</p>	<p>○本人の暮らしの状況・把握・確認項目及びプロセス評価項目より、時間配分、外部者にも分かりやすい項目を選択</p> <p>○運営推進会議参加者（地域住民、家族、行政等）にも関心あり、課題解決に向けた協働を期待しつつ、密着型サービスとしての認知症のケア拠点としての情報発信につながる項目を選択</p> <p>※本票は「ミーティングシートとして」運営推進会議にて配布し、話し合いの結果を記入</p>

<検討点>

○自己評価（本人の暮らしの状況 把握・確認項目）について

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々を見ていく方法論は良い。 ・「本人の暮らしの状況把握・確認」というのは、事業所側として評価するということ

であるが、どういう視点で「できている」と評価するのか。その視点が明確であることが必要。

- ・ 現行の外部評価ではアウトカム項目の検証に家族アンケートを参考としている。そういった視点が必要
- ・ 職員が、自分が今やっていることについて、見直し、振り返り、そこが出れば自己評価はそれでいい。
- ・ 評価するだけではなく、どのように今後活かしていくのか入って行かないと、自己評価をどう活かすかに至る評価のプロセスが必要。
- ・ 居宅から暮らしの希望や意向や基本情報を聞き取り、グループホームでの生活が始まることが本人にとってはとても大事である。そのつなぎの部分の把握についても、項目の内容に入れるべき。
- ・ 事業所の中で自分たちのできる自己評価をしていくのが現段階。それを客観化するために外部の人が入るといった形が必要。

○外部（地域）からの評価項目について

- ・ 運営推進委員が実際に見聞きしていない確認していないことについては、わからないことが多いのではないかな。
- ・ 理念的な言葉が多い。そこが今すごく問われているので、そこを自分たちで考えていきたい。
- ・ 評価自体をやる意味があるのか。事業所主体で「認知症の人のために頑張るんだ」という思いがあって評価が活かされるのではないかな。
- ・ 地域の方が答えられる設問と答えられない設問、家族の方が答えられる設問と答えられない設問があると思う。どうやって運営推進会議という場で聞いていくのか、難しいように思う。
- ・ これは、評価なのか？これではミーティングシート（会議資料・報告書）にしかならないのではないかな。一般的に評価というと、5点満点で、できている、できていないだとか、第三者から見てできている、できていないとか、何かしら判断を下した結果の集約となる。
- ・ 運営推進会議のシートも、事前に自己評価と一緒に配っておかなければ、当日配られても目的がわからないのではないかな。
- ・ 順序からいくと、まず自己評価があって、事業所でまとめたものがある、それを持って外部評価にかける、もう一回戻す。そういう順序がわかりやすい。

3) 第2回委員会：平成27年10月20日

<検討内容>

○試行ツール試案の全体構造について

- ・自治体でも、本人目線にできるだけ立って見ていく。自己評価では今までの「配慮していると考えている」というよりも、暮らしができているのか、その支援が自分達はできているのだろうか、という視点で捉えてもらいたい。
- ・本人主体の暮らしと継続性というのが、認知症の人のポイント。ケアによって本人がどのように落ち着いた暮らしができているか、という観点を大事にしたものが今回のものであると理解できる。
- ・今までに無かったのは、一人ひとりの課題をチェックすること。それを総合的にしっかり書いてもらおうと、グループホームらしい工夫が分かる。
- ・(十分にできている、ほぼできている)の場合であれば、良い取組みを書いてもらい、(あまりできていない、ほとんどできていない)のところ改善する等、個人の変化や個別の工夫は、事例などを書いてもらうことが総合的な項目で書きやすいのではないかな。

○試案をもとにした、試行のあり方と「外部評価」の機能と役割について

- ・運営推進会議そのものが活きる為には、運営推進会議の方々にしっかりとグループホームを理解して頂く、そういう意味でもとても良いことだと思う。メンバーにどのくらい理解をしてもらって公平性を期するかの視点が重要。
- ・いろんな立場の人がさまざまな観点から見ることも有用、ただ、それを外部評価としていいのか、客観的なものとなるのか、その点で、認知症ケアに知見をもつコーディネーターが必要ではないかな。
- ・運営推進会議の中から、利害関係者は除かないと議論は出来ないのではないかな。
- ・10年前に評価を設定した時よりも状況は進化した。現場では創意工夫でいろんな取り組みがある。「評価する」という言葉がなじまないと考える。
- ・GHは現在1万数千ある、義務化された運営推進会議が全て機能しているとは考えにくい。そのあたりの方がもっと大きな問題になってしまう。将来的には、運営推進会議そのものの持ち方、運営推進会議のメンバーと事業所の関係性を今の求め方では無くてもっと変えていかないと、なかなか評価は難しい。こういうことを前提にして関係性を作っていく、普段から見ていくというのは「評価」というのにはならない。
- ・「外部評価」に拘っているから出てくる前提になっている。「評価」を外せばいいのではないかな、従来型の外部評価をひきずったり、言葉そのものを真正面に受け止めると違和感がある。
- ・「評価」というよりもケアの確認。GHは地域にとってどうなのか、利用者にとってどうなのか、家族にとってどうなのか、みんなで作りあげる確認要項ということになっていくと、評価で良い悪いではなく、地域の人が気づいているところを挙げてもらおう、各々の立場で気付いていること挙げてもらい、事業所がまとめて作りあげる。

4) 第3回委員会・第2回ワーキング部会合同会：平成28年3月12日

<検討内容>

- 試行調査結果報告（第2章参照）
- 事業結果全体検討（第3章参照）

5) 調査研究事業の経過

月日	内容	場所	参加メンバー
8/21	●第1回検討委員会の開催 アウトカム指向型評価の観点、外部の関わり方等の検討 成果物：試行調査方法、ツールの作成基盤となる考え方の集約	TKP 東京駅丸の内会議室地下一階ミーティングルーム B	委員会メンバー（池田氏・田部井氏・県大久保氏・桑折氏・大淵氏・杉山氏・田辺氏）
9/1～	第1回委員会討議要旨に基づく試行調査計画のたたき台作成		事務局
10/3	○第1回ワーキング部会 試行調査実施の流れ、評価項目、評価シート、試行調査実施後アンケート（①事業所：自己評価表、外部評価表（外部からの確認シート）②評価調査員アンケート）	TKP 東京駅丸の内会議室地下一階ミーティングルーム B	桑折氏・大淵氏・長谷部氏・田中氏・中井氏・村松氏
10/20	●第2回検討委員会の開催 試行調査実施の検討及び試行調査地域の検討 成果物：試行方法・試行ツール等及び試行地域の検討、決定	TKP 東京駅丸の内会議室地下一階ミーティングルーム B	委員会メンバー
10/30	第2回委員会討議に基づく試行調査方法・ツールの修正等		事務局
11/10～	試行調査の事業所及び評価調査員への実施依頼及び説明		試行調査協力依頼（10地域計80事業所程度）
12/10	試行調査ツールの配布 試行調査の開始 ・自己確認項目の取り組み ・運営推進会議メンバーへの案内 ・運営推進会議にて試行 ・試行調査実施後アンケートの提出（事業所）（評価調査員）		○試行調査実施事業所 北海道、岩手、宮城、秋田、東京、神奈川、新潟、石川、愛知、三重、和歌山、岡山、香川、愛媛、福岡、長崎、宮崎（17地域計85事業所） ○試行調査参加評価機関 15地域 18評価機関
1/10～ 2/10	○事務局ヒアリング （試行調査実施地域、実施者にて） ↓ ・実施した上での課題抽出 ・意見収集		事務局より実施事業所を10か所程度ピックアップし、メール、電話にてヒアリング
2/末	事後アンケートの実施・集計		事務局
3/12	●第3回検討委員会・第2回ワーキング部会の開催 試行結果の分析・検討、GHの認知症地域ケア拠点化に向けた協議・共創の場検討 <成果物：提言及び具体的な方法・ツールの提示>	TKP 東京駅丸の内会議室地下一階カンファレンスルーム 5	委員会メンバー、ワーキングメンバー

4. 調査研究事業体制

【検討委員会】（敬称略）

委員長	大渕 律子	佐久大学 看護学部 教授
副委員長	杉山 孝博	社会医療法人財団 石心会 川崎幸クリニック 院長
	池田 武俊	福岡県大牟田市保健福祉部 調整監
	大久保 幸積	社会福祉法人 幸清会 理事長
	桑折 由理子	宮城県大崎市社会福祉協議会 古川支所 副支所長
	田辺 孝二	東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 教授
	田部井 康夫	公益社団法人 認知症の人と家族の会 副代表理事

【ワーキング部会】（敬称略、五十音順）

井上 素子	グループホーム太陽 管理者（宮崎県）
大渕 律子	（検討委員兼任）
桑折 由理子	（検討委員兼任）
高貝 博美	NPO法人 秋田マイケアプラン研究会
田中 智子	NPO法人 中部社会福祉第三者評価センター
中井 由紀子	グループホームななかまど 管理者（神奈川県）
長谷部 一夫	NPO法人 中部社会福祉第三者評価センター
村松 伸晃	医療法人社団つくし会事務長 （東京都グループホーム協議会事務局長）

【事務局】

NPO法人 地域生活サポートセンター

Ⅱ． 試行調査

1. 試行調査経過

1) 試行調査期間

平成 27 年 12 月～平成 28 年 2 月 10 日

(本報告書は、平成 28 年 3 月 18 日までの調査回答分を対象にしている)

2) 試行調査ツール

(1) 試行ガイド (次項参照)

(2) 試行シート (5 種: 資料篇「試行シート様式」参照)

- ①「本人の暮らしの状況把握・確認シート」個票 (A-1 シート)
- ②「本人の暮らしの状況把握・確認シート」全体表 (A-2 シート)
- ③「体制と運営に関する確認シート」(B シート)
- ④「地域関係者意見・提案シート」(C シート)
- ⑤「課題改善取組シート」(D シート)

(3) 試行アンケート

- ①グループホーム事業所用アンケート票
- ②試行事業所運営推進会議参加者用アンケート票
- ③評価調査員用アンケート票

※試行事業所が実施する「運営推進会議」に、現行の外部評価機関 (調査員) が参加した場合

3) 試行調査実施概要

①依頼事業所数	85
②協力事業所数 (ユニット数)	83 95
③A-1 シート利用人数 (個票数)	783
④A-2 シート利用数 (全体表数)	97
⑤B シート利用数	95
⑥C シート利用数 (運営推進会議参加者による個票を含む)	159
⑦D シート利用数	76
⑧運営推進会議参加者数	713
⑨運営推進会議への評価調査員の参加数	23
⑩事業所アンケート回答数 (別紙「シート確認項目」に関する意見等回答数)	81 70

⑪運営推進会議参加者アンケート回答数 (運営推進会議参加者による個票を含む)	445
⑫評価機関アンケート回答数 (別紙「シート確認項目」に関する意見等回答数)	24 17

2. 試行調査方法（「試行調査ガイド」から抜粋）

1) 試行調査全体の流れ

試行は、全体として3つのステップで実施した。

	事業所（GH）における試行内容	用いるシート・ツール
ステップ1	<p>事業所内（GH）において、概ね1か月程度の間、3種のシートを用いて自己確認を行ってください。</p> <p>※確認は、管理者だけではなく、できるだけ事業所職員も加わって行ってください。</p> <p>※[A-2]は、A-1シートをもとに作成するものです。</p>	<p>[A-1シート] 本人の暮らしの状況把握・確認シート（入居者個票）</p> <p>[A-2シート] 本人の暮らしの状況把握・確認シート（入居者全体表）</p> <p>[Bシート] 体制と運営に関する確認シート</p>
ステップ2	<p>運営推進会議において、</p> <p>①本試行の目的説明を行い、自己確認シートをもとにした情報を提供し、話しあいをもとに、[Cシート]を作成してください。</p> <p>②参加者アンケートを行ってください。</p> <p>※運営推進会議開催時、可能であれば評価機関・評価調査員の参加をお願いします。（参加がなくても、試行は可能です）評価機関・評価調査員への依頼は、事務局で行います。</p>	<p>○情報提供と話しあい 記入済みの[A-2]、[B] ※[A-1]は、利用しません。</p> <p>○作成するシート [Cシート]地域関係者意見・提案シート</p> <p>○アンケート [試行アンケート]運営推進会議参加者用</p>
ステップ3	<p>運営推進会議での話しあい終了後、</p> <p>①自己確認の結果、及び運営推進会議の話しあいをもとに、[Dシート]を作成してください。</p> <p>②アンケートをご記入ください。</p>	<p>○作成するシート [Dシート]課題改善取組シート</p> <p>○アンケート [試行アンケート]事業所用</p>

試 行 終 了 後	<p>ステップ1～3終了後、 以下の各シートとアンケートを事務局までお送り願います。 ※返送方法については、9ページをご参照ください。</p> <p>①[A-1シート]、②[A-2シート]、③[Bシート]、④[Cシート]、⑤[Dシート] ⑥[試行アンケート]事業所用、⑦[試行アンケート]運営推進会議参加者用 ※[試行アンケート]評価調査員用は、事務局にて直接回収します。</p>
----------------------------------	--

2) 試行調査ツール一覧

ツール種		名 称	使用する ステップ
1	[A-1]	本人の暮らしの状況把握・確認シート <入居者個票>	ステップ1
2	[A-2]	本人の暮らしの状況把握・確認シート <入居者全体表>	
3	[B]	体制と運営に関する確認シート	
4	[C]	地域関係者意見・提案シート	ステップ2
5	[D]	課題改善取組シート	ステップ3
6	[試行アンケート]	運営推進会議参加者用	ステップ2
7	[試行アンケート]	事業所用	試行終了後
8	[試行アンケート]	評価機関調査員 (運営推進会議に評価機関調査員が参加した 場合)	試行終了後

3) 試行調査各ステップ詳細 (進め方)

ステップ1: 「A-1・2シート」「Bシート」をご参照ください

<ステップ1は、事業所内の取組です>

1. 「A-1シート: 本人の暮らしの状況把握・確認シート (入居者個票)」作成
入居者一人ひとりの本人の暮らしの状況を確認し、一人ずつシートを作成します。

本人の暮らしの状況把握・確認項目は、4区分10項目です。

※複数のユニットがある場合、1ユニット(9人)の試行でも構いません。

※恐れ入りますが「A-1シート」は、必要数コピー願います。

①各項目について、【A】～【D】4択のいずれか一つに「○」をつけます。

②各把握状況・確認項目の選択をもとに、3区分(「本人主体の暮らし」「生活の継続性」「本人が持つ力の発揮」)について、各区分の本人の変化、今できていることと今後の課題等を記述願います。

③「総合」区分(10番目の項目)については、本人の日常の暮らしの中のエピソードなどを記述願います。

区分	項目	把握・確認項目	【選択】いずれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題
			【A】充分にできている	【B】ほぼできている	【C】あまりできていない	【D】ほとんどできていない	
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	○				目頃の本人の言葉「畑は、どうなってる」「今日は雨が」から、農家の大黒柱だったこと知り、家族や地区の方から、当時の暮らしの習慣を聞いている。時々、職員が付き添いホームの周辺にある畑や田んぼを散歩する。充実感がうかがえる表情になり会話が増える。現在、かかりつけ医との相談により、外出や運動(散歩)は適度に行っているが、今後、歩行が困難な状態になっても、車イスで、畑、田んぼの「見回り散歩」が続けられる支援をしていきたい。
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている		○			
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	○				
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている		○			農家だったので、朝が早い。職員が「今日は何をしましょうか」と声をかけると、「仕事せにやあならん」と話すことが多い。部屋にはカレンダーがあり、季節の移り変わりに関心が高い。住んでいた集落には「豊年祭」があるので、一度、本人を連れていきたい。昔なじみの人に会えるかもしれない。
	5	本人は、自分のなじみのものを、大切にしているものを、身近(自主等)に持つことができている			○		
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる			○		
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができることできないこと、わかることわからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	○				当事業所には、小さな畑があり、季節の野菜を作っている。この方には、春の畑起こし、種や苗を植える時、収穫するときには、「指導」してもらっている。職員は全く経験がないので、おおいに助かっている。収穫時に、たくさん野菜を目の前にして満面の笑みを浮かべ、近所の方に配り、会話をする様子を見て、私たち職員によるこび、やりがいにもつながっており、畑での活躍を起点にした、この方のご近所づきあいをできるだけつづけていきたい。
	8	本人は、自分がいまいると過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている		○			
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている		○			
総合	10	本人は、このBHCに在ること、職員や地域の人々と頼り、安心の日々、よりよい日々をおくることができている			○		時々、大声をだしたりすることがあり、その理由をまだつかみきれていないが、散歩の際に近所の方から挨拶の言葉をかけてもらおうと、うれしそうに挨拶を返す。大家族の中で育ち、一家の主となり長い時を暮らしてきた。周囲を気遣い、時には家族を叱りながら一家を守ってきた人生を限りなく尊重し、叱られながらよりよい支援をしていきたい。

※各把握・項目、できるだけ多くの職員と話しあって選択してください。

※記述事項についても同様です。

2. 「A-2シート：本人の暮らしの状況把握・確認シート（全体表）」作成

「1」で作成した、一人ひとりの「A-1シート（個票）」をもとに、
「A-2シート（全体表）」を作成します。

①ひとり一人の個票で選択した（○付けた）【A】～【D】を①～⑨の欄に記入します。

区分	項番	把握・確認項目	選択しつれがに○をつける			
			【A】十分に できている	【B】ほぼ できている	【C】あまり できていない	【D】ほとんど できていない
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	○			
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています		○		
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもちに、ケア・支援を受けることができています	○			
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています		○		
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができています			○	
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができています			○	
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	○			
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています		○		
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています		○		
総合	10	本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています		○		

**A-1シート
（個票）**

【A】十分にできている
【B】ほぼできている
【C】あまりできていない
【D】ほとんどできていない

全体表の記入欄は、9人分（1ユニット）あります（①～⑨の欄）。

区分	項番	把握・確認項目	記入欄	
			①	②
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A	
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもちに、ケア・支援を受けることができています	A	
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	B	
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができています	C	
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができています	C	
残存機能の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A	
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	B	
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	B	
総合	10	本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	B	

**A-2シート
（全体表）**

②ひとり一人の個票の記述を踏まえ、入居者ひとり一人のよりよい暮らしに向けて、現時点で、できていること、今後、事業所として取り組んで行きたい課題を、最下段に記入してください

3. 「Bシート：体制と運営に関する確認シート」作成

体制と運営に関する確認項目は、9区分22項目です。

- ①各項目について、【A】～【D】4択のいずれか一つに「○」をつけます。
- ②区分ごとに「サービスの質の確保・向上に向けて、現時点で、できていること、課題と考えていること」を記述してください。

区分	項番	把握・確認項目	① 【選択】いずれかに○をつける				② 【記述事項】 サービスの質の確保・向上に向けて、 現時点で、できていること、課題と考えていること
			【A】充分にできている	【B】ほぼできている	【C】あまりできていない	【D】ほとんどできていない	
環境 人格の尊重	1	共用空間は、不快な刺激に配慮し、家庭的な居心地のよさに配慮している					
	2	利用者の誇りやプライバシーを尊重して関わっている。適切な個人情報管理が行われている					
	3	身体拘束(日中の玄関施設等含む)について学んでおり、拘束のない暮らしを実現している					
基本的な生活支援	4	職員は、虐待にあたる行為を理解している。代表者・管理者は、虐待や不適切なケアの防止策を講じている					
	5	利用者の気持ちや体調の変化を把握、記録し、職員間で共有している					
	6	利用者、家族等、職員チームで話し合い、現状に則した介護計画を作成している					
	7	利用者の状況にあわせて、食事、入浴、排泄、整容、睡眠、外出等の日常生活行為を支援している					

※各把握・項目は、できるだけ多くの職員と話しあって、選択・記述してください。

ステップ2：「A-2シート」「Bシート」「Cシート」をご参照ください。

＜ステップ2は、運営推進会議での取り組みです＞

1. 「A-2シート：本人の暮らしの状況把握・確認シート（入居者個票）」

及び、「Bシート：運営と体制に関する確認シート」を運営推進会議に提示し、事業所の入居者の状況、運営と体制に関する事柄を説明、情報提供します。

2. 運営推進会議において、「Cシート：地域関係者意見・提案シート」作成します。

地域関係者の意見・提案項目は、10区分12項目です。

①各項目について、【A】～【D】4択の選択人数を記入します。

②各項目について、「選択した理由・意見」「今後のGH運営、地域連携推進への提案」を記述してください。

※当日メモを取り、後日シートに記入する方法でもかまいません。

①

②

区分	項番	把握・確認項目	【選択】人数を記入				【記述事項】 選択した理由・意見	【記述事項】 今後のGH運営、地域連携推進への提案
			【A】よく できている	【B】 できている	【C】いくつかの 改善が必要	【D】大幅な改 善が必要		
環境	1	このグループホームでは、共用生活空間は、家庭的で居心地のよいものになっていますか	3	5	1	1		
本人主体	2	このグループホームでは、本人の意向に沿った暮らしができていますか	5	4	1	0		
継続性	3	このグループホームでは、本人のこれまでの暮らしの習慣にあった生活ができていますか	4	4	2	0		
力の活用	4	このグループホームでは、本人の役割があり、楽しみを行うことができますか	2	5	3			

3. 運営推進会議の参加者に「試行アンケート（運営推進会議参加者用）」の記入を依頼し、アンケート票の回収をお願いします。

※恐れ入りますが、アンケート票は、必要数コピー願います。アンケートは「事業所用」とは内容が異なりますのでご注意ください。

試行アンケート <運営推進会議参加者用>			
1. お名前			
2. 運営推進会議参加時の立場			
3. 運営推進会議への参加状況	今年度	回	これまでの通算参加回数
I. 事業所との日頃の関わりについて			
問1. 日頃、この事業所(グループホーム)を訪問したり、職員や利用者の方と交流する機会はありますか。(運営推進会議への参加以外で)			
a 週に2回以上	b 週に1回	c 月に2~3回	
d 月に1回程度	e 2~3ヶ月に1回程度	f ほとんどない	
問2. この事業所(グループホーム)が行っている催事や訓練、地域交流の取組みに協力したり、参加したことはありますか。(運営推進会議への参加以外で)			
a 協力したことがある(具体的に:			

ステップ3：「A-2シート」「Bシート」「Cシート」「Dシート」を
ご参照ください。

＜ステップ3は、運営推進会議後の取り組みです＞

1. 「A-2シート：本人の暮らしの状況把握・確認シート（入居者個票）」

及び、「Bシート：運営と体制に関する確認シート」「Cシート：地域関係者意見・提案シート」の内容を踏まえて、「Dシート：課題改善取組シート」を作成します。

※Dシートは、「前回」「今回」が1枚のシートになっています。今回の試行では、右側の部分を使用してください。（左側部分をご記入いただいても差支えはありません）

「本人の暮らしの状況把握」「体制と運営」「地域関係者からの意見・提案」のそれぞれの面からの「課題・改善点」→「取組計画」→「優先度の高い取組み」「取組みを行っていく上で、地域等から助力・強力を得たいこと」を記述します。

			D
今回（○年○月）の課題と改善についての取組計画			
	本人の暮らしの状況把握	体制と運営	地域関係者からの意見・提案
今回の課題・改善点			
課題・改善点への取組計画			

試行終了後

1. 「試行アンケート（事業所用）」の記入をお願いします。
2. 試行に用いた、各シート及びアンケート（運営推進会議用・事業者用）を事務局あてにお送りください。

※送付物については、別紙「試行調査回答事項及びツール確認票」をご記入の上、各シート・アンケート票に添えてお送りいただくようお願いいたします。

4) ツール類（各シート・アンケート票）の返送

○A-1シートの返送は任意です。

お送りいただく際には、ファイル（メール添付）、郵送のいずれかでお願いいたします。（利用者名など個人情報は削除してください。個人情報保護にご留意ください）

○A-2、B、C、Dの各シートは、必ずご返送ください。

お送りいただく際には、ファイル（メール添付）、FAX、郵送のいずれかでお願いいたします。

○アンケート票（事業所用・運営推進会議参加者用）及び、アンケート別紙1～3については、必ずご返送ください。

お送りいただく際には、ファイル（メール添付）、FAX、郵送のいずれかでお願いいたします。

3. 試行調査結果

1) グループホーム事業所アンケート結果（対象回答数：83事業所）

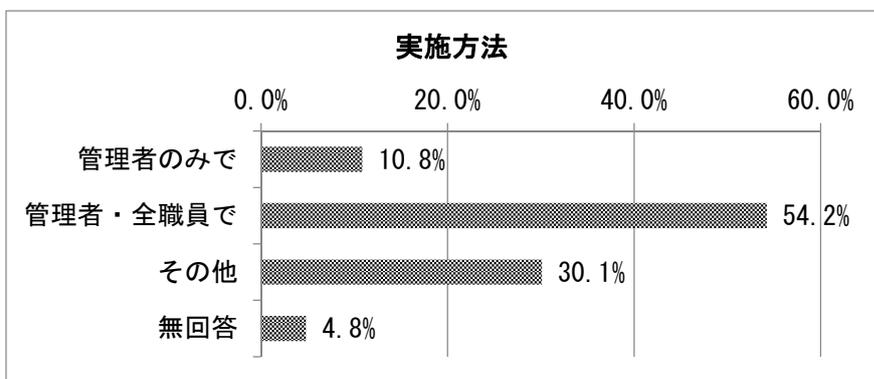
(1) 試行に対する主な意見

効果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域や家族に、本人本位の認知症ケアや事業所の状況を理解してもらえる。 ➤ 運営推進会議の参加者は、事業所との継続的な関わりの中で入居者の生活の様子を知っており、それらを深める機会となる。 ➤ 個別の入居者に着眼した点検が可能になる。 ➤ 個別の入居者に眼を向けると、出来てないことや今後の課題が見えてくる。 ➤ Aシートが非常に役に立つ。 ➤ 時間的な効率化が図られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 運営推進会議参加者は入居者の日常の様子が分からないので、事業所の自己評価に対して意見を出し難い、分からない。 ➤ 事業所は、個人情報に配慮しながら、個別の入居者の状況を説明するのが難しい。 ➤ 所要時間や求めている内容が難しく、運営推進会議参加者の負担が重過ぎる。
改善にむけた提案	現行外部評価との比較
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 本人や家族の声をより多く聞けるしくみが必要 ➤ 運営推進会議の所要時間を長く（2時間程度）する ➤ 項目ごとに現状と課題の記述欄を挿入する ➤ 運営推進会議参加者が答えられる項目、答えられない項目に分けて実施する ➤ 運営推進会議参加者に依頼するためのガイドラインの作成や研修 ➤ 地域を巻き込んだ評価が可能となるよう、事業所と地域との関係づくりに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 外部評価は形式的に見ていくが、運営推進会議参加者は継続的に全体を見ることが出来る。 ➤ 運営推進会議参加者は感想的な意見しか出ないが、外部評価調査員は、アドバイスや客観的な評価が可能。
	その他
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域特性に応じた事業所運営を目指していくことが重要 ➤ 運営推進会議は、今後もっと意義のあるものにする必要がある ➤ 利用者のよりよい暮らしを守るために、外部者の視点が重要 ➤ 身体的な重度化が進む中、地域とのつながりで生活の質が向上するという視点に違和感がある ➤ 運営推進会議で評価を行うことで、事業所運営が地域に根差したものとなる

(2) アンケート結果詳細

①「本人の暮らしの把握・確認シート（A-1/A-2シート）」、「体制と運営に関する確認シート（Bシート）」の実施について

○試行調査は管理者・全職員で取り組んだ事業者が 54.2%であった。その他には看護師や計画作成担当者等の一部の職員が管理者とともに取り組んだという回答がみられた。



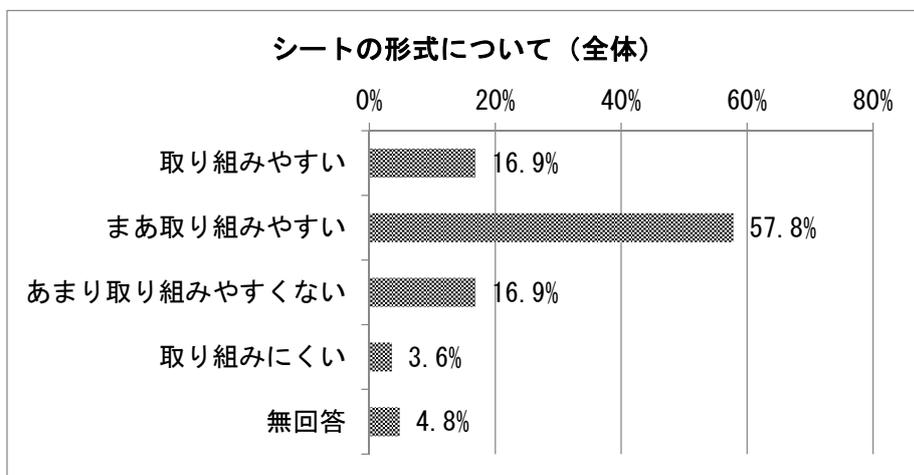
管理者のみで	管理者・全職員で	その他	無回答	合計
9	45	25	4	83
10.8%	54.2%	30.1%	4.8%	100%

○時間数（回答数 71）：平均 12.1 時間（最大 80 時間、最少 1 時間）

②項目案及び記入様式について

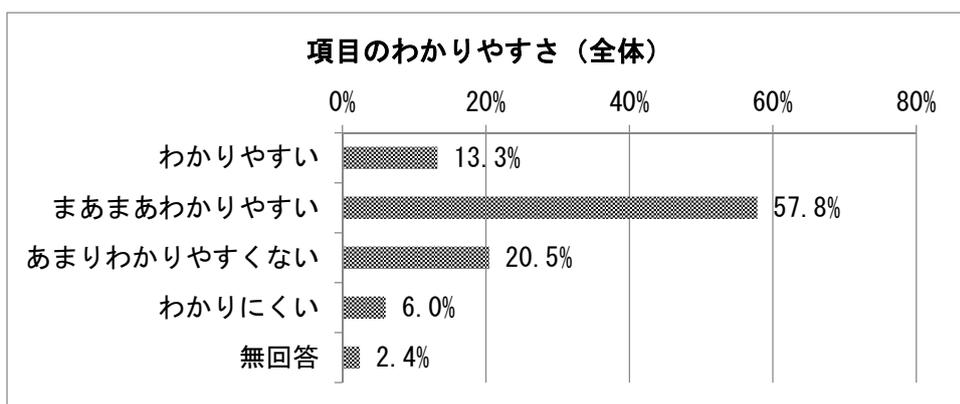
○シートの形式については 74.7%、項目のわかりやすさについては 71.1%の事業所で肯定的な回答がみられた。項目数については、68.7%が「適当」、22.9%が「やや多い」であった。記入のしやすさについては、67.5%の事業所で肯定的な回答がみられた

<シートの形式>



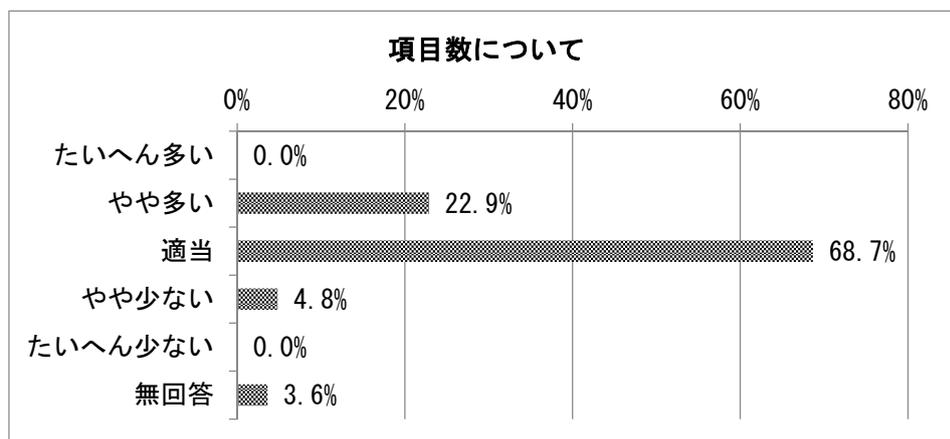
取り組みやすい	まあ取り組みやすい	あまり取り組みやすすくない	取り組みにくい	無回答	合計
14	48	14	3	4	83
16.9%	57.8%	16.9%	3.6%	4.8%	100.0%

<項目のわかりやすさ>



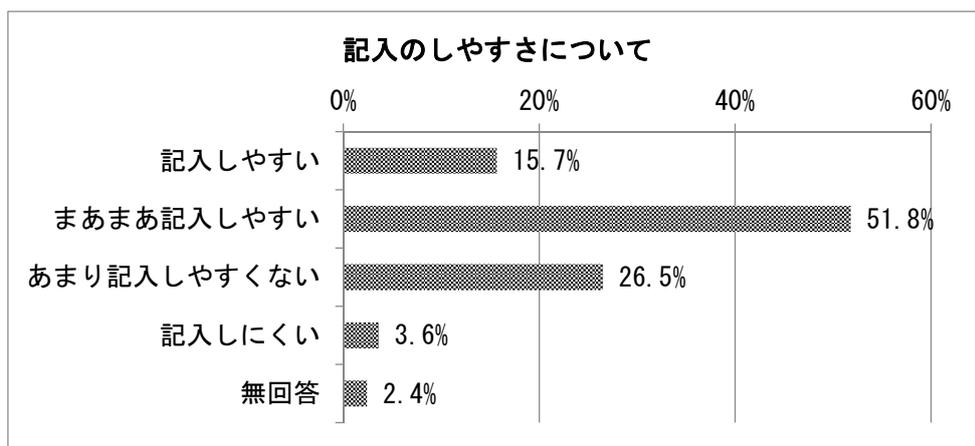
わかりやすい	まあまあわかりやすい	あまりわかりやすすくない	わかりにくい	無回答	合計
11	48	17	5	2	83
13.3%	57.8%	20.5%	6.0%	2.4%	100.0%

<項目数について>



たいへん多い	やや多い	適当	やや少ない	たいへん少ない	無回答	合計
0	19	57	4	0	3	83
0.0%	22.9%	68.7%	4.8%	0.0%	3.6%	100.0%

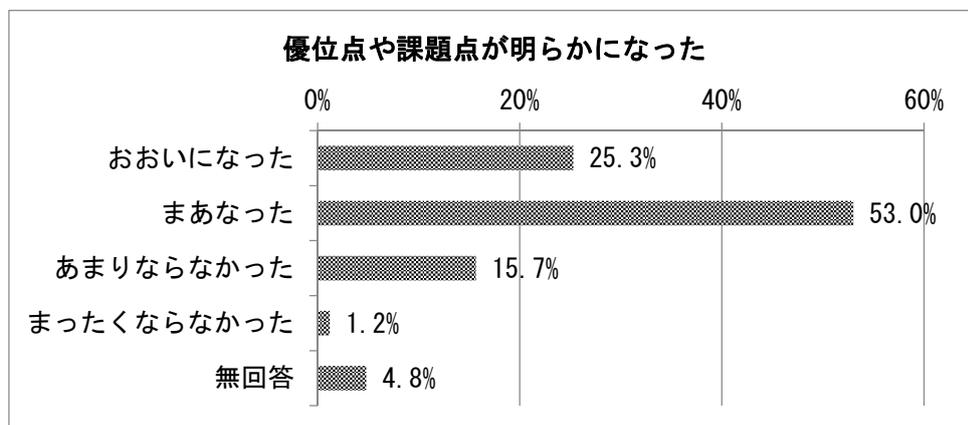
<記入のしやすさについて>



記入しやすい	まあまあ記入しやすい	あまり記入しやしくない	記入しにくい	無回答	合計
13	43	22	3	2	83
15.7%	51.8%	26.5%	3.6%	2.4%	100.0%

③「本人の暮らしの把握・確認シート（A-1/A-2シート）」、「体制と運営に関する確認シート（Bシート）」に取り組んだことで、優位点、課題点が明らかになったか

○優位点や課題点については、78.3%の事業所で肯定的な回答がみられた。



おおいになった	まあなった	あまりならなかった	まったくならなかった	無回答	合計
21	44	13	1	4	83
25.3%	53.0%	15.7%	1.2%	4.8%	100.0%

④運営推進会議での「地域関係者意見・提案」の試行について

<運営推進会議の参加者>

○運営推進会議の出席者は事業所により多様であったが、地域住民・団体が91.6%、利用者家族が80.7%、地域包括支援センターの職員が67.5%の事業所で参加がみられた。外部評価調査員についても、39.8%の事業所で参加がみられた。

	市町村職員	地域包括職員	地域住民・団体	利用者	利用者家族	近隣事業所職員	事業所職員	外部評価調査員	その他
0人	32	27	7	65	16	65	8	50	0
1人	49	54	14	6	36	6	5	29	10
2人以上	2	2	62	12	31	12	70	4	3
合計	83	83	83	83	83	83	83	83	13

※その他は回答があった13事業所のみ集計

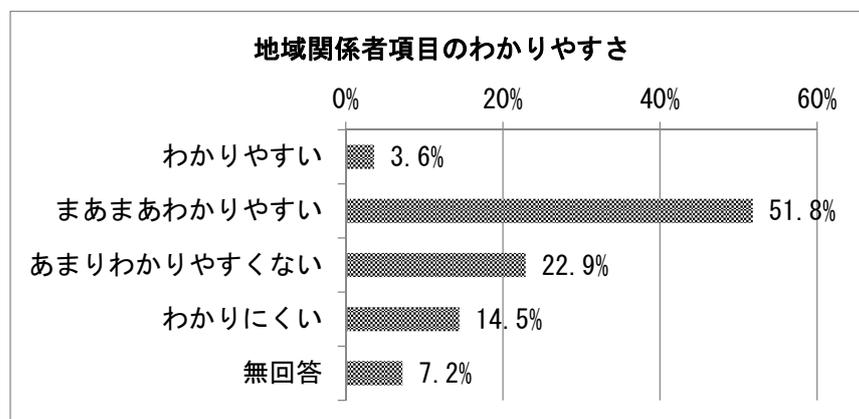
<運営推進会議で今回の試行に要した時間>

○平均：1.5時間（最大 6.8時間 最少 0.5時間）

（2回の運営推進会議で行ったケース、資料を事前配布したケースあり）

<地域関係者項目(Cシート)のわかりやすさ>

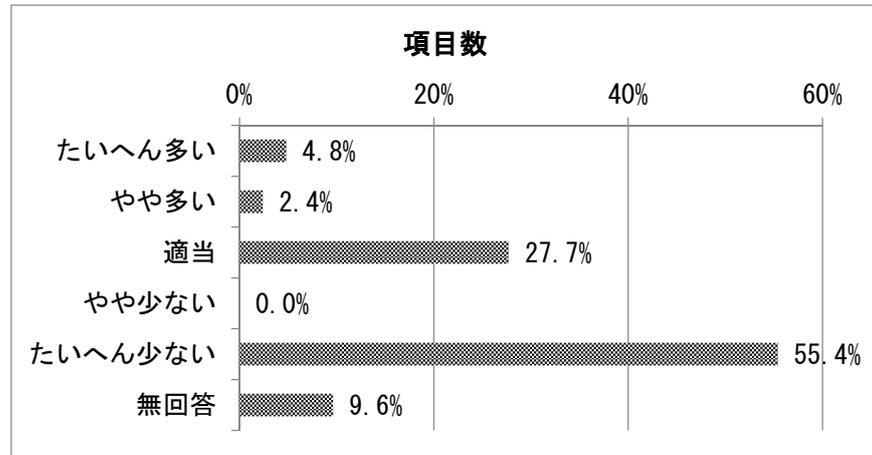
○地域関係者項目の分かりやすさについては、55.4%の事業所で肯定的な回答がみられた。



わかりやすい	まあまあわかりやすい	あまりわかりやすすくない	わかりにくい	無回答	合計
3	43	19	12	6	83
3.6%	51.8%	22.9%	14.5%	7.2%	100%

<項目数について>

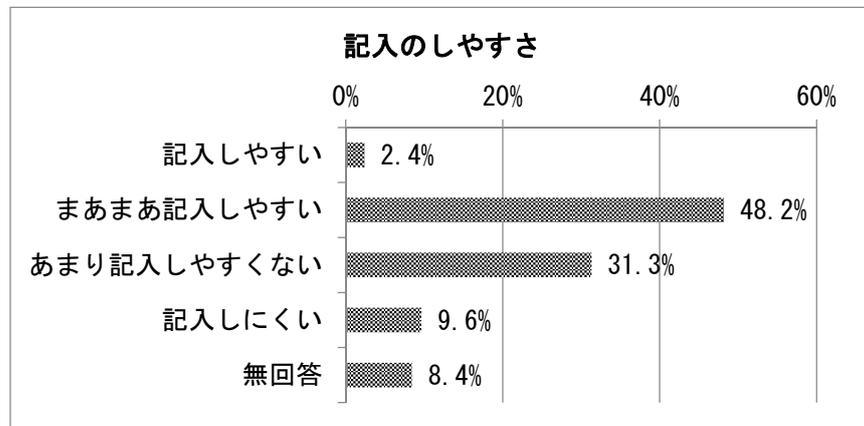
○項目数については、「たいへん少ない」が55.4%と最も高い割合であった



たいへん多い	やや多い	適当	やや少ない	たいへん少ない	無回答	合計
4	2	23	0	46	8	83
4.8%	2.4%	27.7%	0.0%	55.4%	9.6%	100.0%

<記入しやすさについて>

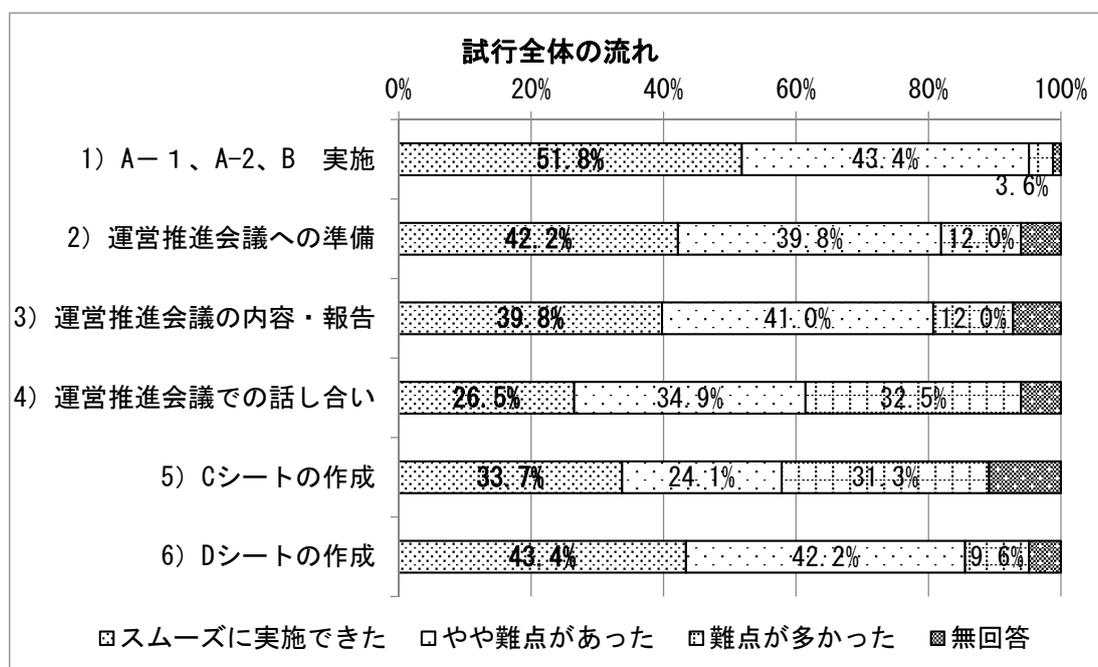
○記入しやすさについては、50.6%の事業所で肯定的な回答がみられた。



記入しやすい	まあまあ記入しやすい	あまり記入しにくい	記入しにくい	無回答	合計
2	40	26	8	7	83
2.4%	48.2%	31.3%	9.6%	8.4%	100%

⑤今回の試行全体の流れについて

○項目ごとに「スムーズに実施できた」という割合が異なるが、「A-1、A-2、B 実施」では51.8%、「Dシートの作成」では43.4%、「運営推進会議への準備」では42.2%の事業所から「スムーズに実施できた」との回答がみられた。一方、「運営推進会議での話し合い」では、32.5%の事業所で「難点が多かった」との回答がみられた。



	スムーズに実施できた	やや難点があった	難点が多かった	無回答	合計
1)A-1、A-2、B 実施	51.8%	43.4%	3.6%	1.2%	100%
2)運営推進会議への準備	42.2%	39.8%	12.0%	6.0%	100%
3)運営推進会議の内容・報告	39.8%	41.0%	12.0%	7.2%	100%
4)運営推進会議での話し合い	26.5%	34.9%	32.5%	6.0%	100%
5)Cシートの作成	33.7%	24.1%	31.3%	10.8%	100%
6)Dシートの作成	43.4%	42.2%	9.6%	4.8%	100%

<1) A-1、A-2、B実施（シート利用）に関する主な意見>

- 意思表示ができない方の判断基準が難しかった。
- 当たり前のことをやっていると分かった。
- 外部評価の時もそうだが、この質問の意図・意義が分からない質問がある。
- 判断基準や問われている項目について職員での摺合せが必要でとらえ方が変われば評価が変わる可能性がある。
- 利用者の変化等、どの程度書けばよいか悩んだ。
- 質問の表現（内容）について戸惑うものがあった。

- 「本人の状況」は受け持っている入居者の担当介護職員にそれぞれ思いつく内容を記入してもらってからの作業にしたのが良かった。体制に関しては日頃より心がけている事なので問題なく対応。
- 「本人の状況」については入居者の細部まで、理解していないと判断の出来ない項目が大半であると思う。
- 職員の視点・利用者の視点で交錯して迷う。本当の本人気持ちの把握に疑問を感じた。
- 職員が具体的に考えるには、具体的な内容が必要ではないか。視点はその通りだと考えるが、言葉だけだと焦点がわかりづらくなるように思う。この用紙を日頃のケアの振り返りにも使えると思うので、チェック項目を設けるなどして考えるツールにならないか。
- ご本人からの意見を聴き出す事が困難（特に重度の方）。
- A-1シート<入居者個票>は、ADLの状態が記入できればより良いと思います。
- 基準が分かりにくく、記入者のイメージに左右されやすい。
- 利用者一人ひとりに視点をあて振り返ることができ、現状の把握と今後の課題が個別に明確になった。もう少し時間をかけて行いたかった。
- 外部評価では個別に評価することがないので改めて気づかされることもあり良かった。
- 全職員で記入した場合はもっと違う内容になっていたと感じる。
- 難しそうで、取りかかりにくかったのですが、やってみたら、難しくなく分かりやすかったです
- 確認、実施によって職員同士で意見交換がスムーズにできた。
- 定期的に行うことでアセスメントとして職員間の共通認識ができるし、新たな面を発見することができる。
- 書面等で説明するだけでなく、実際の現場での状況確認が必要と思う
- 利用者視点で考えることが難しい。スタッフの自己満足になり兼ねない。
- 利用者一人ひとりの状況把握を振り返ることが出来て、とても良かった。

<2) 運営推進会議の準備に関する主な意見>

- 判断に必要な書類を十分に準備できなかった。
- 事前準備が丁寧に行えないとスムーズな会議の開催につながらない。
- 試行ガイドだけでは理解しにくかった。趣旨や目的を伝えるのに難しさがあった。
- 資料の準備は間に合えており、当日、評価調査員の参加をいただいたので説明を含めスムーズに理解していただけるような運びができた。
- 事前に項目ごとに内容を記載した資料を配布していたことでスムーズに実施が出来た。
- 事業所側が内容を理解できず、準備が上手くできなかった。
- 委員の方への周知不足であった。突然話しても理解してもらえないと感じました。
- 資料を配布して説明すればよいので、特に問題はなかった。
- 小規模多機能居宅介護でのノウハウがあったため円滑に進んだ。
- 参加者へCシートの12項目の内容を事前に説明し郵送などで送り、理解したうえで記入をしてもらえるように工夫した（事前に内容の把握・理解をもらう為）。

○運営推進委員の方に、利用者の生活歴や希望等を周知できていなかったため、評価が難しかった。

○どのくらい時間を要するか見当がつかず、出席をお願いする時に困った。

○毎回、参加する人がまちまちで伝達が難しい。

○コピーの枚数が多かった。同じ様な用紙が多く色づけをして違いを示した。

○従来のもとの違うため、事前説明は必要であったが、比較的スムーズに実施出来た

○資料を当日配布したが、事前に配布した方が、参加者が内容の把握、熟考することができたと思われる。

○専門用語ではなく誰にでもわかる言葉で記入できればよかった。

○A-2のみでの判断は、出来ないと推測。A-1も配った為、一回の開催で200枚を超えるボリュームになった。

<3> 運営推進会議の内容・報告に関しての主な意見>

○きちんと理解してもらうのに、個人差があり時間がかかる。

○運営推進会議が長時間にならないように説明は要点を絞って報告をしたが、十分には伝えきれなかった。

○事業所としてはきちんと説明したつもりだが、推進委員からの質問、疑問が全く出なかった。

○資料に基づき、説明を行うため、スムーズに進行は出来たが、質問や相手の理解度を確認する等の時間の確保が、現状の運営推進会議内で終わらせようとするのが難しい・不十分ではと感じた。

○A-2とBシートだけ、利用者の状況を把握してもらうのは難しかった。

○本人の説明をするのに個人情報と言われるのもあり、家族の前で説明するのが好まない家族もあるのではないかな。

○シートのみでの自己評価の説明なので、施設見学や資料の確認作業などがあれば評価の具体性が上がるのではないかな。

○運営推進会議出席者がご入居者との関わりが少なかったため、やや難点があった。

○A・Bシートは説明のうえで参加者に提示し、読み上げて全員が情報を共有できるようにしました。

○意見交換の前に「本人の状況」「体制」について事前に説明できる機会をもてたため、スムーズに意見交換ができた。

○18人全員の情報を伝えなくてはならず説明が難しかった。

○項目ごとに説明したが、記述欄はひと枠なので、高等の説明と文面が照合できずに聞きづらいだろうと感じた。捉え方がそれぞれなので、十分に伝えられない面が多い。

○地域の方は利用者を知らないなので、状況説明は理解されるも意見は述べず。

○本人・家族様が参加されている場合に困惑する。

○口頭での報告の際にも専門用語ではなく誰にでも理解できる言葉を使用した方がいい。

- 評価機関の方の進行により、スムーズに実施できた。
- A-1シートを配布し委員に見てもらった後A-2シートの説明に移った方が理解し易いと感じた。
- A-2シートのみだと、本人知らない方たちへの伝達が難しく、今回A-1シートから配り、説明。把握したのち、後日回収にまわった。Bシートについては、職員行っていることの為、説明しやすい

<4) 運営推進会議での話しあいに関しての主な意見>

- 参加者は、どのような意見・提案をしたらよいかわからない様子で、事業者から誘導するような形になっていたと感じる。
- 2、3、4、5、9、10、11、12番は地域の方には評価できない。「解らない」という意見が多かった。
- 遠慮なく意見を言って頂けるのが、気になる。参加者の構成の検討が必要（専門的知識のある方、家族・地域の方の参加を増やす等）。
- 話の進め方が悪かったのか、提案というまでの意見を拾えなかった。
- 各々の立場によって実情がわからない項目もあり、答えていただく時に「わからない」にも挙手してもらう事にした。
- 運営推進会議では、時間が限られており、十分な話し合いが行えない。
- 事業所側の報告からしか、判断できず地域関係者自身がどれだけ、日頃から情報を共有しているかが問われる。
- 屈託なく意見を出していただけるように工夫したがご参加者によっては評価基準の見当がつかない項目もあり選択に困難していた。
- 事前に項目ごとに内容を記載した資料を配布していたことでスムーズに実施が出来た。
- 参加者は現場を見ていないので不明な点が多い。
- 事業所の理解、把握、実施していることは理解できているが、提案・意見があまり出てこない。
- メンバーの立場の違いから様々な意見が出され大変有意義な会議となった
- 事前にシートを確認、記入してもらっていた事で参加者は質問の意味を理解できており、当日は意見交換を踏まえて各自がシートを修正するなど納得しながら円滑に進むことができた。
- 実際に利用者とは接していないため、回答できない、との意見がみられた。
- ホームで暮らす方々の想いや家族の気持ちまでは分からないと言われる方が多い。家族の意見をお聞きするシートがあっても良いかと思う。
- 現状の説明が不十分なため、現状が分からないと共に、評価の基準が分からないとの意見があった。
- 福祉を生業としない人にとっては、項目が意図することや判断基準がわかりにくい。理

由・意見・提案が区別されにくい。”

- 質問が難しかったり、知らないことだったりと答えることができない項目が多かったため、意見や提案をいただくことが困難だ。
- 入居者の事が解らないのに話し合いは出来ないと言われた。
- 情報量が少ないためか、活発な意見は無かった
- 紙を渡しての記入になってしまったが、意見をしっかり書いて下さっていたので参考になりました。
- 今回はユニット毎に分かれて行ったが、もう少し数回にわけて、時間が取れば皆さんももっと理解されたと思う。

<5) 「Cシート」の作成」 関しての主な意見>

- 今回、時間が無かった事もあり地域関係者は運営推進会議に参加されている方のみとなったが、関係している方達にも配れると良かったと感じた。
- 地域の方から質問の意味が分かりにくいと言われ、意味を説明、話し合うのに時間がかかった。
- 人数で記入する事は分かり易い。
- 【A～D】の評価だが、解らないEが無い。
- 報告での納得や検討は得られたが、課題や連携推進への提案は殆ど頂けなかった。
- 事前に配布して、当日にお持ち頂いたので、会議中の意見と記載して下さった意見をまとめた。
- 事業所側の報告からしか、判断できず地域関係者自身がどれだけ、日頃から情報を共有しているかが問われる。
- 運営推進会議で行うことの必要性を感じない。又、内容が事業所にしか判断できないのではないか。
- Cシートを渡し、実際に記入していただいた（記載する時間を20分）。
- 実際のケア場面を見ないと判断が出来ないことや、本人に聞いてみないと分からない項目があり戸惑ったとの意見があった。
- 項目は良かったと思いますが、記述欄のスペースが少なく感じました。【選択】欄は狭くても【記述】欄を広く調整をすると書きやすいと思う。
- 意見交換の前にシートを配布して意見、提案をお願いしていたため作成しやすかった。
- 立場によって選択や判断ができるものと、そうでないものがあった。選択の理由が出なかった。
- 地域住民という運営推進員の方には内容と評価が難しく、意見もわからないという意見が多かった。評価にはそれなりの知識が必要だと思う。
- 提案自体が少なかったため作成に手間取ってしまった。
- 会議当日にシートを記入してもらうことで、時間を要しその場での記入も難しく、持ち帰り後日提出して頂いた方が5人中4名いた。
- 「わからない」という意見が多かった。

- 関わって頂いている度合によって、受け止め方や理解に差があるように思われる。
- 記述事項が、ほとんど記入されていなかった
- 毎回の会議で事業所の取り組みその他を報告していたが、参加者には伝わっていないことも多く、会議での報告の工夫の仕方も課題となる。
- 職員の自己評価を参考に記入した委員が多かった
- そんなにがんばらせること自体が働いている職員のストレスになる、と、職員をいたわる声は複数あり、利用者を思う声より、職員を思う声が多く出たのに驚いた。
- 言葉では話せるが、書くのは難しいとのこと
- 話し合った内容を記載しているので特に難点は無かった
- 記入するための判断基準が難しいとの意見が多数のため、実施することが困難だった
- 資料を基に検討する時間が短く感じた。特に、地域住民参加者にとって専門用語が多用されたり、事業所の取り組みにわからないことがあり負担となった。
- チェック項目のみの記入しかなく、議事録から作成した
- 表面的な話や報告、家族の話などから推測するしかないので、書けないという委員の意見もあった。

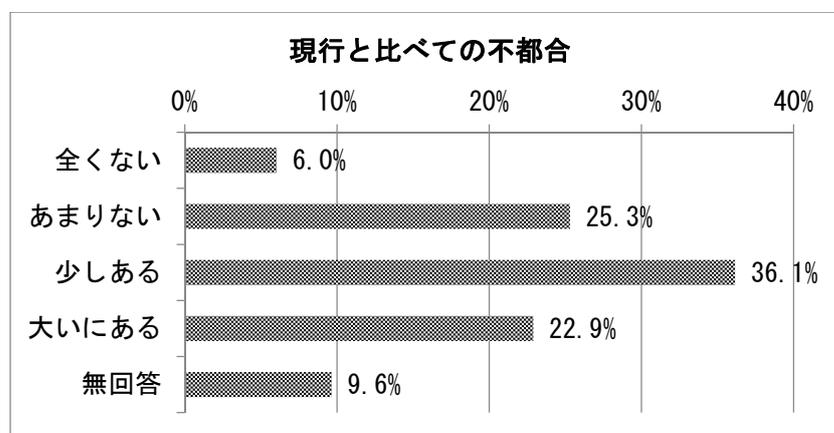
<6> 「D シートの作成」 関しての主な意見>

- この段階でここまで作成するのは困難であった。全職員や地域の方々と相談しながらできることを模索して協力し達成していくのではないかな。
- 課題が同じになりやすい。書き方が分かり難い。
- A－1 個別の課題で本人の思い通りにとらえると課題となることを見つけにくい。
- 従来のやり方が、改善点を見出しやすい気がしました。(従来の形に慣れた影響もありますが・・・)
- A・B・Cそれぞれの項目で、整理しやすかった。
- Aシート、Bシートを使用することで課題が明確になった。
- 判断基準が分かりづらかった。縦にリンクするのか横にリンクするのか調査ガイドに詳しい説明が欲しい。
- 記入者が記入方法の理解が出来ず、まとめるのが難しかった。
- Bシートと内容重なり混乱して記入に困った。
- 書き方に悩んだ。とりあえず、一点を掲げたが、項目毎に必要なのか？指摘事項にもよるのか？
- 項目で分かりにくい所があった。優先度が高い取組という部分が分かりにくい。どういった事を記入した方が良いのか不明（複数あった場合か？）
- 「今回の課題改善点」を抽出するが、A－2、B、Cシートそれぞれが共通の表現(文言)であれば抽出しやすい。
- 全体を通して作成するのであれば情報量が多すぎて難しく感じたかと思うが、項目ごとに作成する事が出来たため難しく感じる事はなかった。
- 課題と改善点が多くあるが、すべて書き出すのは難しかった。

- 計画作成担当者の2名と一緒に検討・作成した。具体的にどうしたら良いかを拾うことができた。
- 記載例があれば参考に出来たと思います。
- 地域関係者へグループホームの全てを伝えることが出来ず、運営推進会議での内容というより自己評価の内容のみでの作成となってしまった。
- A～Cシートの項目では「できていること」と「課題」が混在しており、Dシートへまとめる際にまとめにくかった。
- Dシートには優先順位の高い項目をまとめたため、優先順位の高い事項の項目は不要だと思った。
- A、Bシートをもとに作成できた。
- 本人の意向等について現実的に評価する事への視点等について現実的に評価する事が難しいと感じられました。
- 外部評価と違い、実際の支援内容など話し合う時間もあまりないので明確化はしにくかった。
- 普段から気づいていた事だったが、課題点が明確になった。
- Cシートの作成が困難だったため運営推進会議での意見交換から作成した。
- それぞれの職員で、スムーズに記入できた。
- A-1シート作成時、職員のレベル、ものの見方、理解力など、別の方面から見ることができ、指導の役に立った。
- 良い提案や、まだ出来ることも見つけられた為、書きやすかった。

⑥ 現行の評価機関による外部評価と比べて不都合を感じたこと

○ 現行と比べての不都合については、「少しある」が36.1%と最も高く、次いで「あまりない」が25.3%であった。



全くない	あまりない	少しある	大いにある	無回答	合計
5	21	30	19	8	83
6.0%	25.3%	36.1%	22.9%	9.6%	100.0%

< 「全くない」と回答した理由（主な回答） >

- 外部評価と違い、顔見知りの方から評価、意見を頂くので、より真摯に受け止めようと感じる。
- 果たして本音で話せているのだろうか？疑問を感じる。
- ユニット全体で取り組むことにより、現在の課題が浮き彫りになり、改善点が明確化しました。こういった問題点を地域の方や市職員と一緒に検討することで、より具体的な改善案を見出すことができ、積極的な意見を聞くことが出来たと思います。地域密着型の事業として、地域の方から意見を頂ける良い機会となった。

< 「あまりない」と回答した理由（主な回答） >

- ホームの取り組みや入居者の状況を説明することで、より事業所の状況を理解していただくことに役立つと感じた。参加者からも自己評価の説明を聞いて、理解が深まったという感想があった。一方、運営推進会議委員にとっては、事業所に対して批判的な評価は伝えにくいのではないかと感じた。
- 現行の外部評価と比べ、自己評価の項目が大分少なくなった為、取り組み時間が短縮されると思う。
- 利用者自身の生活の動きを続けていくために見抜くポイントを改めて感じ、意識していくことへ繋がる部分が多い。また、社会全体が知り得たいことと施設側がアピール、打ち出せる部分とが同様となる為に求められている部分に対して近づいたものとなると思う。

- グループホーム事業者、運営推進会議参加者（本人、家族以外）、外部評価機関にかかわっている人々が、それぞれの立場として（義務付けられたものとして）自己満足しているだけで、利用者（本人、家族）の本当の思い、訴えを掘り下げる手段としては、成りえていないと思う。
- 毎年の外部評価では、評価員個人の主観が入っていると感じていた。他の事業所では、このようにしていましたが、ここでは、どうしてできないのですかとか、できなければ介護のしかたが悪いといたいのでしょうか。介護度が上がってくる利用者に対して出来る事はしていると思っておりますが、どうしても限られてきてしまうと感じています。悪い現状維持なら指摘されてもしかたありませんが、こちらで考えていることを頭から否定されるような評価なら、されなくてもいいと思ってしまう。何のための評価なのか、毎回わからなくなります。義務であり、かなりの支出も伴っているのに本当に受けてよかったと思える外部評価にはなっていないと感じていました。努力がすべての結果に出るとは思えませんし、その努力を認めてもらえるようであってほしいと思います。
- 運営推進会議開催時、詳細について説明・報告している為、内容面について、理解されているので問題はなかったと思われる。
- 評価項目が削減され、書類作成の時間は短縮になったと思う。ポイントが絞られ、取り組み側としても取り組みやすいと思われる。
- 事業所で取りまとめたA-2、Bシートに関して運営推進会議のメンバーからは、事業所運営については立ち入った事なので、事業所が評価したものに対して意見を出すことは難しいし、出しづらいとの意見があった。
- 外部評価調査員が行う外部評価より、今回のように運営にずっと関わりをもっている運営推進会議の委員からこのような項目で評価を受ける方が、施設のためになるように感じた。
- 事前の準備（Aシートの作成や参加者への事前説明など）を計画的にしっかりと行うことが必須。それにより参加者が情報を共有しながら円滑に進めることができる。項目が分かりやすい区分になっている事や、本人の立場で考えられるような記述になっているので、本人本位、認知症介護で大切なことを地域や家族に理解してもらえる。もう少し短時間で進行できる工夫。
- 現行のものと違い、利用者本位に評価が出来たと思われる。利用者一人一人に目を向けると、出来ていないことも多くあり、今後の課題が見えてきました。また運営推進会議メンバーは会議時のみ来所される方がほとんどで、ホームの中身が見れていない。今回は家族の出席はなかったが、家族様でも分かりにくいと思われる。
- 外部評価であると評価の性質上、形式的に見ていくところがあるが、運営推進会議の参加者では、継続的に訪問機会があるので入居者の日常生活の様子を全体的に理解している。
- 運営推進メンバーに外部評価のようなことをしてもらおうのは少し戸惑ったが、日頃から交流がある方々にしてもらえたのは心強く、自信につながる。反面、評価機関

でない為、評価が甘くなるのではないかと思う。

< 「少しある」と回答した理由（主な回答） >

- 運営推進会議の人がGHでの生活の様子をイメージできていないと答えられない。実際に関わっている入居者のご家族の声がもっとあってもいいと思う。
- 運営推進会議に参加している方に、その都度、活動内容や取り組みをお話ししているが、グループホームの運営や活動に対し、しっかりと理解することは難しいと感じている。
- 利用者・本人に目を向け、皆で考え把握することで、グループホームの活動・取り組みがもっと見えると思った。
- 外部評価のように、概ね1日かけてゆっくり状況を把握したり、説明できる分ではないので、どこまで事業所や利用者の現状をわかってもらえるのか疑問がある。
- 運営推進会議参加者はそのグループホームにいつも来ていても、漠然と見ているだけで、外部調査の観点から物事を見ていないので、スムーズな話し合いがしにくい。運営推進委員を選ぶ時に外部評価的な観点を持ってもらうことが必要かと思う。地域の特性を生かした個性的な事業所作りが良いと思うが、他事業所を知っているばかりに、他とは違うと指摘する調査員がいて困る。
- 現行の評価調査員との話し合いの中で得られる気づきは、試行調査では得る事が少なかった。具体的な案は試行調査の方が地域の方や参加者から出たが、実行できるのか、実行が必要な事なのかは取り組みながらでないと判断ができない。また、A・Bシートの作成では職員とご利用者の具体的なカンファレンスをしているような状況になり、現行で出来ている教育的な役割は果たせないと感じた。
- 運営推進会議の出席者は、完全ボランティアのため、負担にならないように時間的配慮や理解を得る事が必要。
- 運営推進会議に出席されている方や御家族はホームの状況などよくわかっている為、改善しやすい指摘などをされるが、外部評価ではハード面での改善を求めるなど無理があったりする。
- 事業所の実態を知ってもらう為に、建物等の設備や活動状況は報告しやすかったが、運営推進会議の参加者へ個人情報に配慮しながら本人の状況をA-2の集計表だけで説明するのは難しかった。
- 外部評価を運営推進会議に取り入れる事自体、難しいのではないかと思う。運営推進会議委員には判断できない内容がほとんどであった為、委員は困惑していた。こちらからの説明も不十分であったこともあると思う。
- 評価調査員に比べると、運営推進会議のメンバーはグループホームに対して知見を有している方々だけでは無いことから、何が良くて何が悪いのかの判断基準が曖昧になっていると思います。その為、評価をしていただく為には、ガイドラインの作成や研修を受けていただく必要があると感じた。

- 運営推進会議の参加者全ての方が理解できるように伝えるためには、かなりの労力を要した。全てのシートを事業所で作成するため、都合よく記録することも可能になる。
- 現行の外部評価よりも、身近な方々にグループホームのことを知っていただけるいい機会になると思った。しかし、地域の方々への質問内容が少し難しかったように思いました。そのため、運営推進会議にてうまく意見や提案を引き出すことができなかった。活発な意見交換ができれば、現行の外部評価よりも有効なものになると思う。
- 評価＝事業の振り返り→気づき→改善へのものであることから、このチェックで運営上の課題が洗い出されるのだろうか？と思う。言葉の意味がわからないという家族さんの意見もあった。
- 運営推進会議参加者から多く言われたのが、「実際に日々の入居者の暮らしぶりを見ていないので、判断が難しい」という言葉。また、福祉関係以外の参加者からは、「自分達の評価によって、このグループホームの評価が決まることに不安を感じる」という言葉も聞かれた。
- 外部評価や公表と似たことを地域の方に求めるのは違うのではないかと思う、ピンポイントで地域との連携や安全管理の項目程度が妥当では。
- 項目が少なかったために現行の外部評価よりは作業自体にあまり時間が掛からなかったものの、この情報量でのアンケート記入は難しいと指摘された。
- シートが多すぎて、分かりにくい。もう少し、少なくできればやりやすさを感じるかもしれない。

< 「大いにある」と回答した理由（主な回答） >

- 地域関係者には、グループホームの利用者、環境など日常の様子が分からない為、安易に評価を行うことが事業所に影響を及ぼすため回答できない。との意見が大半、会議に参加した家族も内容によって答えられる項目とそうでない項目があり分けて実施した方が効果あるのではないか。本人主体の質の向上を考えるならば、このような項目を設定した方が良いと思う、との意見が多く上がった。評価としては、機能を果たすことは出来なかったが、貴重な意見が活発に上がった。
- 地域の方を巻き込んでの外部評価は、より密な関係性が必要だと思いますので、その関係性作りが今後の課題、それが分かったという点で良かった。
- 地域との関わりは、「地域のニーズを運営に反映させる」ことよりも、「地域資源を入居者の生活に活かす」比重の方が強いと考えるが、地域住民や家族等は、事業所の状態を詳細に把握していない場合が多く、事業所の説明を鵜呑みにしてしまうことが考えられる。外部評価の場合、事業所に短期ではあるが調査に入る為、客観的に評価することが可能。第三者評価機関の特徴（専門性）を活かし、多角的な視点で事業所を見てもらうことで、事業運営に役立つ部分がある。
- 実際に現場を見てみない事には分からないことや説明できないことがほとんどであ

る。それもまた地域との関わりや、情報の発信と言ったホーム側の力不足ではあり、グループホームの有り方や存在意義について深めていく必要がある。

- 委員の方は専門家ではない。その方々に施設の状況を項目どおり理解してもらうには時間がかかる。そこまで協力していただける委員が継続して推進委員を引き受けてもらえるか不安だ。外部評価の方からの指摘などは的確であるが委員の方からの指摘・質問は、時々のが外れている時があるので評価判断として疑問を感じる。
- 個別に一人ひとりの御利用者に対し、振り返ることができ、今回のAシートは非常に役に立つと思う。しかし、Cシートに関しては、地域の民生委員や住民には、記入が難しいと思う。外部評価の調査員の方は、グループホームの役割、個人の尊重等知識をもってあるが、地域住民の方にはそれらの基本的な知識を知っていただくことは負担になるのではないかと思う。外部評価はプロに有償で評価してもらおうが、無償で年6回会議に参加していただいている運営推進委員の方に、グループホームという機能や役割を全て知っていただき評価して頂くには、荷が重いようにも思う。項目や表現も、もっと一般の人が見てわかるものにする必要があると思う。
- 運営推進会議で評価してもらおうのは、非常に難しいと思う。外部評価の方が得るものが多い。
- 項目のほとんどをはっきり評価できない。「できていると言えば」、その通りに評価するしかなく意味がない。説明するのに時間もかかり、話し合うのに又時間がかかり、1回の会議では難しい。
- 今回の会議では、事前の参加者への説明も足りず準備不足があった。また、評価機関の調査員による評価は専門性を持っての評価であり、不明な点は確認する機会が多く進み方も違いがあり、不都合さを感じた。どちらの場合も事前の準備、工夫が必要であると感じた。
- 理解が難しい項目が多かった。(従来は) 評価機関が求めるままに解答すれば良かったが、地域の方に説明を行いながら評価を行う事の難しさがあった。
- 当事業所では運営推進会議をグループホーム内で実施しておらず、建物の会議室を利用しており、参加者がイメージしにくかったと思われる。事業所内で行うことも考えたが、開催時間なども踏まえると入居者の生活リズムに影響がありとして現状のまま実施している。
- 利用満足度アンケートに値すると考える。アンケートとしてご家族に意見を頂くなり良いと思う。これを取り入れた場合、一年に1回とはいえ、参加には負担があるとの意見がある。会議に参加し、報告を受けているが、視点や内容を理解し、変えていかなければ調査表に記入するのは負担であり難しい。
- 外部評価か、この書式を使い年6回報告するのと、どちらかが義務と仮定したら、通常業務の報告と一日の訪問調査で終わる外部評価を選択する。理由は、本人がどうなっているかを問う内容が多い為、職員や家族と共通理解する書式としては良いが、本人を知らない人へ伝えるのはかなり難しい。

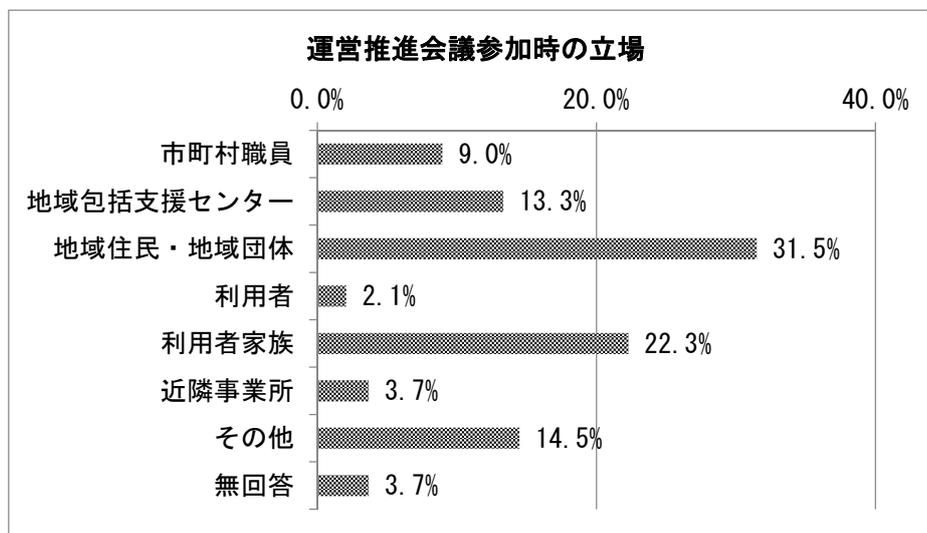
2) 運営推進会議参加者アンケート結果（対象回答数：435）

(1) 試行に対する主な意見

効果（主な意見）	課題（主な意見）
<p>(参加者の意識の変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ もっと地域と協力するべきだと感じた ➤ 介護110番の看板を掲げているが、活かしているか。今後もっと地域に伝えていけたら… ➤ 地域に若い力が根付いてほしい ➤ 評価することで、次回、どう改善されているかが大事だと思う ➤ 地域との交流の仕方を工夫してみてもどうか ➤ 今まで知らなかったことについて具体的な質問、意見の支援ができた ➤ 通常意識しなかった評価という視点から検討でき良かった ➤ 入居者全体表と記述事項やユニット担当の職員が同じテーブルに就き、説明を行った事で具体的に書けた ➤ 評価表により、本人の全体像がよくわかった。スタッフの把握度がわかってよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業所内部の評価は、推進会議メンバーでは評価しにくい ➤ 事業所自己評価そのものが適切でなかった場合、記録の確認や現地の確認が必要になると感じた ➤ 質問内容が難しい ➤ わからない事が多かった ➤ 情報不足で判断できない項目があった ➤ 事前に建物内や利用者に話をしてみたりして、雰囲気をつかみたかった ➤ 試行調査についての確認シートの説明をされたが、主旨があまり理解できなかった ➤ 質問の出し方が分かり難い。必要でないものがあると感じた
改善にむけた提案（主な意見）	外部評価との比較
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 抽象的な設問が多く、事業所担当が的確な評価が行えるよう評価ガイドブックが必要と感じた ➤ 論じやすい1、6～8の項目に絞って話し合う方が発言しやすく、客観的な意見が言えるのではないか ➤ スタッフとの定期的な話し合い（茶話会形式） ➤ 外部の者が判断しやすい方法も考えてみてはどうか ➤ 認知症介護で行き過ぎた管理を求められる風潮について、地域での話し合いコンセンサスが必要。 	<p data-bbox="845 1373 1449 1556">➤ 外部評価で定められている、施設内の見学や昼食を共にするなどがあれば、より施設内の雰囲気が読み取れると感じた。</p> <div style="text-align: center; background-color: #cccccc; padding: 5px;">その他</div> <ul style="list-style-type: none"> ➤ このアンケートを今後どう活かしてどう発展させるかが問題だと思う

(2) 運営推進会議参加時の立場

○運営推進会議の参加の立場としては、「地域住民・地域団体」が31.5%と最も高く、次いで「利用者家族」が22.3%であった。



市町村職員	地域包括支援センター	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	その他	無回答	合計
39	58	137	9	97	16	63	16	435
9.0%	13.3%	31.5%	2.1%	22.3%	3.7%	14.5%	3.7%	100.0%

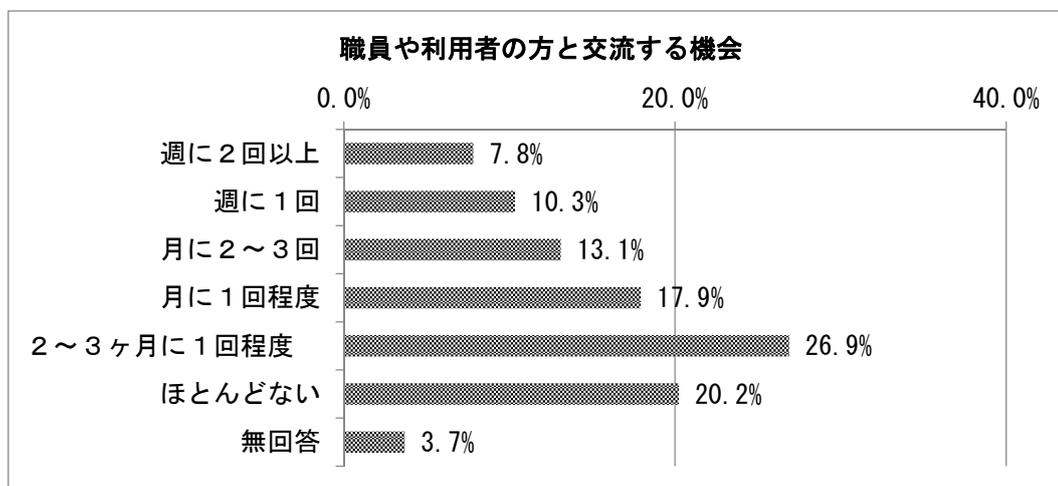
○運営推進会議への参加状況

- ・今年度：平均 3.5回（最大 8回／最少 0回）
- ・これまでに：平均 10.8回（最大 72回／最少 0回）

(3) 事業所との日頃の関わり

①職員や利用者の方と交流する機会

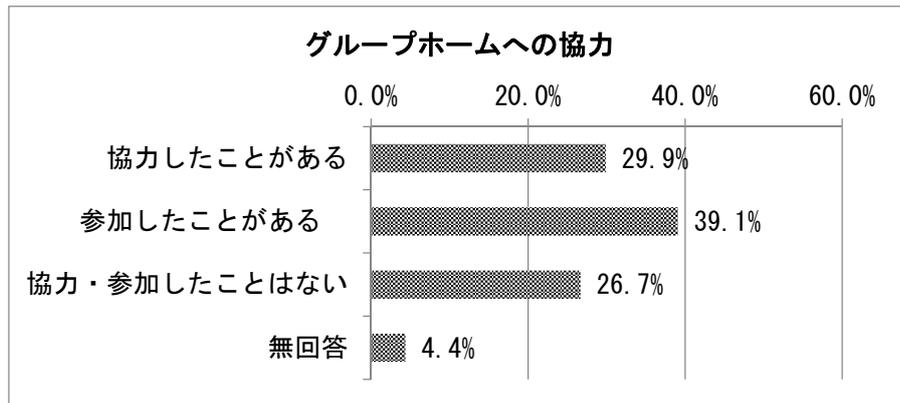
○職員や利用者との交流する機会は、「2～3か月に1回程度」が26.9%と最も多かった。



週に2回以上	週に1回	月に2～3回	月に1回程度	2～3ヶ月に1回程度	ほとんどない	無回答	合計
34	45	57	78	117	88	16	435
7.8%	10.3%	13.1%	17.9%	26.9%	20.2%	3.7%	100.0%

②グループホームへの協力・参加

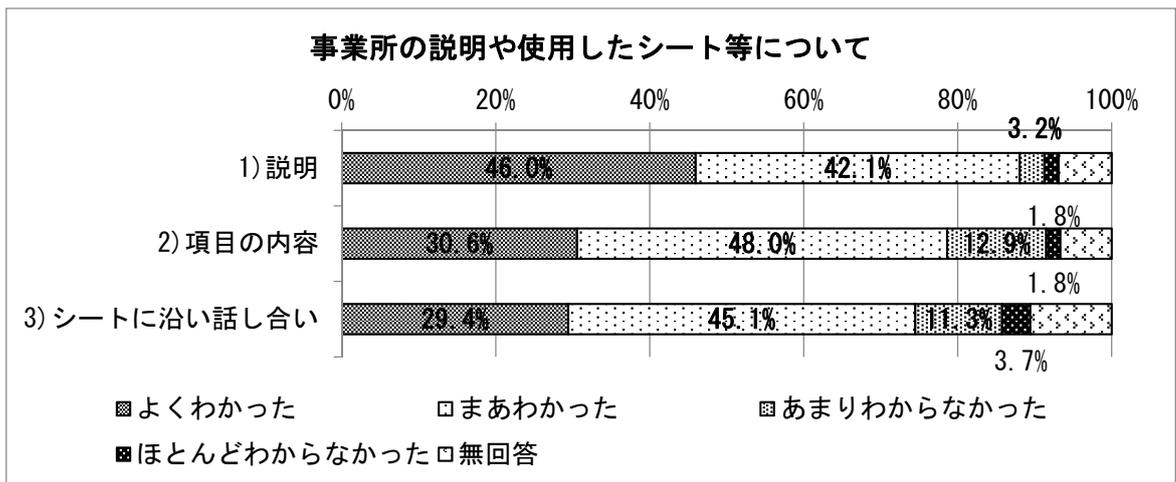
○「参加したことがある」が39.1%と最も多かった。



協力したことがある	参加したことがある	協力・参加したことはない	無回答	合計
130	170	116	19	435
29.9%	39.1%	26.7%	4.4%	100.0%

(4) 本試行での事業所の説明や使用したシート等について

○説明に関しては88.0%、項目の内容に関しては78.6%、シートに沿った話し合いに関しては74.5%の参加者で肯定的な回答がみられた。



	よくわかった	まあわかった	あまりわからなかった	ほとんどわからなかった	無回答	合計
1)説明	200	183	14	8	30	435
2)項目の内容	133	209	56	8	29	435
3)話し合い	128	196	49	16	46	435

3) 評価機関調査員（運営推進会議参加）アンケート結果（対象回答数：24）

(1) 試行に対する主な意見

効果（主な意見）	課題（主な意見）
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「地域との連携」が課題であり、運営推進会議がそのことを解決するための話し合いの場になる 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 参加者は、項目が意図することの意味を理解していない ➤ 参加者は、専門的な知識や比較対象がないので意見を言えない ➤ 参加者は、実際の利用者の暮らしの様子を知らない ➤ Aシート、Bシートの報告だけで評価してよいか疑問 ➤ 運営推進会議そのものが未成熟である ➤ 家族は感謝の念が強く、分からないことはそのまま流してしまう ➤ 説明に大半の時間が割かれてしまい、話し合う時間がない ➤ 参加者の負担が重過ぎる
改善にむけた提案（主な意見）	<h4 style="text-align: center;">外部評価との比較</h4>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 一回の運営推進会議の中で、試行調査が求める全てのプロセスをこなすことが難しい。年間を通して継続的に実施する手法の検討が必要 ➤ 3年や5年という継続的な関わりも仕組みとして備えていくと効果的 ➤ 自己評価結果をもとに従来の外部評価の流れでヒアリング調査をすると、より個別ケアに沿った対話が可能 ➤ 運営推進会議に評価判断までは求めずに、自己評価部分の紹介というプロセスのみ実施してみてもいい ➤ Cシートをまとめようとしていたが、なかなかむずかしく、事前の提出を参加者にお願いした方がよい ➤ 項番ごとの考え方の指針や着眼点について説明したガイドブックがあればいい 	
その他	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 現在の自己・外部評価をもとに、運営推進会議で報告、意見交換を行い、取り組みにつなげる仕組みで何ら問題ない 	

(2) 運営推進会議に参加した評価機関調査員の属性

○回答者の属性としては、介護支援専門員と介護福祉士が 36.4%であった。また、その他には、認知症ケア専門士や評価機関が含まれていた。(複数回答)

介護支援専門員	介護福祉士	社会福祉士	社会福祉主事	看護師	保健師	ヘルパー	介護相談員
8	8	7	5	0	0	6	1
36.4%	36.4%	31.8%	22.7%	0.0%	0.0%	27.3%	4.5%
家族の会員	民生委員・児童委員	その他	無回答	合計			
2	0	12	2	51			
9.1%	0.0%	54.5%	9.1%				

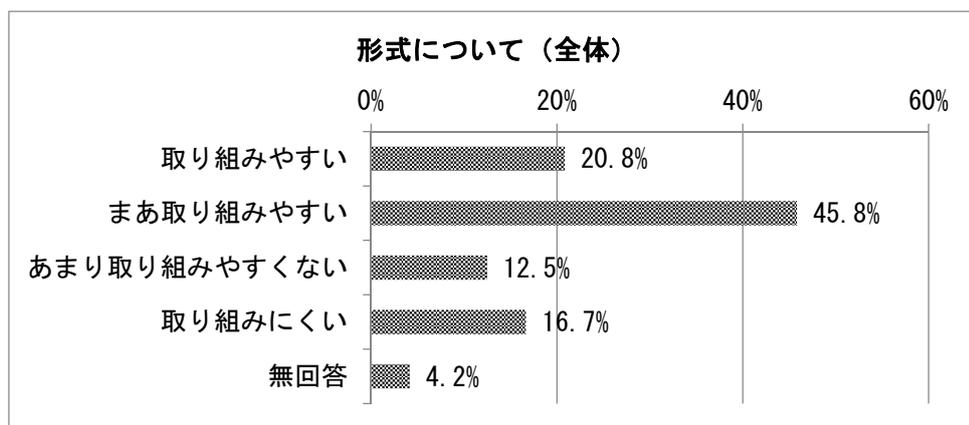
(3) 「本人の暮らしの把握・確認シート (A)」、「体制と運営に関する確認 (B)」の項目案及びシート様式について

○確認表形式と項目のわかりやすさは 66.7%の評価調査員で肯定的な回答がみられた。

○項目数については、45.8%が「適当」、33.3%が「やや多い」であった。

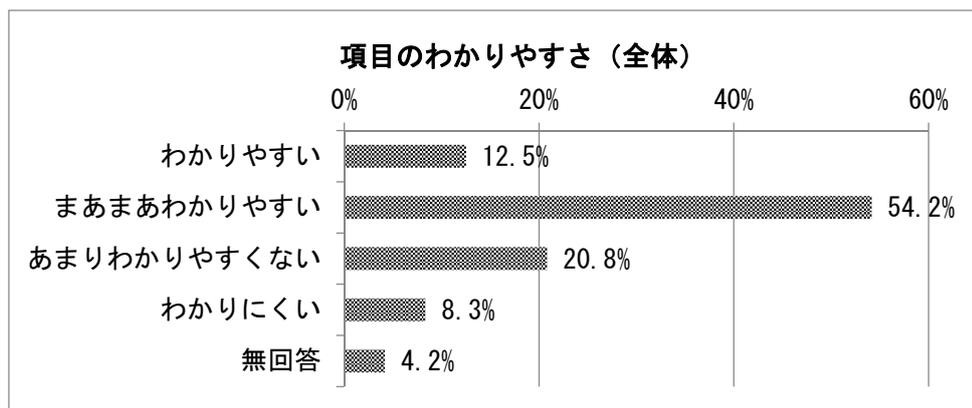
○記入のしやすさについては、58.3%の評価調査員で肯定的な回答がみられた。

①シート形式について



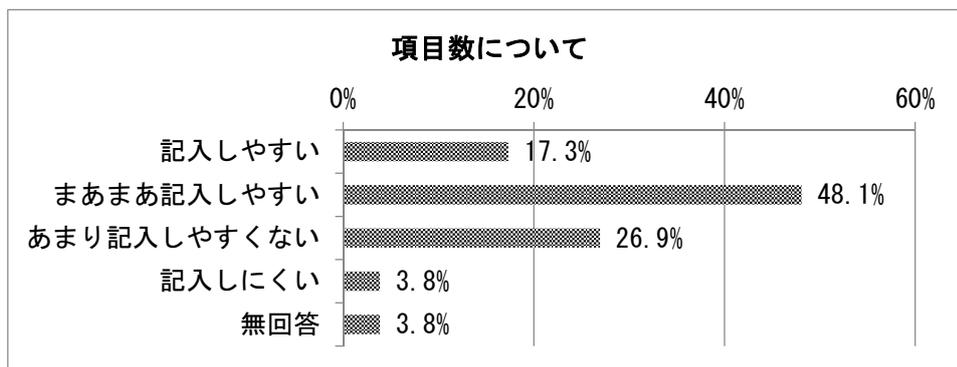
取り組みやすい	まあ取り組みやすい	あまり取り組みやすすくない	取り組みにくい	無回答	合計
5	11	3	4	1	24
20.8%	45.8%	12.5%	16.7%	4.2%	100.0%

②項目のわかりやすさ



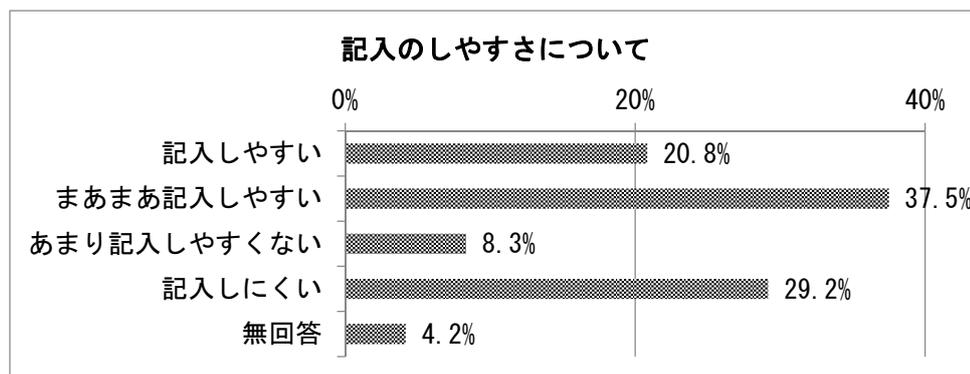
わかりやすい	まあまあわかりやすい	あまりわかりやすすくない	わかりにくい	無回答	合計
3	13	5	2	1	24
12.5%	54.2%	20.8%	8.3%	4.2%	100.0%

③項目数について



たいへん多い	やや多い	適当	やや少ない	たいへん少ない	無回答	合計
1	8	11	1	1	2	24
4.2%	33.3%	45.8%	4.2%	4.2%	8.3%	100.0%

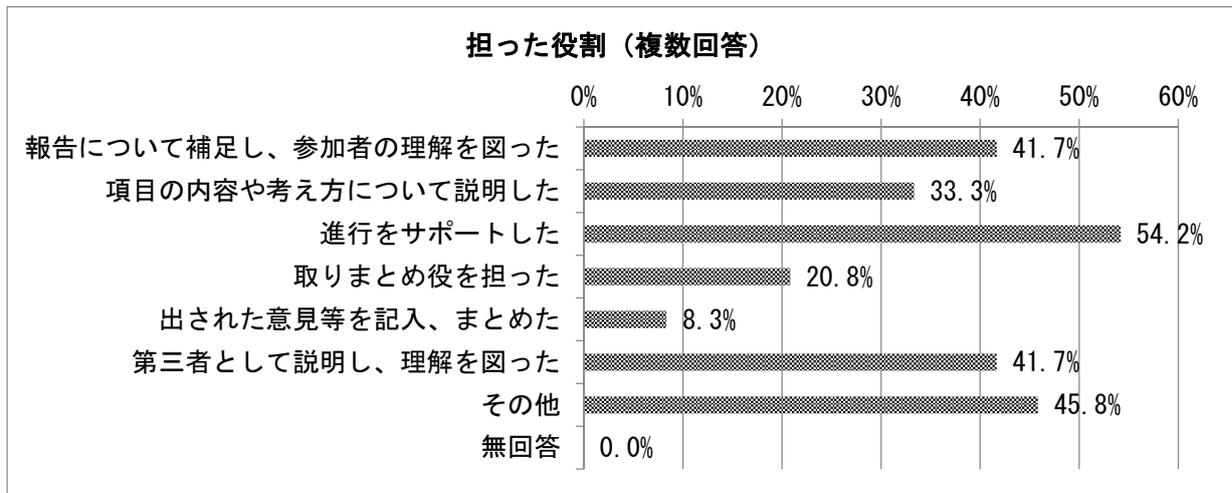
④記入のしやすさについて



記入しやすい	まあまあ記入しやすい	あまり記入しにくい	記入しにくい	無回答	合計
5	9	2	7	1	24
20.8%	37.5%	8.3%	29.2%	4.2%	100.0%

(4) 運営推進会議での「地域関係者意見・提案」の試行において、運営推進会議で担った役割（複数回答）

○運営推進会議での「地域関係者意見・提案」の施行では、「進行をサポートした」が54.2%と最も高く、次いで「報告について補足し、参加者の理解を図った」および「第三者として説明し、理解を図った」が41.7%と多かった。（複数回答）

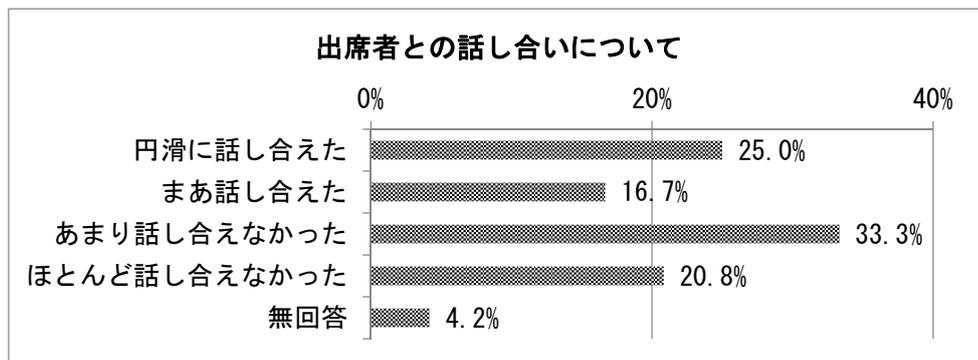


報告について補足し、参加者の理解を図った	項目の内容や考え方について説明した	進行をサポートした	取りまとめ役を担った	出された意見等を記入、まとめた	第三者として説明し、理解を図った	その他	無回答	合計
10	8	13	5	2	10	11	0	59
41.7%	33.3%	54.2%	20.8%	8.3%	41.7%	45.8%	0.0%	

(5) 運営推進会議での「地域関係者意見・提案」の実施、また「地域関係者項目」案及び記入シートについて

①出席者との話しあいについて

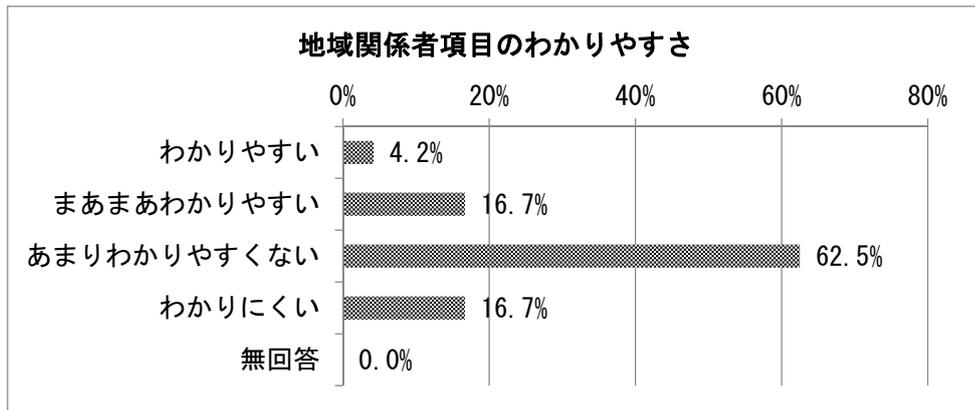
○「あまり話し合えなかった」が33.3%と最も多かった。



円滑に話し合えた	まあ話し合えた	あまり話し合えなかった	ほとんど話し合えなかった	無回答	合計
6	4	8	5	1	24
25.0%	16.7%	33.3%	20.8%	4.2%	100.0%

②地域関係者項目のわかりやすさ

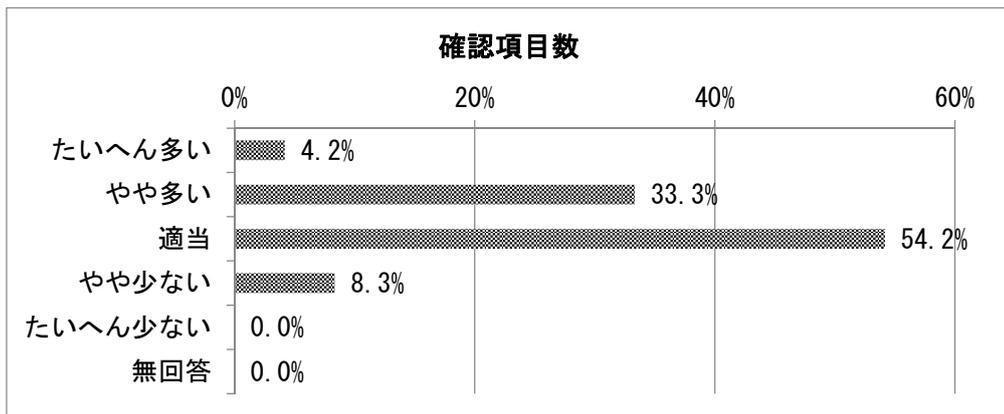
○62.5%の評価調査員で「あまりわかりやすくない」という回答がみられた。



わかりやすい	まあまあわかりやすい	あまりわかりやすくない	わかりにくい	無回答	合計
1	4	15	4	0	24
4.2%	16.7%	62.5%	16.7%	0.0%	100.0%

③確認項目数について

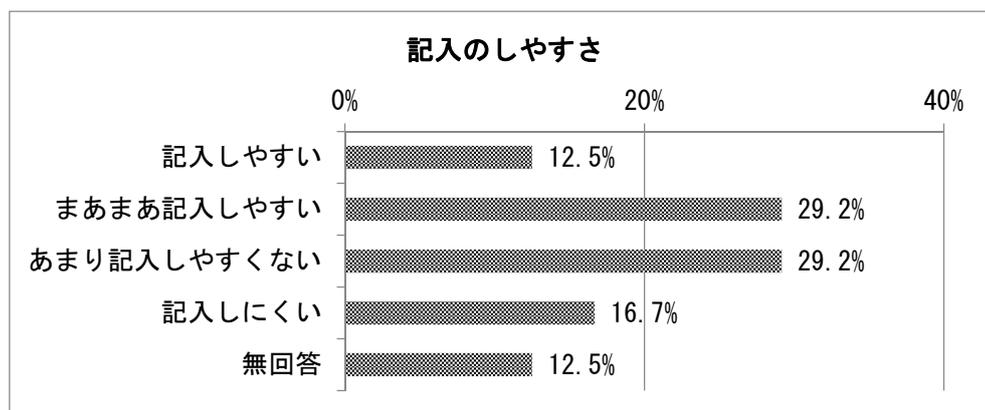
○評価項目数については、「適当」が54.2%と最も高い割合であった。



たいへん多い	やや多い	適当	やや少ない	たいへん少ない	無回答	合計
1	8	13	2	0	0	24
4.2%	33.3%	54.2%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%

④「地域関係者意見・提案シート」の記入のしやすさについて

○41.7%の評価調査員で肯定的な回答がみられた。



記入しやすい	まあまあ記入しやすい	あまり記入しやすすくない	記入しにくい	無回答	合計
3	7	7	4	3	24
12.5%	29.2%	29.2%	16.7%	12.5%	100.0%

(6) 今回の試行全体の流れについて

○試行全体の流れに関しては、「A-1、A-2、B 実施」では 33.3%、「運営推進会議における報告・説明」では 29.2%の評価調査員から「スムーズに実施されている」との回答がみられた。「運営推進会議での話し合い」では 41.7%の評価調査員から、「B シートの作成」では 45.8%の評価調査員から「難点が多い」との回答がみられた。

①「A-1、A-2、Bシート」の実施

	スムーズに実施されている	やや難点がある	難点が多い	関与していないので不明	無回答	合計
〔A-1、A-2シート〕〔Bシート〕実施	8 33.3%	6 25.0%	3 12.5%	6 25.0%	1 4.2%	24 100.0%
〔Bシート〕作成	1 4.2%	4 16.7%	11 45.8%	7 29.2%	1 4.2%	24 100.0%

②運営推進会議における内容の報告・説明

	スムーズに実施されている	やや難点がある	難点が多い	無回答	合計
運営推進会議における〔A-2〕〔Cシート〕報告・説明	7 29.2%	11 45.8%	4 16.7%	2 8.3%	24 100.0%
運営推進会議での話し合い〔Cシート〕実施	2 8.3%	9 37.5%	10 41.7%	3 12.5%	24 100.0%

(7) 現行の評価機関による外部評価と比べて不都合を感じたこと

全くない	あまりない	少しある	大いにある	無回答	合計
3	0	4	17	0	24
12.5%	0.0%	16.7%	70.8%	0.0%	100.0%

○試行調査の場合、1回だけの参加ではホーム全体を見る事は困難であり、複数回の参加が必要と感じた。職員へのヒアリングの機会もあった方が良い。外部評価では、利用者アンケート調査を行い参考とするが、運営推進会議で得られる家族の意見は、本心かどうか判断しかねる。また、利用者の状況、居室を見ない、計画や記録も見ない、そういう中で客観的な評価や判断ができるか疑問に感じられました。やはり、外部評価の必要性があると考えます。

○ご家族以外の参加者は事業所についてそれほどわかっていないため、評価しにくいし、利用者のケアについての話し合いはあまり興味がないように感じた。参加者の中には、実際の利用者の暮らしの様子を知らない方もあり、評価の集計は正しいのか不安。外部評価の視察の時間は重要で気付きが多いが、管理者が事業所の様子をいくら報告しても百聞は一見に如かず。

○評価機関や調査員が第三者として会議に参加することは、参加者からの意見を引き出すためにもとても良いと思うが、運営推進会議を外部評価と同じ意義と考えることには無理がある。参加する地域の方と事業所の関係はどのような関係なのかということも関係する。従来の外部評価の良さである対話によるコーチングはできない。

○運営推進会議自体が確立していないのに、その場での外部評価（一時間程度の）を信用してよいのだろうか。

○運営推進会議に参加される方を変えている事業所もあり、たまにしか行かない方に評価をしてもらうのは難しいと思われる。

○このシートでは、本人視点であり、本人がどうであるかの視点で職員が考え自身の介護の振り返りにつながるのはとてもいいと思います。ただし、事業所によってこの事業の取り組み方に差が出てくると思われ、運営推進会議のメンバーによっても大きな差が生まれると感じました。

○現行の外部評価の課題として、

- 1、A-1シートのような個票がない。
- 2、複数のユニットは、各ユニットの自己評価があるにも関わらず外部評価の報告書は一つ。
- 3、自己評価の内容がユニットの違いにも関わらず全て同一。更に、例えば受審5回目の自己評価が1回目以降のものと同じということもある。
- 4、目標達成計画を確認しながら外部評価項目について管理者にヒアリングしていきますが、計画を軽視している事業所もあり、毎回同じ項目が取り上げられることもある。
- 5、事業所によって「質の差」が大きいですが、現行の外部評価には、助言機能はありません。

○運営推進会議の参加者が多様であることから、事業所へのアドバイスをを行った場合、「こ

の事業所はすべきことができていない事業所だ」という誤解を参加者に与える危険がある。外部評価では事業者、及び職員と検討する内容が決まっており、他の利害関係者がいないからこそ忌憚なく話し合えるということもある。事業所の応援団、利用者の応援団であることに変わりはないが、すべてを運営推進会議で行うことと外部評価は趣旨が違う。運営推進会議メンバーの中には、客観的に判断するには当事者感が強い。職員への不満も言いにくいのではないかと思う。

- 運営推進会議は、10年間経験してきたので、確認チェックする項目を少なくし、より明確にすることで、上手く発揮できるかもしれない。A-1シート及びA-2シートは、PDCAの結果のプロセスを明示されるので効果的と思う。これは新たな視点である。また、「A-2シート」を次年度調査時以降も比較することで、これまでにない本格的な評価ができる仕組みができる。利用者ごとの経年比較し、プランと実践の効果測定を行い、大幅に効果をあげている取り組みに、介護報酬加算点の仕組みができると素晴らしい。
- 質問項目が片寄っている、分かりにくい。質問項目が少ないので、全容把握が不十分と思われる。項目の現場事例を確認出来ない。
- これまでの外部評価と比較して、客観性と妥当性に疑問を感じる。運営推進会議のメンバーは必ずしも日頃のホームの様子（利用者の様子や運営の実態）について全体を把握している状況には至っておらず、ホーム側が示したシートについて、内容等が妥当なものであるかどうかの細かな判断ができない（判断する材料を持ち合わせていない）様子であった。実際会議参加者からも「わからないから答えようがない」という声が圧倒的であり、根拠に欠ける発言の元で判断している様子も見られ、結果の妥当性についても大いに疑問符が付く。
- 事前に設問項目や記載内容について十分な説明の機会を持ち、参加者からそれに基づいて見学（観察）等の機会を設けないと判断がつかないものと思われる。

4) 各シートの項目について

(1) 「本人の暮らしの状況把握・確認項目」(Aシート)について

<グループホーム事業者>

- 「不要という思う項目」は0%~6.8%と全体的に低かった。「内容がわかりにくかった、判断が難しい項目」は8.5%~42.4%と幅広かった。上位の項目としては、「4 本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている(42.4%)」、「1 本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている(39.0%)」、「6 本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる(37.3%)」であった。

<評価機関(評価調査員)>

- 「不要という思う項目」は0%~6.3%と全体的に低く、0%も項目も多くみられた。「内容がわかりにくかった、判断が難しい項目」は6.3%~31.3%であった。上位の項目としては、「8 本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひとつ時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができる(31.3%)」、「10 本人は、このグループホームにいる

ことで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている (31.3%)」であった。

区分	No	把握・確認項目	不要と思う		わかりにくい、判断が難しい	
			事業所 (N=59)	評価機関 (N=16)	事業所 (N=59)	評価機関 (N=16)
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	5.1%	0.0%	39.0%	18.8%
	2	本人は自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	1.7%	0.0%	22.0%	12.5%
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	0.0%	6.3%	15.3%	6.3%
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	1.7%	0.0%	42.4%	25.0%
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができています	6.8%	0.0%	8.5%	6.3%
	6	本人は自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭り）事に参加することができています	3.4%	0.0%	37.3%	12.5%
残存機能の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	1.7%	0.0%	33.9%	25.0%
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	3.4%	6.3%	15.3%	31.3%
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	6.8%	0.0%	25.4%	18.8%
総合	10	本人は、このグループホームにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	3.4%	6.3%	20.3%	31.3%

<主な意見>

- 職員の振返りとして自己評価では有効だと思う。不要項目はなく、わかりにくいことはなかった。
- 重度の方については、なかなか判断しかねる。
- 基準の提示がなく、評価できない。
- 意思確認が難しい利用者の評価が悪くなりがち。
- 「本人ができていますか」の質問になっているため、事業所・支援者の立場としては答えづらい。事業所への質問であれば、「支援ができていますか」の質問に変えた方が応えやすい。

(2) 「運営と体制に関する確認項目」(Bシート)について

<グループホーム事業者>

○「不要という思う項目」は0%~3.8%と全体的に低く、0%の項目も多くみられた。「内容がわかりにくかったり、判断が難しい項目」は0%~15.1%と幅はあまりみられなかった。上位の項目としては、「20 代表者は、職員の働きやすい労働環境や労働条件を整備し、ストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる(15.1%)」、「15 グループホームの機能・実践を活かして、地域に開放したり、還元している(13.2%)」、「21 代表者・管理者は、法人内外の研修を受けたり、OJT(働きながらのトレーニング)に取り組んでいる(13.2%)」であった。

<評価機関(評価調査員)>

○「不要という思う項目」は0%~6.3%と全体的に低く、0%の項目も多くみられた。「内容がわかりにくかったり、判断が難しい項目」は6.3%~43.8%と幅広かった。上位の項目としては、「1' 共用空間は、不快な刺激に配慮し、家庭的な居心地のよさに配慮している(43.8%)」、「6 利用者、家族等、職員チームで話し合い、現状に則した介護計画を作成している(37.5%)」であった。

区分	No	把握・確認項目	不要と思う		わかりにくい、判断が難しい	
			事業所(N=53)	評価機関(N=16)	事業所(N=53)	評価機関(N=16)
環境	1	共用空間は、不快な刺激に配慮し、家庭的な居心地のよさに配慮している	1.9%	0.0%	11.3%	43.8%
人格の尊重	2	利用者の誇りやプライバシーを尊重して関わっている。適切な個人情報の管理が行われている	0.0%	0.0%	7.5%	12.5%
	3	身体拘束(日中の玄関施錠等含む)について学んでおり、拘束のない暮らしを実現している	0.0%	0.0%	3.8%	31.3%
	4	職員は、虐待にあたる行為を理解している。代表者・管理者は、虐待や不適切なケアの防止策を講じている	0.0%	0.0%	1.9%	12.5%
基本的な生活支援	5	利用者の気持ちや体調の変化を把握、記録し、職員間で共有している	0.0%	0.0%	3.8%	6.3%
	6	利用者、家族等、職員チームで話し合い、現状に則した介護計画を作成している	1.9%	0.0%	0.0%	37.5%
	7	利用者の状況にあわせて、食事、入浴、排泄、整容、睡眠、外出等の日常生活行為を支援している	1.9%	0.0%	3.8%	25.0%
	8	利用者の食事その他の家事は、職員と利用者が共に行っている	1.9%	6.3%	11.3%	18.8%

健康管理	9	利用者・家族等の希望や納得を得た医療機関で、適切な受診ができるよう支援している	1.9%	0.0%	3.8%	6.3%
	10	口腔ケア、服薬支援、感染症対策などの健康管理を実施している	1.9%	6.3%	3.8%	6.3%
	11	重度化や終末期のあり方について、本人、家族等、関係者で方針を共有し、支援している	0.0%	0.0%	5.7%	12.5%
安全管理	12	さまざまな災害に対して実践的訓練を重ねるとともに、地域と共同防災訓練等に取り組んでいる	1.9%	0.0%	1.9%	12.5%
	13	緊急事態の対応マニュアルにそって、応急手当や対応策の実践力を身に付けている	0.0%	0.0%	7.5%	6.3%
地域との連携	14	地域の活動に参加したり、役割を担うなど地域との関係づくりを行っている	0.0%	0.0%	1.9%	6.3%
	15	グループホームの機能・実践を活かして、地域に開放したり、還元している	0.0%	0.0%	13.2%	12.5%
	16	市町村、地域包括支援センター、その他のサービス機関と協力関係を築くように取り組んでいる	1.9%	6.3%	0.0%	18.8%
家族との連携	17	家族と共に、利用者を支えあう関係をつくっている	1.9%	0.0%	1.9%	31.3%
	18	家族等の意見、要望、不安などを聞き、適切な対応をしている	0.0%	0.0%	3.8%	6.3%
	19	家族等に、暮らしぶりや健康状態、金銭管理や職員の異動等について報告している	0.0%	0.0%	3.8%	12.5%
職員育成	20	代表者は、職員の働きやすい労働環境や労働条件を整備し、ストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1.9%	0.0%	15.1%	6.3%
	21	代表者・管理者は、法人内外の研修を受けたり、OJT（働きながらのトレーニング）に取り組んでいる	3.8%	0.0%	13.2%	6.3%
向質上の	22	自己評価・外部評価の意義を理解し、活かした上での取り組みを行っている	1.9%	6.3%	3.8%	12.5%

<主な意見>

- 不快な刺激について具体的な記述があるとよい（音、光等）と思います。
- 1～11については、家族の方のみ。
- 客観的に把握、評価できるようマークシートにしてほしい。文章で表記するにあたり、主観的に確認してしまうため、事業所側の思いが強くなり出てしまい、できている事業所であると表現しがち。また、記入にあたり業務時間内での作業に手間が掛かる。
- 現行の外部評価と項目が似ている為、記入しやすく判断もしやすい。
- 推進委員と家族には、判断しにくいと思います。

(3) 「地域関係者意見・提案に関する確認項目」(Bシート)について

<グループホーム事業者>

○「不要という思う項目」は1.7%~16.9%と全体的に低かった。「内容がわかりにくかったり、判断が難しい項目」は6.8%~47.5%と幅広かった。上位の項目としては、「2 このグループホームでは、本人の意向に沿った暮らしができていますか(47.5%)」、「3 このグループホームでは、本人のこれまでの暮らしの習慣にあった生活ができていますか(45.8%)」、「4 このグループホームでは、本人の役割があり、楽しみごとを行うことができていると思いますか(28.8%)」であった。

<評価機関(評価調査員)>

○「不要という思う項目」は0.0%~35.7%であったが、0%も項目も多くみられた。「内容がわかりにくかったり、判断が難しい項目」は7.1%~50.0%と幅広かった。上位の項目としては、「1 このグループホームでは、共用生活空間は、家庭的で居心地のよいものになっていますか(50.0%)」、「11 このグループホームでは、職員がやりがいを持って、継続的に働くことができるよう職場環境づくりを行っていますか(50.0%)」、「12 自己評価・外部評価の意義を理解し、活かした上での取り組みを行っていますか(50.0%)」であった。

No	把握・確認項目	不要と思う		わかりにくい、判断が難しい	
		事業所(N=59)	評価機関(N=14)	事業所(N=59)	評価機関(N=14)
1	このグループホームでは、共用生活空間は、家庭的で居心地の「よいものになっていますか	3.4%	0.0%	15.3%	50.0%
2	このグループホームでは、本人の意向に沿った暮らしができていますか	8.5%	14.3%	47.5%	35.7%
3	このグループホームでは、本人のこれまでの暮らしの習慣にあった生活ができていますか	16.9%	35.7%	45.8%	35.7%
4	このグループホームでは、本人の役割があり、楽しみごとを行うことができていると思いますか	8.5%	7.1%	28.8%	35.7%
5	このグループホームにいて、本人は、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができていると思いますか	6.8%	7.1%	27.1%	35.7%
6	このグループホームでは、地域住民の協力や、警察署・消防署等との連携を図りながら、見守りや災害への備えを行っていますか	3.4%	0.0%	6.8%	28.6%
7	このグループホームでは、地域の活動に参加したり、役割を担うなど地域との関係づくりを行っていますか	1.7%	0.0%	18.6%	7.1%
8	このグループホームでは、地域の住民等に対して、介護や認知症の相談、アドバイスを行っていますか	5.1%	0.0%	18.6%	7.1%

9	このグループホームでは、家族等の意見、要望、不安などを聞き、対応を行っていますか	3.4%	0.0%	23.7%	28.6%
10	このグループホームでは、家族等に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理や職員の異動等について報告を行っていますか	5.1%	0.0%	20.3%	28.6%
11	このグループホームでは、職員がやりがいを持って、継続的に働くことができるよう職場環境づくりを行っていますか	10.2%	14.3%	23.7%	50.0%
12	自己評価・外部評価の意義を理解し、活かした上での取り組みを行っていますか	3.4%	0.0%	22.0%	50.0%

<主な意見>

- 質問の内容が地域関係者には不明（地域の人には判断が難しい）。
- 地域住民や家族にとっては判断基準がわかりにくい。
- 地域の方々への質問としては「知っていますか?」「思っていますか?」「十分ですか?」の表現ではどうか。
- グループホームの利用者をよく知らなければ回答できない。
- 本人の意向に沿っているかどうかという判断は事業所側の話で判断するしかなく、そのため利用者の個別性に沿った具体的な説明というのを求めていかないと判断できません。時間の都合からそのような質問ができない場合、参加者のみの認識では考えようもないというのが現実。

5) 試行全体に対する主な自由意見

(1) グループホーム事業所からの意見

- OA-1 シートは、職員から見た利用者の満足度調査だと思いました。これは、とても大事な事で、利用者個々に対する理解が益々深まった。職員全員で取り組みたいと思う。会議での話し合いは、資料を事前に配布し意見をまとめておければ、時間も短縮できると考える。参加者の意見を聞く事で次なる目標が設定し易く、意見を職員にフィードバックする事で、より良い施設となり、仕事への活力につながると感じる。
- 利用者の心身の状況によって活動が大きく異なり、どのように記載すればよいか迷うことが多い。「○×方式」や点数表示になると点数偏重になってしまうし、現行の外部評価のように調査員が欠点探しに走ってしまう。現行の方が良いと思うが、オブラートに包まれた評価員の報告のニュアンスを読み解くことが必要になると思われる。
- 認知症が進行して利用者との意思の疎通が取りにくい方のことも理解して質問を書かれているのか、との職員の意見が多かった。地域の方からは、「踏み込みにくい個別のプライバシーのことまで、聞かれても」という意見が多かった。できていること、できていないことを知るのが目的でも、にわかにはその解決はでき難いこともある。それをゆっくり話し合っていくのも運営推進会議のあり方の一つだと思う。
- 外部評価を受ける経費負担が大きいため、運営推進会議を活用し、地域の特性にあった運営を目指していく事はとても意義があると感じた。運営推進会議のあり方を、見

- 直すきっかけになる。
- 職員の協力、確かな視点があり、改めてチームの有難さを感じた。運営推進会議のメンバーは度々変わるのも現状。テーマに合わせて、項目ごとのアンケート（本人・家族の意向・満足度等）等、出来たらと思った。協力して下さる方々も高齢化してきている中、事業所に足を運んで下さり、生活している方と時間を共有して下さる、それが一番だと考える。一時間で終わるような会議とシートの工夫が必要と思います。
 - 運営推進会議での外部評価では、地域ニーズの掘り起こしというメリットはあるが、事業所の欠点（サービス、組織、人事等）に対しての指摘が難しいように感じた。メンバー構成によっては事業所の改善に必要な指摘がされないのではないか。メンバーが、家族と行政職員のみ事業所等もあり、事業所の適切な評価がなされるのか。運営推進会議に参加される方々に対して、「どこまで事業所のことを理解してもらえているか」を知る事ができたのは、試行調査におけるメリットだった。今後は、説明不足の部分を補っていきたい。ただし、事業所の状態を地域に理解してもらうことと、外部評価の位置づけが一致しているかは疑問。
 - 受け持ち制を取っているため、それぞれ担当スタッフと共有しながら進むことができた。実務しながらの作業としては労作が多く大変と感じながらも、取り組んだことで、入居者様お一人お一人について見つめなおす良い機会になったと思っています。介護従事者としての自覚を高めることの大切さや自身の責務を再確認したようなスタッフもいました。
 - 外部評価はアドバイスをしてくれますが、運営等への協力は得られません。運営推進会議の皆様方であれば同じ地域の皆さまなので、困難を感じている部分の援助・協力が得られ易いのではないかと思います。
 - A-1シートをA-2シートにまとめる事に関して、介護度等により該当にならない方もおられる中で、それを全体像として記載することに困難を感じた。それを運営推進会議のメンバーに見ていただいても、個別に行っていることが全く伝わりませんでした。運営推進会議の皆様には評価をしていただく為には、ある程度の基準を持って判断をしていただく必要があると思いますが、労力と、判断したことへの責任を感じメンバーを辞退される方も出て来るのではないかと感じます。運営推進会議の在り方については、もっと意義のあるものにする必要があると思います。事業所の発信の仕方に、より一層の工夫が必要であり、プライバシーや個人情報についての説明や同意が必要と思います。入居者の方やご家族の方にも改めて主旨を説明し同意が必要と思います。Cシートの内容を1～5回の会議の議題（テーマ）とし、見学・質疑応答を重ねながら、6回目で委員の方々に評価して頂くことも良いのではないかと思います。メンバーの方々が評価されるということは、より地域に根差した協力体制が築けると思います。
 - グループホーム入居となる方たちは、在宅で生活が営めなくなった方、BPSDが激しい状況にある方であり、その人の個別性を大切にしながら、生活支援と症状に対する専門的ケアを担うことがグループホームの社会的に必要とされる場所ではないでしょ

うか。看取りも行う場であり、ターミナル期の方たちの生活も支えています。そのような状況にあるグループホームが、地域とのつながりで生活の質が向上する、という視点に違和感がある。

- 運営推進会議委員はボランティアであり、ここまでの質問などとしては負担が増して誰もやってくなくなるのではないか。実際にこれだけのことを委員の方々に依頼することは難しいと思う。また、施設の負担が増し本来の仕事が阻害されるのではないか。地域の方々には施設のこともっと知ってもらいたいが、別の方法でいいと思う。委員の方々は年々変わる方もいる（民生委員など）その方々に評価などしていただいても実感がわからない。やはり外部評価での助言・アドバイスがいただきたい。
- 外部からの視点はとても重要で、利用者のより良い暮らしを守るには、不可欠だと思います。昨今、社会情勢が変わり、すごいスピードで周囲の状況が動いているように思います。利用者を預けている家族の生活も自分達の生活で精一杯になっている、預けていればとりあえず、安心できると思っているように思っています。地域関係者との協働とは、何をしなくてはならないのか、そのために職員もさらに時間を割かなくてはならないのか、とったりしています。外部評価に関しては、介護を正しく振り返られる時間にしてほしいと思っています。評価員は、経緯等がわかる毎年、同じ評価員であれば更に良いと思います。市の実地指導や情報公表は、人員や書類の点検ができるというようになっているのですが、介護を評価する基準というのは、何なのかと考えてしまいます。運営推進会議は、年に6回程度していると、そこまで本当に必要なかと言われたり、介護状況を説明しても、そこは職員達の問題だと思われることもあります。概ね2か月に一回の開催となっていますが、毎月続けての開催はしないようにと説明されました。私達の事業所は、開設当初から14年間、地域からも恵まれた支援を受けられてきたと感謝しています。様々な見目が必要です。より良い介護につながるようにご検討して頂きたいと思います。
- 試行調査を実施し、系統的（一連の流れ）に出来ており、取り組みやすく、また継続して出来る点は大変良かったと思う。利用者の想い・願いを職員間で情報共有出来た点も新たな点で良かったと思う。今まで評価は管理者・一部の職員で行っていたが、全職員で実施出来たことは職員の人材育成にもつながったと思う。
- 外部評価は、事業所の自己評価に評価員の視点のみが加味されるものであったが、試行調査は、運営推進会議に参加する方々の多角的な視点が加わり、取り組みに厚みが出るし、地域の方や行政の方々の意見や視点が必然的に入る形になるので、地域の方々を巻き込みやすい。但し、民生委員さんや行政区長さんの業務の中に、運営推進会議への出席は盛り込まれておらず、民生委員の中には参加を協力頂けない方もあるので、その辺りの改善が必要かと思われる。
- これまでの運営推進会議では、会議資料を通しての事業所報告が主であり、各委員からの意見も少ない状況でしたが、今回の調査を受けたことで、様々な立場から活発な意見が出され課題が抽出されたので、これを機会に今後の会議のあり方について検討するきっかけとなりました。

- 「外部評価」という表現が「外からのひとに評価されるから気を付けなければならない。悪い事は伏せよう！」という感じでとらえてしまいがちなのかとも思います。
- この評価の意味や活かし方について、グループホームの管理者を中心に再度、分かりやすく説明などがあると良いと感じます。意味を理解していないと、せっかくのツールが違うものになることを身を持って感じる事ができた。どの項目に関しても、何が出来ていれば、出来ているとするのか、どこに視点を持ち記入をしたらいいのか迷うことがあった。運営推進会議メンバーの方々からは、2ヶ月に1回、多くが卓上での会議であり、ホームの実際の内容はわからない、との意見が多く見られました。
- ご利用者個々に対する支援を評価できたので、新たに気づかせることがあり、介護職員の意識にも変化があった。全ての項目を短時間でおさめるのは難しいので、毎回運営推進会議で2項目ずつ一年かけて行うのはどうか。
- 地域の方から、評価は難しいと言われ、参加がおっくうになるとも言われた。家族からもこんな風に評価しないで外部の専門の機関に評価してもらいたいと言われた。
- 評価というのは、運営推進会議では難しいと思うが、私が「できていない」と評価した項目については、貴重なアドバイスがもたらされた。何個かの項目をセレクトして話し合うことは必要であると思った。ただ、参加者が必ずしも、うちを知っているわけではなく、私が「出来ている」と思う項目をできていないとも言えず、結局、自己評価が、そのまま外部評価になってしまう。
- 今回の試行調査を実施してみて、作業量が多く、人手不足の中で業務を行いながら資料作成は大変であった。運営推進会議としては、良い会議の資料となったが、これを二ヶ月に一度の運営推進会議で使うことは作業量があまりに多すぎると感じた。参加者も初めての事ばかりで戸惑いもあった。運営推進会議は、気楽に誰でも参加できるものにすべきであり、専門的な知識や責任を感じない事業所の応援団的な役割を担うことが重要であると感じます。
- 今回の調査で本人への支援をふり返り、今後すべきことを改めて明確にできたと感じる。会議参加者は回答にあたり、事業所の一生懸命さは伝わったが、内容によっては分かりづらい事もあり、回答で、わからないと答える方が多かった。
- いろいろな立場の方が参加できれば、もっと話も膨らんでいると感じた。今後、会議を通して伝わっていると思込まず、事業所の取り組みをはじめ、今までの報告の内容などわかりやすい工夫の伝え方も課題となる。
- 通常の運営推進会議の在り方に工夫が必要だと感じた。今までは、資料を基にサービス状況を会議形式で行っていたが、今後は利用者の方々と接する機会や現場に入って頂く時間を設定しなければならないと思った。
- 今後のグループホームの地域拠点としての役割について、大変考えさせられた。職員等からの視点、地域の方々の視点・想い、本人・家族の視点・想いを少し感じ取ることが出来た事は今後の施設運営に少なからず影響すると思います。認知症高齢者の方々が住み慣れた地域で、互いに支え合う事ができる地域となれるよう、その中心にグループホームがなれるように、今後も考えていきたいと思ひます。

- 今回の試行調査では、事業概要や A-1, 2 の説明後、委員に C シートの検討を試行しようと思ったが、生活の状況把握がしづらいつと考へ、急遽委員にホーム視察を行って頂くことにした。実際の現場で利用者の言動、ホームの様子を見て頂いた後の C シートの検討だった為、委員への理解が少し深まりスムーズに行えたように思う。
- 内容が漠然としていて、項目ごとに評価をしても課題を見出すことが難しいため、今後に繋がらない。御利用者様一人ひとり、個々のニーズに合わせて支援することの具体的な事として、社会との継続や人権の尊重、間に地の残存機能の活用や生活の質等があげられる。ゴールや正解はなく、永続的に考へ支援していくものなので、「出来ている」「出来ていない」の判断結果を求められる内容であつてはならない。
- 内容的には外部評価項目よりも設問が分かりやすく、簡単で参考になる項目(本人の暮らしの状況把握・確認、体制と運営に関する確認)が多く、これからのホーム運営に活用させていきたいと思ひました。
- Aシート良い、本人本位の視点で職員が考へる良い指標となる。9人一定で評価することにより、同項目に対し介護力の偏りや、ADL低下者へ係わり不足が見えてよかつた。Bシート良い、外部評価項目の重要点の集約のように感じ、職員が行っていることを記載する為、簡素で説明しやすく良かつた。Cシート、項目数を減らさないと現状の会議時間では難しい。設問が「できていますか？」という問いの為、実際わからないし、A・Bシートを見ても、本当かはわからないとの意見多い。全体を通じ、職員にとっては本人の気持ちを考へる良い時間が取れた。本人本位の生活を考へると、出来ている・出来ていないは難しく、何が本人本位か悩んでいる職員を見て、家族と一緒に悩めたら、方向性の共有に使えると思ひました。家族が参加した際の個人情報・プライバシーへの配慮がかなり必要と思ひました。さらに家族が自分の親が、第三者に介護内容の改善が必要と言われた時の気持ちを考へると、書式の設問、選択形態の改善が必要と思ひます。
- 「A-1シート」「A-2シート」が、本人の重症度(要介護度)によってパターン化してしまうのではないか。この項目から改善点を導いていけるよう、重度の方の状態に応じた例も入れて評価しやすくしてはどうか。当グループホームの運営推進会議が、大人数であることから地域交流拠点を使って実施しているため、ホームの中の様子は行事や訓練の時など以外、知って頂く機会が少ないことを再認識した。
- 年間を通して、年3回以上いくつかの項目に分けて、実施してはどうか。ホーム内の事や支援がわかるような企画にしていきたいと思つた。

(2) 評価機関(調査員)からの意見

- 参加者の前でご家族の立場での意見は言いにくいようだった。会議としては時間がかかりすぎる。1回の会議(2時間)でできるくらいのものが望ましいと思ふ。いろいろな立場の方が集まる運営推進会議の場で話し合うことに意義ある内容のみを項目に挙げた方がよいように思う。
- 参加している家族は積極的な方が多く、その他の家族の声が聞けない。現在の自己・

外部評価をもとに、会議で報告、意見交換し、取り組みにつなげる仕組みで何ら問題ないと思う。ホームは「地域との連携」が課題のところが多いと思うので、会議では、そのことを解決するための話し合いになる。ということは従来の会議と同じようなもの。「よくできている」「改善が必要」等で評価するという点のみが違う。会議に第三者が入ることで 会議にメリハリはできると感じました。

- 小規模多機能事業所が、現在運営推進会議にて外部評価を実施しているが、常勤のスタッフに自己評価をしてもらわないといけないが、文章を書く能力が無い人も要るので難しいと感じている。運営推進会議に参加を要望するだけでも気が引けるのに、評価まで頼んだ時、参加を止めたいと言われる方もいる。地域の意見よりも家族の意見を大事にすべき。
- 平成14年から外部評価調査員をしている。三重県の端から端までのほとんど事業所を訪問し、同じ事業所に調査に行かせていただいたとき、前回の調査時よりとても改善されている所や調査員を事業所前で待っていてくださるところなど調査員冥利に尽きる時もあります。『年1回の調査で職員のモチベーションが上がります』『改善点を見つけて教えてください』『利用者・ご家族の想いを教えてください』等、利用者の終の棲家になれるように頑張りますと言っていただくこともあります。運営推進会議は地域の応援団としてとても重要な仕組みと思われませんが、なかなか地域の方々からの理解が得られず開催しにくいと話される事業所もあります。また外部評価で話したことがきっかけになり、運営推進会議を核にした地域力アップのネットワークが構築され、事業所に『次回の運営推進会の開催日は何時ですか？』と聞きに来てくださる近隣の方や待ちわびて下さっている地域の方々がいらっしゃるようになったグループホームもあります。運営推進会議は意義のある仕組みではありますが、なかなかサービスの質や実態が見えてきにくいと思われまます。小規模多機能事業所からも外部評価に戻してほしいとの意見も多く聞きます。外部評価と運営推進会議の融合を期待しております。
- 小規模多機能の外部評価が今年度から新たにサービス評価として運営推進会議の中で評価を行うことになりました。両方の内容を経験してみて、グループホームの方が成果をあげるための必要項目が整っており、量的にコンパクトにまとめられているので、運営推進会議のメンバーも事業所の管理者及びスタッフも取り組みやすかったと感じました。Bシートの区分「安全管理」の中に、「ヒヤリハットや事故について記録で管理し、再発防止の対応を検討している」というような項目もほしいと思いました。項番毎の考え方の指針や着眼点について説明したガイドブックがあれば、作成者は考え易くなるし内容も充実するのではないかと感じました。利用者一人ひとりの暮らしの状況を把握した上で、事業所の体制や運営の状況とそれぞれに対する事業所の考え方が示され、それに対する地域関係者の意見をもらうことになっているので、事業所にとってサービスの質向上、地域関係者には共に作り上げていくという意識付けの効果があるのではないかと感じました。
- 開所して7年を迎える事業所であったが、運営推進会議のメンバーからは「事業所を

知っている地域の方は殆どいないよ」「同法人の特養と一緒に思っている」「地域行事に出るだけでは、事業所がどんな所なのか分からないよ」との意見がありました。この意見から察して、これまでの外部評価が活用されていないのではと第一印象を受けました。今回、運営推進会議に出席してみて、通常的外部評価が活かされていないこと、利用者・家族・地域の人のための外部評価となっていないことが分かりました。

「外部評価」を事業所のサービスの質の向上に活用するには多くの検討が必要と思います。また、第三者の関わりがない中での運営推進会議における評価は、かなりの力量が求められると感じられました。

○運営推進会議参加者の意見から、

- ①「年に5～6回の運営推進会議に出席しているが、事業所のまとめたものを言葉で説明されただけで、実際のサービス現場を確認していない。このような状況で、Cシートの内容を評価することはできない。」
- ②「今ここで説明を聞き回答することは、専門的知識がない我々には、正しい判断をすることは難しい。人の話だけでは判断できない。」
- ③「内容を聞いてもよく理解わからないときは、『まあ、できている。』などのいい加減な判断になってしまう。今までも真剣な話し合いをしていたので、真剣に会議ができるよう手法を考えてほしい。また、たのしくやりたい。」

○事業所にとって、マンネリ化した運営推進会議の活性化ツールとして良いものであると思うが、家族にとって運営に参加するという意識よりはまだまだ「すべておまかせしていれば間違いない。むしろうるさいことを言って目立ちたくない」という意識があり、会議参加自体が苦痛であるということも耳にする。そのため、導入に当たっては、失敗しない（させない）ことを第一に、今回のように項目の解釈も参加者それぞれに丸投げというような漠然としたものではなく、同じ物差しで共通の話し合いができるようなお膳立てが必要であると思われる。

○現行の外部評価の仕組みは制度疲労が見られ、次のステップに向けた新たな視点からの仕組みの創出を求められていたが、試行調査の方向性とすれば了とします。運営推進会議をどう使うかですが、例えば「玄関のカギをかけていない」と外部評価や運営推進会議で明言していても、外部評価や運営推進会議を終えて玄関を出たとたん、後から「ガシャン」と鍵をかける音が聞こえたときの虚しさ。このような点について運営推進会議の委員の方々が、普段において事業所を訪問する機会の経験を通じて、調査項目に「鍵をかけて入れなかったときがありませんでしたか」と聞く仕組みが必要で、身近な方々による確認が大切である。

○この試行調査に関わる状況をみていて感じることは、難しいと思われる要素と共に、これまでにない良さも併せ持っているなということです。良さという部分をあげてみると、一つは利用者一人ひとりに暮らしに焦点を当てているという方法です。これは、定常的なカンファレンスや事例検討と直結して考えることができるし、事業所の質というのはその9人の暮らしを総合したものとして捉えやすくなると思います。そのような検討を定期的に繰り返していくことは、職員にとって非常に勉強になること

だとも思います。これまで「事業所では」という取り組みをイメージしにくかった職員でも、「Aさんは」という視点なら振り返りもしやすく、その暮らしの状況を4段階でアウトカムのように記録化していくことで、3年や5年という援助過程の客観視もしやすくなるかもしれません。また利用者個々の暮らしの状況を今回の枠組みの一部分からだけでも会議参加者に伝えていくことは意味があると思います。評価判断までは求めずに、自己評価部分の紹介というプロセスは実施してみてもいいかもしれません。

- 運営推進会議のメンバーに、これまで外部評価で話し合われてきたような内容にも踏み込んでもらうというのは、事業所と地域の協働関係を強めていくという点で意味がありますし、コミュニティーワークにまで発展していく可能性も期待できるかもしれません。しかし客観的な判断やアドバイスまで求めていくとなると、それは無理があるということを感じました。
- 福祉にサービスの評価が定着した事は画期的であり、初めて福祉は質の競い合いが可能になりました。それを再度、事業者サイドにお任せする事は、してやる福祉、やってやる介護に戻る事を認めた事と一緒にしたいと思います。

Ⅲ. 考察と提案

1. 新たな質確保策の可能性について—試行調査結果から確認できたこと

本調査研究事業の出発点は、現行の地域密着型サービス評価制度（自己評価・外部評価）における諸課題を踏まえた、利用者がより良く暮らせるための「アウトカム指向型の質確保策の開発」である。試行調査では、そのプロセスをパッケージ（試行ガイド）として提案した。

特徴は、プロセスの中に「当事者性」及び「運営推進会議をはじめとする地域との関係」を組み込み、「個別利用者の暮らし」からアウトカムを見出そうとしている点である。従来、「事業所が提供するケアサービス」に主眼を置いた点検手法を、「個別利用者の生活」に主眼を置いた点検へと転換させている。

以下では、試行調査の流れ（ステップ1～3）に沿って、提案した各種シート、並びに点検作業の各ステップについて、今後の活用可能性を検証していきたい。

試行調査の流れ

[ステップ1]

事業所（GH）の作業：A-1シート・A-2シート・Bシートを作成

- A-1シート：本人の暮らしの状況把握・確認シート（入居者個別票）
 - A-2シート：本人の暮らしの状況把握・確認シート（全体表）
 - Bシート：体制と運営に関する確認シート
-

[ステップ2]

運営推進会議の開催とCシートの作成

- 記入済みのA-2シート及びBシートを用いて、情報提供と話し合い
 - Cシート：地域関係者意見・提案シート
-

[ステップ3]

今後の取り組み計画表の策定

- Dシート：課題改善取組シート
-

※詳細は、第Ⅱ章15ページ「試行調査各ステップ詳細（進め方）」参照

1) ステップ1：事業所内の作業

■A-1・A-2シート及びBシートの作成は、事業所の内発的な質確保・向上策として有効か

①A-1シート：気づきを促すツールとしての有効性

- 『本人の暮らしの状況に着目する視点』として用いたA-1シートは、新たなサービスの質確保策を提案するにあたり肝となる重要なシートである。このシートが、「グループホームの内発的な質確保・向上策として有効か」との論点においては、アンケート調査

結果及び検討委員会の意見ともに、概ね肯定的であったと言える。試行調査に参加した管理者等からは、「一人ひとりの生活状況を本人視点で点検することにより、これまで気付くことのなかった『出来ていること』『出来ていないこと』を様々に発見することができた」との複数の意見が寄せられた。

- 例えば、丁寧なアセスメントやカンファレンスにより個別ケアを重視している事業所であっても、「ケアの質の点検」となると事業所全体の大局的な視点で捉えてしまいがちである。しかし、大局的に見て良質と思われたケアサービスが、必ずしも個別利用者のより良い暮らしに結びついているとは限らない。「本人の暮らし」を確認するところからスタートする方法は、日々の支援が利用者の暮らしにどのような影響を及ぼしているかを直視し、自ら課題を見出していくうえで有効な手段と考えられる。

[検討委員会等の意見より]

- ・ 職員は一生懸命やっているので、事業所の取り組み全体で自己評価を行うと、比較的に高いランクの判定が出る。しかし、今回のように一人ひとりの利用者で見えていくと、ほとんどのケースで判定が低く出てしまう。努力はしているが、結果を問われると職員は自信を無くしてしまうことがわかった。
- ・ A-1 シートは、最終的には本人の満足度を見るべきところ。ただし、職員はその満足度を測るスケールを持っていない。そのため、真面目に答えようとすればするほど、低い結果が出てしまう。
- ・ 利用者が望む暮らしを続けていくために、見極めるポイントを伝えられるのではないかと。一人ひとりの職員がこのシートの意義をきちんと受け止められるようになればいい。
- ・ 個別の利用者に目を向けていくと、今まで気づけなかった課題が様々に見えてくる。
- ・ それぞれの人にはそれぞれのペースがある。「その人にとってどうなのか」を考えれば、判断できるようになることがたくさんある。

②A-1 シート：各事業所の目標設定に応じた使い方

- 一方、A-1 シートの課題についても多数の意見が挙げられている。例えば、「個別利用者の暮らし」からアウトカムを見出そうとすると、職員は「出来ていないこと」ばかりに気づいてしまい、逆に職員の自信喪失に繋がりやすいとの指摘である。特に、認知機能やADLの低下が著しい利用者は、本人の意向の把握、コミュニケーションの取りづらさ、身体機能の状況等から、職員が思い描く利用者の姿と実際の姿とにギャップが生じやすい。そのギャップは、A-1 シートの判定を低くさせ、運営推進会議に提出されることになる。また、A-1 シートは、事業所ごとの目標レベルによって判定結果にばらつきを生じさせ、職員が

真摯に向き合えば向き合うほど結果が低くなるといった状況を招きやすい。

- たしかに、事業所の力量、並びに個別利用者の状態・状況が異なる中で、「できている」「できていない」の統一的な判断基準を持つことは難しい。しかし、「個別利用者の生活の把握から自らのケアサービスを振り返る」という試行調査の目的に照らせば、シートの結果を用いて事業所間の優劣を競う必要はなく、統一的な判断基準も必要としないのではないか。それぞれの事業所は、それぞれの目標設定に応じてこのシートを自由に活用すればよい。
- 重要なことは、A-1シートを用いて「利用者の視点でケアの質を点検する」ということを徹底することにある。それぞれの力量に応じて、少しずつハードルを高くしながら、利用者のよりよい暮らしの実現に向けて一步一步前進していくことが大切である。

[検討委員会等の意見より]

- ・ 「できている」「できていない」の選択肢ではなく、本人が「満足している」「満足していない」などのレベルにしておかないと職員には厳しいのではないか。完璧を求めすぎてしまう。わからなかったら、本人や家族に聞きながら書いてもらってもいい。
- ・ A-1シートは、本当にその人の願いにそって支援できているかどうかを思いをはせるプロセスである。そのところを最も大切にしてほしい。

③A-1シート：「本人の声を聴くこと」をあきらめない

- さらに、A-1シートへの指摘の中には、「本人が思っていること」「本人が望んでいること」が分からなければ、出来ているか否かを答えることは出来ないとの意見も複数挙げられている。確かに、A-1シートの10項目は、本来、本人に直接聞くべき内容であり、職員が「十分にできている」と言い切るためには、本人の代弁者となり得るほどの関係性が必要になるだろう。
- A-1シートのねらいは、むしろ現場職員にその気づきを持ってもらうところにあり、認知症の人の声なき声を聴くことをあきらめない姿勢を求め続けていく取り組みであるとも言えるだろう。利用者にとってのより良い暮らしとは、「本人がどう感じているか」「本人はどうしたいか」というアドボカシーの視点で捉えていくことが重要である。検討委員会では、A-1シートを作成する際、まずは本人に聞く（確認する）ことを原則にすべきとの意見も挙げられていた。認知症ケアの根幹に戻っていくうえでの、大切なアプローチと考える。

[検討委員会等の意見より]

- ・ ケアの視点からみると、いくら認知症が重度でわからないだろうという状況の中でも、声をかけないということはあってはいけないと思う。本人に確認をするというプロセスは大切だ。
- ・ 今回の試行調査で大切にされたことは、本人主体のケアを進めていう上での核となる項目であった。本人の認知機能の低下が進んでいくと思いや希望の把握が難しいとの話も出てくるが、そのあたりの確認の仕方を明確にする必要があるのではないか。
- ・ 認知症になっても、本人にはそれぞれの思いがある。認知症の人の言葉にならない声を聴こうとする姿勢は、認知症ケアの基本である。

④A-2 シート：優先順位の整理と職員間のコミュニケーションに活かす

- A-2 シートは、管理者等が9人分（1ユニット）のA-1シートを1枚にまとめ、全利用者共通に「現在できていること」及び「今後取り組んでいきたい課題」を整理するためのシートである。
- A-1シートによる個別利用者の暮らしの状況を踏まえて、ユニット全体の状況を正視できるという意味で、このシートは有用であると考えられる。しかし、A-1シートそのものが統一的な判定基準に基づくものではない（前述）ことから、A-2シートをもって事業所のサービスの質の優劣を語れるものではないという理解が必要である。
- 実際、試行調査に参加した管理職等からは、「ユニットごとの現状や今後の取り組み課題を整理しやすくなる」「職員全体で意見交換する際の素材として役立つ」等の感想が寄せられている。利用者の暮らしを点検した後に、ユニット全体を見渡すといった流れをつくることで、グループホームが陥りがちな事業所都合のケアの存在に気づきやすくなるといった効果もあるようだ。せっきやく時間を割いて自己評価等を行っても、「出来ない理由の羅列」しかしてこなかった事業所は決して少なくないが、振り返りのベースを利用者の暮らしに定めることで、優先されるべき取り組み課題が見えやすくなると考えられる。
- また、A-1、A-2シートは、個別の利用者のエピソードを思い起しながら、職員間のコミュニケーションや情報共有を促す素材としても活用価値が高いと考えられる。具体的なエピソードから一人ひとりの暮らしに想いを寄せることができれば、職員等は必ずグループホームにおけるサービスの質とは何かということを追求め、価値観を共有していくきっかけになるだろう。

[検討委員会等の意見より]

- ・ 利用者の状態によって、職員がやりたいと思っても出来ないことはたくさんある。だから、A-2シートを見ても事業所全体の状況を判断する材料にはならないのだと思う。それはそれで、そういうシートなのだという理解で使えばよいのではないか。
- ・ 事業所の立場から言えば、このシートによりユニットにいる利用者の状況が一目で確認できるので、あった方がありがたい。
- ・ A-1シート、A-2シートを職員が一緒に手に取り、ディスカッションする中で、一人ひとりの様々なエピソードが思い起こされるはずだ。情報共有だけでなく、認知症ケアの理念や価値観も共有されていくと、質の確保につながるだろう。
- ・ 利用者の重度化が課題になっているが、中には皆で一緒にいることが苦痛な人もいる。一人であることもその人の暮らした。「何もしないこと」もプログラムの一つだという気づきが、エピソードの中から浮かんでくるようになるとすばらしい。
- ・ 自分たちの情報として内部資料にするぶんには何ら問題はない。しかし、公表したり、評価ツールとして用いたりすると課題があるだろう。これはあくまで一人ひとりのエピソードとして捉えるべき。このシートをもとに、エピソードが語られるようになればすごいことだと思う。

⑤Bシート：体制と運営の振り返り

- Bシートは、体制と運営に関する9区分22項目で構成されており、項目の区分ごとに事業所全体の取り組みとして「サービスの質確保・向上に向けて、現時点でできていること、課題と考えていること」を具体的に記述していく。
- アンケート調査では、Bシートに対する改善課題等はほとんど見当たらない。逆に、体制と運営に関する項目は、職員の視点で作成することができる分、記入しやすかったとの感想が寄せられている。

[検討委員会等の意見より]

- ・ Bシートは、現行のサービス評価でも実施しており、慣れているので特に問題はないと思う。
- ・ 本人の視点で記入するAシートよりも、自分たちが日常やっていることを聞かれる項目の方が、答えやすい面はある。

2) ステップ2：運営推進会議の開催

■ステップ2の是非が分かれる背景には、どのような理由があるか

- ステップ2は、運営推進会議の中で利用者の暮らしの状況（A-2シート）や運営と体制（Bシート）を説明し、参加者の意見をCシートに集約するプロセスである。ステップ2のプロセス及びCシートに対する「肯定的な意見」では、「認知症ケアにおける本人本位の大切さを伝えていくきっかけになる」「グループホームの理解者が増える」「地域が変わることで利用者の暮らしがより豊かになる」等の意見が挙げられている。
- 一方、「参加者がグループホームや認知症ケアを理解していない」「A-2シート、Bシートの妥当性を判断できない」「Cシートを作成する際の根拠がない」等を理由とする否定的な意見も多くある。また、これらの意見は、事業者、評価機関、運営推進会議の参加者（以下、参加者）のいずれにも共通する課題意識となっている。
- 肯定的な意見と否定的な意見が生じている背景には、ステップ2の目的に対する捉え方の違いがあると考えられる。例えば、肯定的な意見を持つ者は、一連のシートを事業所と地域とのコミュニケーションツールと捉え、否定的な意見を持つ者は、現行外部評価の代替機能として捉えているといったスタンスの違いである。
- これまで、地域とのコミュニケーションの手段を持っていなかった事業所は、今回の試行調査により参加者との対話を容易にするツールを手に入れたことになる。一方、外部評価におけるコーチング機能、各種書類に裏付けされた根拠ある評価、一定の専門知識によるアドバイスを期待する事業所等は、運営推進会議に対する物足りなさを不満に感じてしまうようである。今回提案するツールは、運営推進会議に求める役割をどこに定めるかによって、その評価が分かれている。

[検討委員会等の意見より]

- ・ 真摯に向き合うほど判定が厳しくなるAシートを根拠に、Cシートを作成しろというのはかなり難しい話である。
- ・ Cシートは、ABシートを見て作成するしかないが、AシートにD判定がある。信じてやるしかないね。そのような感想、否定的な意見ばかりだった。
- ・ A-1シートで「あまりできていない」という結果を見せられたとしても、具体的なエピソードを交えて話してもらうことで、参加者は「頑張ってくださいね」という気持ちで聞いてくれると思う。それこそが、コミュニケーションの入口になる。
- ・ ABだけ見て評価してもらうのなら、事業所はいくらでも誘導することができる。

3) ステップ3：今後の取組計画表の作成

■Dシートを用いた取組計画の策定は円滑に実施できそうか

- ステップ3は、「A-2シート：本人の暮らしの状況把握・確認シート（入居者個票）」及び、「Bシート：運営と体制に関する確認シート」「Cシート：地域関係者意見・提案シート」の内容を踏まえて、「Dシート：課題改善取組シート」を作成するプロセスである。作成にあたっては、各シートの領域（「本人の暮らしの状況把握」「体制と運営」「地域関係者からの意見・提案」）ごとに、「課題・改善点」→「取組計画」→「優先度の高い取り組み」「取り組みを行っていく上で、地域等から助力・強力を得たいこと」を記述することとした。
- Dシートについては、「それぞれの区分で、課題を整理しやすかった」「各種シートを使うことで課題が明確になった」「職員の力量やものの見方、理解力など、多角的に確認することが出来、指導の役にたった」等の肯定的な意見がある一方、「記入方法の分かり難さ」「Bシートとの書き分け方」「『地域関係者からの意見・提案』の情報不足」などについて、難しさがあるとの意見もあった。
- 指摘された課題については、さらにナビゲーションの充実を図るなどの対応が必要であるが、ステップ3における基本的な考え方（「本人の暮らしの状況把握」「体制と運営」「地域関係者からの意見・提案」を用いたそれぞれの側面で優先順位を整理）により、事業所は次に何をすべきかの目標が定めやすくなるを考える。まさに、PDCAサイクルをまわしていく上での、Plan（計画）から Do（実行）へのつながりを重視した工夫である。

[アンケート調査の意見より]

- ・ Aシート、Bシートを使用することで課題が明確になった。
- ・ 普段から気づいていたことも、課題点がより明確になった。
- ・ それぞれの職員で作業し、スムーズに記入できた。
- ・ A-1シートを作成する時、職員のレベル、ものの見方、理解力など、別の方面から見ることができ、指導の役に立った。
- ・ 従来のやり方の方が改善点を見出しやすい。
- ・ Bシートと内容が重なり、混乱して困った。
- ・ 記載例があれば参考に出来たと思う。
- ・ 外部評価と違い、支援内容を話し合う時間がないので課題が明確にならなかった。

2. グループホームの地域における存在性・存在価値の観点から

1) 利用者のより良い暮らしを目指して

■試行調査における自己点検手法の有効性について

- 検討委員会における試行調査「ステップ1」の検証では、一人ひとりの利用者に光を当てた点検手法の効果について、一定のコンセンサスを得ることができた。今後も点検項目や選択肢の精査は必要となるが、これまで、事業所の都合や「できないこと」への言い訳ばかりが優先されてきた事業所においては、自分たちの提供するケアサービスの結果としての「利用者の暮らし」を正視することにより、現状の打開策につなげることができると考えられる。

2) 運営推進会議を活かした質確保・向上を目指して

■地域との相互関係を大切にしながら

- 試行調査「ステップ2」のプロセスは、「ステップ1」で把握した情報を運営推進会議の中で共有し、話し合うことで、サービスの質確保策に地域の目を入れたり、地域の参画を促したりするねらいがある。
- 例えば、A-2シートやBシートを用いた点検結果を説明する際、個別利用者のエピソードを交えたり、エピソードにおける職員の対応や事業所としての考え方を伝えたりすることで、参加者は認知症の人への理解やグループホームの役割・機能に対する認識を深めることができる。情報や価値観を共有することが出来れば、これまでなかなか進まなかった地域と事業所との協働を広げていくことができるかもしれない。
- そのとき留意すべきは、地域と事業所との関係性である。アンケート調査の結果を見ると、多くの事業者は参加者への過剰な負担を心配しつつ、参加者のグループホームに対する理解の低さや消極的な姿勢を様々な表現で書き込んでいる。そこには明らかに、事業所から頭を下げて運営推進会議に参加してもらっている構図があり、協力を求める者と協力を求められている者との距離感が読み取れる。
- 本来、運営推進会議の参加者には、「サービスの質確保・向上は自分たちの利益（地域における社会資源の充実）につながる」との認識を持って、会議に参加してもらうことが重要である。加えて、グループホームに暮らす利用者が地域の一員であることも忘れてはならない。会議に参加する以前の参加者の意識やスタンスは、運営推進会議そのものの議論の深みや充実度に大きな影響を及ぼしていく。運営推進会議の開催に負担感を募

らせ、議題等に内容に悩んでいる事業所も少なくない中、まずは、グループホームと地域との相互関係をいかに築いていくかが、未だ解決されていない大きな課題と言えるだろう。

- 運営推進会議は、制度として地域と対話する場づくりを後押しするしくみである。その貴重な機会を活かして、認知症の人への理解やグループホームの取り組みを理解してもらうことこそ、利用者のより良い暮らしへの近道になると考える。

■運営推進会議における「外部評価」機能の可能性について

- 「ステップ 2」のプロセスに関する意見には、運営推進会議が現行の外部評価機能を担えるか否かの視点で書かれているものも多い（事業者アンケート、調査員アンケート）。具体的には、「参加者はケアサービス等に対する知識・理解が低い」「Cシートを作成する際の根拠がない」「参加者の役割意識・参加意識が低い」等で、運営推進会議において外部評価機能を担うのは難しいという意見が一定数見られた。また、参加者アンケート結果（自由回答）を見ても、「質問の内容が難しい」「利用者の生活状況が分からない」「A-2・Bシートの情報だけでは判断できない」等、事業者及び評価機関の意見と一致する。
- これらの結果について、検討委員会は「あくまで“現行の外部評価”と“試行調査”の比較において、これらの課題を捉えている」と分析している。加えて、「今回の試行調査で用いたツールは、そもそも現行の外部評価制度には馴染まない組み立てである」ことを確認したうえで、今後さらに、その手法及びツール等の改善に取り組んでいく必要性と有効性を再認識した。サービスの質確保策に「運営推進会議をはじめとする地域との関係」を組み込んでいくうえで、運営推進会議にどのような役割を担ってもらうかについては、さらなる検討が必要と考える。

3) 地域協働力の醸成を目指して

■コミュニケーションツールとしての活用価値

- 地域と事業所とが相互関係を築き、わが町のサービスの質確保を地域と共に目指していくことは重要な取り組みである。そのことを運営推進会議のテーマに挙げ、自らの質確保策に関わってもらうこと、あるいは外部の目として評価に参加してもらうことに何ら異論はないだろう。しかし、そのために最初に必要になるのは、認知症ケアやグループホームの役割等に関する“共通言語”を持つことと考える。「試行調査が、なぜ個別利用者

の生活に光を当てているのか」「グループホームは、なぜ本人本位のケアを大切にしているのか」「利用者は、なぜ地域とのつながりを求めているのか」等、議論の前提となる理念や考え方が共有できていなければ、同じ土俵の上で話し合うことも、出来ているかどうかを判断することも難しい。

- 調査結果を踏まえ、検討委員会の中で議論されたことは、「グループホームの質確保・向上、地域支援、連携を目指していくうえで、Cシートは、運営推進会議における情報共有・コミュニケーションツールとして有用と考えられるか」という論点であった。
- 改めて「ステップ3」の意義を考えてみると、それは紛れもなく、グループホームと地域との共通言語をつくるプロセスとしての価値にある。また、試行調査で提案した「当事者視点」の点検方法及び各種シートは、利用者と地域をつなぐコミュニケーションツールと捉えることができる。これを利用することで、参加者はより具体的に利用者の暮らしやケアサービスのイメージを持って理解することができるだろう。遠回りのようでも、地域と事業所とが同じ方向を向いて話ができるようになるまで、その土壌をつくることが質確保の近道になると考える。

■求められる新たな質確保策と外部評価制度の位置づけ整理

- これまでグループホームは、自己評価及び外部評価等による点検により、サービスの質の確保・向上を目指してきた。評価機関はグループホームの応援団という観点から、社会通念上の「外部評価」が担う、自己評価の妥当性、成果指標や目標設定の的確さ等の検証機能に加え、コーチング機能やコンサルタント機能をも含めた独自の立場を構築し、事業所に関わり続けてきた実績がある。
- しかし、評価機関そのものや評価調査員の質の格差、事業者側における評価のプロセスや結果等の活用意識、改善意識の低下は、評価事業そのものの形骸化を招き、サービス評価事業が目指してきた本来の目的は少しずつゆがみ、理念と現実がかけ離れているという指摘が挙がっている。
- もちろん、その目的・理念を捉えて、質の確保・向上に向けてしっかりとした実践を続けてきた事業所、評価機関の存在があることは事実であり、目指してきた方向性が間違いであるとは言えない。問題は、社会通念上の外部評価以上の機能、すなわちコーチング機能やコンサルタント機能を外部評価制度の価値観に含めてしまっていることで、この制度そのものが、幅広で非常に分かり難い取り組みになっている点にある。例えば、知識も力量もない評価調査員が現場を訪ねてコーチング機能を担うことは、その価値を生まないものであり、意義を十分に感じられない取り組みと考える事業所が現れる。認知症ケアの理念やグループホームの役割を理解しない者が、事業所に向かって表面的な

アドバイスを続けても、事業者にとっては制度に対する不信感を募らせていくだけである。

- 本研究事業は、評価機関による外部評価の代替として運営推進会議の活用を提案するものではない。また、外部（からの）評価を不要と考えているわけでもない。サービスの質の格差が課題となっている現状においては、むしろ、社会通念上の「外部評価」がしっかりと機能することが重要と考える。ただし、それ以上の機能、すなわちコーチングやコンサルタント等の部分が混在している現状をそのまま放置しておくことは、今後のさらなる現場の混乱と停滞を招きかねないという意味で問題を捉えている。
- 試行調査結果を見ると、事業所の中には評価機関と良好な関係を築き、事業運営全般にわたりサポートを求めているケースが少なくない。本稿で提案する運営推進会議のさらなる充実を図っていくうえでも、力量のある評価機関に求めていきたいグループホーム事業所へのサポートは様々あると考えられる。本調査研究事業の範囲には含まれないものの、評価機関の質の格差、制度の形骸化等に関する諸問題については、今後、新たな地域協働による質確保策の開発と合わせて検討していく必要があるだろう。

■グループホームと地域の新たな関係性の構築を目指して

- グループホームと地域の新たな関係性を構築するにあたり大切にすべきこと—それは、地域の人がグループホームを「評価する」という見方ではなく、同じ地域に住む住民の一人として、「身近に関わる」という意識を持つことではないだろうか。意識を持ち得る流れをつくっていく経過、実際に関わることができる環境と機会と場をつくり出すことで、地域の方は、多様な「外部からの目」となり、入居者の日々の暮らし、すなわちグループホームの運営・サービスに好影響を及ぼす効果が生まれると考える。
- 地域と事業所との協働力を高めていくうえで大切なことは、“入居者の利益と地域の利益”をわかりやすい言葉で表現し、地域との共創を立脚点に、事業所による自発的な創意工夫・自己点検、地域との協議を促していくことであろう。制度化した途端に目的を失ってしまう取り組みがあまりにも多いという現実の中で、地域の協力を得ながら、「理念と現実の一致」を実質的・持続的なものとしていくことが望まれる。

4) 今後に向けて

- 本研究事業の目的に沿って、グループホームの運営推進会議や外部評価について、その実態や現状の把握に進展が見られたその一方で、本事業の実施を通じて新たに認識された課題や、本事業では検討対象としなかった課題が改めて認識された。こうした諸課題についても、解決・改善に向けて前向きに取り組みを進めていくことが重要である。
- 残された課題
 - ツール（各シート）を使用する目的の再整理
 - ツール類の位置づけ（アセスメントとコミュニケーションの機能整理）
 - ツール（各シート）の工夫と改善、ツール（各シート）の目的と活用に関する説明（使用方法や活用方法を分かりやすい表現で説明すること）
 - 事業所負荷を低減化するための仕組み（全体の流れ）の構築・改善
 - 運営推進会議や外部評価を単に制度上の義務として捉えるのではなく、「本人本位のケア」や「グループホームにおけるケアの質向上」を実践・実現していくために必要な一連の取組として捉えるべきということを、いかに参加者や関係者の共通認識として周知徹底を図っていくか。また、その効果的な取組み方など
 - 運営推進会議の効果的な実施方法等を含めた、グループホーム事業所や地域の方に対するサポート策の検討（普及ガイド、推進研修等）
 - 各評価制度や運営推進会議等、制度面の見直し・点検やそれに伴い必要となる対応や作業、ツール類の洗い出し

資 料 篇

1. 試行シート様式
2. 試行シート記入実例
3. 試行アンケート票様式
4. 試行協力事業所・評価機関一覧

1. 試行シート様式

1) 本人の暮らしの状況把握・確認シート 個票 (A-1シート)

区分	項番	把握・確認項目	【選択】いづれかに○をつける			【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題
			【A】十分にできている	【B】ほぼできている	【C】あまりできていない	
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている				
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている				
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている				
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている				
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている				
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている				
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみことを行うことができている				
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている				
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている				
総合	10	本人は、このQHIに在ること、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている				

2) 本人の暮らしの状況把握・確認シート 全体表 (A-2シート)

区分	項番	把握・確認項目	個票からの転記:[A][B][C][D]を記入																		
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨										
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています																			
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができます																			
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができます																			
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています																			
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができます																			
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができます																			
残存機能の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえ、役割や、楽しみごとを行うことができます																			
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができます																			
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができます																			
総合	10	本人は、このGHIにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができます																			
【個票の記述を踏まえ、入居者一人ひとりのよりよい暮らしにむけて、現時点で、できていることと今後事業所として取り組んでいきたい課題】																					

3) 体制と運営に関する確認シート (Bシート)

区分	項番	把握・確認項目	【選択】いずれかに○をつける				【記述事項】 サービスの質の確保・向上に向けて、 現時点で、できていること、課題と考えていること
			【A】充分 にできて いる	【B】ほぼ できて いる	【C】あまり できて いない	【D】ほとん どできて いない	
環境	1	共用空間は、不快な刺激に配慮し、家庭的な居心地のよさに配慮している					
人格の尊重	2	利用者の誇りやプライバシーを尊重して関わっている。適切な個人情報管理が行われている					
	3	身体拘束(日中の玄関錠等含む)について学んでおり、拘束のない暮らしを実現している					
	4	職員は、虐待にあたる行為を理解している。代表者・管理者は、虐待や不適切なケアの防止策を講じている					
基本的な生活支援	5	利用者の気持ちや体調の変化を把握、記録し、職員間で共有している					
	6	利用者、家族等、職員チームで話し合い、現状に則した介護計画を作成している					
	7	利用者の状況にあわせて、食事、入浴、排泄、整容、睡眠、外出等の日常生活行為を支援している					
	8	利用者の食事その他の家事は、職員と利用者が共に行っている					
健康管理	9	利用者・家族等の希望や納得を得た医療機関で、適切な受診ができるよう支援している					
	10	口腔ケア、服薬支援、感染症対策などの健康管理を実施している					
	11	重度化や終末期のあり方について、本人、家族等、関係者で方針を共有し、支援している					
安全管理	12	さまざまな災害に対して実践的訓練を重ねるとともに、地域と共同防災訓練等に取り組んでいる					
	13	緊急事態の対応マニュアルにそって、応急手当や対応策の実践力を身に付けている					
地域との連携	14	地域の活動に参加したり、役割を担うなど地域との関係づくりを行っている					
	15	グループホームの機能・実践を活かして、地域に開放したり、還元している					
	16	市町村、地域包括支援センター、その他のサービス機関と協力関係を築くように取り組んでいる					
家族との連携	17	家族と共に、利用者を支えあう関係をつくっている					
	18	家族等の意見、要望、不安などを聞き、適切な対応をしている					
	19	家族等に、暮らしぶりや健康状態、金銭管理や職員の異動等について報告している					
職員育成	20	代表者は、職員の働きやすい労働環境や労働条件を整備し、ストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる					
	21	代表者・管理者は、法人内外の研修を受けたり、OJT(働きながらのトレーニング)に取り組んでいる					
質の向上	22	自己評価・外部評価の意義を理解し、活かした上での取り組みを行っている。					

4) 地域関係者意見・提案シート (Cシート)

区分	項番	把握・確認項目	【選択】人数を記入				【記述事項】 選択した理由・意見	【記述事項】 今後のGH運営、地域連携推 進への提案
			【A】よく できている	【B】 できている	【C】いくつ かの改善が 必要	【D】大幅な 改善が必要		
環境	1	このグループホームでは、共用生活空間は、家庭的で居心地のよいものになっていますか						
本人主体	2	このグループホームでは、本人の意向に沿った暮らしができていますか						
継続性	3	このグループホームでは、本人のこれまでの暮らしの習慣にあった生活ができていますか						
力の活用	4	このグループホームでは、本人の役割があり、楽しみごとを行うことができていると思いますか						
総合	5	このグループホームにいて、本人は、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができていると思いますか						
安全管理	6	このグループホームでは、地域住民の協力や、警察署・消防署等との連携を図りながら、見守りや災害への備えを行っていますか						
地域との連携	7	このグループホームでは、地域の活動に参加したり、役割を担うなど地域との関係づくりを行っていますか						
	8	このグループホームでは、地域の住民等に対して、介護や認知症の相談、アドバイスを行っていますか						
家族との連携	9	このグループホームでは、家族等の意見、要望、不安などを聞き、対応を行っていますか						
	10	このグループホームでは、家族等に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理や職員の異動等について報告を行っていますか						
職員	11	このグループホームでは、職員がやりがいを持って、継続的に働くことができるよう職場環境づくりを行っていますか						
質の向上	12	自己評価・外部評価の意義を理解し、活かした上での取り組みを行っている。						

5) 課題改善取り組みシート (Dシート)

今回(○年○月)の課題と改善についての取組計画			
	本人の暮らしの状況把握	体制と運営	地域関係者からの意見・提案
今回の課題・改善点			
課題・改善点への取組計画			
優先度が高い取り組み			
取組みを行っていき、地域等から 助力・協力を得たいこと			

2. 試行シート記入事例

1) 本人の暮らしの状況把握・確認シート 個票 (A-1シート)

<同事業所の1ユニット9名分の記入事例>

※見やすくするため、シートの様式を一部加工して掲載している。

① さん	把握・確認項目	【選択】いづれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと 今後の課題
		【A】	【B】	【C】	【D】	
本人主体の暮らし	1 本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています		○			GHで11年生活し、ほぼ自立だったADLも落ち、現在つかまり歩行。重度の難聴と記憶、見当識、判断能力の障害により、介護拒否、トイレ内不衛生行為、食事量の低下と、BPSDは、健康リスクの高い物が出てきているが、居室内に平行棒設置し、起床、トイレ、食事を、本人の好きな時に何度でも提供できる様備え、本人は、本人の思いのまま自室と、共有部分で暮らしている。毎日の食事摂取量が低下し、終末期と診断された。毎日のNS健康管理と、月2回の訪問診療で経過観察中。ターミナルケア対象者なので今後、状態の変化に応じて家族と話し合い方向性を共有していく事。
	2 本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています		○			
	3 本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています		○			
生活の継続性	4 本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています		○			入居当初は、職員へマツサージしたり、お経財布が入った手さげ袋を持って居る事で落ち着いて過ごさせていた方。目の前の物が、何かわからなくなり、食事也十分に食べれないが、現在も手元に手さげの袋を置き、お財布を確認しながら過ごしている。家族とは、本人の精神的、身体的負担が少なく、延命せず看取っていく方向で、進んでいる。
	5 本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています			○		
	6 本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています				○	
本人が持つ力の活用	7 本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています				○	ターミナルケア対象者の為、本人が食べれそうな時に、食事をして寝ることが主な日課。難聴の為、コミュニケーションが取りづらく、筆談も厳しくなってきた。他入居者とも関係性も希薄だが、食事取れない時は、嫁が、本人の好きそうなものを作って持って来ると、食べる時もあり、何とか維持できて
	8 本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています				○	

	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている				○	いる。残っている能力で、本人がいきいきとする場面を作る事に課題がある。
総合	10	本人は、このグループホームにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている				○	本人のペースに合わせ、下降しているが、不安の少ない生活出来ている。看取り時期に入った際は、家族と延命、看取り時の場所や付添等の再確認をしていく。

② さん	把握・確認項目	【選択】いづれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題	
		【A】	【B】	【C】	【D】		
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている		○			本人起立性低血圧により、離床時間の観察をしている。覚醒の良い時に、起床（離床）し食事・入浴等している。時間の制約や日課などはなく、本人の状態に合わせ、一日2食を目標にしたケアを心がけている。2か月前、食事量の低下により、終末期と診断された。ターミナルケア対象者なので今後、状態の変化に応じて家族と話し合い方向性を共有していく事。
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている		○			
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている		○			
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている			○		歩行器を使い、リビングにいられた方が自立歩行が厳しくなり車椅子の生活へ、食事摂取量も低下し介助が必要なる状態へと変化した。以前から、週2回家族と美容室で洗髪・染め・カット等行っていたが、傾眠傾向が強くなり、不可能になった。家族は、その分、食事介助に来たいと、無理ない範囲で、通ってこられる。月に1回は、子供たちの面会もあり、離れて暮らしていても、家族と近い生活が遅れている。 課題：医療管理と食事摂取の維持しながら、現状を長く継続すること。
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている			○		
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている				○	
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている		○			覚醒の良い時に、リビングに出て来られ食事 お茶 入浴（シャワー）新聞読み 洗濯物をたたんだり出来ている。 家族が食事介助に来てくれることを楽しみにしている。 一緒にTVを観たり、会話をしたり家族との時間が過ごせてい
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている		○			

	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている				○	る。
総合	10	本人は、このグループホームにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている				○	このまま本人のペースに合った生活が出来、安心の日々が送られ長男夫婦の面会がある事で、より良い生活が続けられれば良いと思われる。家族、延命しない希望と話されているが、本人を思う気持ちは、強い。家族が納得する看取りへ向けて、常に本人の状態の共有が必要。

③ さん	把握・確認項目	【選択】いづれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題	
		【A】	【B】	【C】	【D】		
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている		○			健康 医療面については、元々自宅で通っていた HP へ行っていたが、病状の悪化に伴い、主治医を当該協力病院へ変更。現在月2回の訪問診療と、毎日のNS管理となった。以前行っていた整形外科へは、家族と一緒に月1程度受診している。昔の友人の面会が多くあり、昔話などする事が出来ている。また、実家に行きたい等の訴えには職員と行く事もある。 今後の課題として、季節ごとの墓参り 正月の準備の参加など家族と過ごす時間が出来たらいいと思う。
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている		○			
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	○				
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている		○			買い物に行きたいなど自ら訴える事が出来、職員も出来るだけ希望に添えるようにしている。地域の文化祭 どんど焼きなどにも参加出来ている。自分の通帳が手元に無いと不安に思う事があり、家族に盗られたと思ひ込んでしまう。相対的に外出の頻度は多く本人の意向に添えているように思うが、本当は毎日でも外出したい方である。職員の体制や他者との兼ね合いもあるが、もっと活動的に過ごせるようにして行きたい。
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている		○			
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	○				
本人が持 つ力の 舌	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行う	○				食事準備 食事の片付け 庭の草むしり 洗濯など好きな時に行っている。新聞を読む 日光浴

本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている		○		未婚で、自宅より住所変更し入居。本人の記憶は、ほぼ幼少期にあり、常に生家の三鷹を思っている。数年前職員と三鷹へ出かけ写真を撮ってきたことで、三鷹を思い出した際は、写真を見て話し、生家への不安の解消ができている。 洗濯物を干す、たたむ。食器を洗うなど出来る事は行っている。生け花のボランティアへの参加で、隣の棟の入居者や講師の方との週1回交流が出来ている。 課題：活動性の向上。
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている		○		
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている		○		
総合	10	本人は、このグループホームにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	○			ここでの生活には、不満は少なく満足しているようである。 キーパーソンは、遠方の義理の妹。妹の高齢化に伴い今後、本人の代理人の面で不安も残る。

⑤ さん	把握・確認項目	【選択】いづれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題	
		【A】	【B】	【C】	【D】		
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている				○	8年前より利用し、3年ほど前骨折をきっかけに、ADL低下、ADの進行も顕著。ここ半年で、思いや願いを自分の口から伝える事が出来なくなる。大きく口をあけると顎が外れるようになり、食事量が著しく低下。現在看取り対応中。家族から昔の話等聞き、言葉かけの参考にしている。咀嚼・嚥下に注意し、食事水分補給を行う。本人の表情を見ながら無理強いしない。健康・医療面は、職員・看護師・医師と連携を取り日々の変化に気を付け、看取りの日を迎える準備をしている。 課題：看取り期の本人主体の暮らしは何なのか考える事
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている		○			
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている		○			
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている			○		昔の手紙があるが本人は、見る事が出来ない。耳は聞こえていそうなので、言葉かけを行っている。外出は出来ないが、日光浴を行い健康維持、気分転換を行う。エアマットを用意し、安
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている			○		

	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる				○	<p>楽な生活を維持する。</p> <p>課題：2年以上寝たきりの生活である。老衰で、痛み、不安の少ない最期を迎えられることを目標にしている。</p>
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができる				○	<p>本人の負担にならない程度にホーム内の行事に参加し、写真等を撮っている。食事は、顎の外れていないときに、高カロリー食を少しずつ取れるだけ提供。家族、親類、友人等へその日が近いことを説明し、後悔無いう、話している。面会時には、本人の元気だった頃の写真を見れるよう、居室に用意。送る家族への支援をしている。旅立ちの衣類、化粧品、葬儀者等家族と決定する。看取り対応の為、本人の活用する能力がほとんどない。</p>
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができる				○	
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる				○	
総合	10	本人は、このグループホームにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができる				○	<p>家族・職員・入居者に見守られて、一人で無い時間が過ごせるようにしている。</p> <p>体調を考慮し、安心安楽な生活ができるように心掛けている。</p>

⑥ さん	把握・確認項目	【選択】いづれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題	
		【A】	【B】	【C】	【D】		
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています			○		<p>3年前、日中独居で自宅で転倒し怪我が多く、しびしび息子に言われ入居。本人、嚥下機能低下、短期記憶数日あり、判断能力低下。入居時、数メートルは歩行器歩行していたが、半年前より、歩行厳しく車いすとなる。記憶が保たれ、危険認識が低下しているのと、どんな状況でも家のが良いと回復の希望を持ちつつ、機能訓練していた。年数回は、息子、本人の希望通り自宅へ外出や、外泊をしているが、度々怪我をして帰ってくる。帰棟後は、「家は嫌だった」と話すが数日で家のが良くなるの繰り返し。</p> <p>課題：車いすで本人満足する暮らしの実現が課題</p>
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができます			○		
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができます			○		

生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている			○		居室内を手すりに掴まり歩行することが出来ていた方だが、転倒を繰り返し、付添でも歩行困難になり車椅子移動の生活に変化した。自分ではトイレにも行けなくなり、誰かを呼ばなくてはならない事にストレスを感じている。本人が自由に動ける範囲はベッド周辺しかない。ベッド周りには身近な物を置いている。本人の意向が不明だが、長男と月に1回程度外出出来ている。 課題：外出は好きであるが出掛けられていないのが現状にある。外出の回数を多くする事。
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている		○			
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる			○		
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている			○		金銭管理出来ている為家族も本人に任せている。週1回パンの販売時、本人持ちのお小遣いから買い、近隣に住む息子家族に渡している。自分の意志をはっきり伝える事が出来る。本人が思っている力と持っている力の差がある為、感情が高ぶる事があるが、本人が持つ力は、継続出来るよう職員間で共有し、本人の希望に添えるように努力している。嚥下機能が低下しているが、常食でないとならない為、吸引器を近くに置いている。 課題：活動の場面を作る事、年一回の契約更新は、本人も含め納得の上で契約更新すること
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている			○		
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている			○		
総合	10	本人は、このグループホームにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている			○		自分の現状を認め、受け入れる事が出来なければ、グループホームでの生活は苦痛でしかないだろう。理解力、表現はしっかりとされている方なので、現状が認められれば職員との関係も良くなり、生活も楽しくなるのではないかと。

⑦ さん	把握・確認項目	【選択】いづれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題	
		【A】	【B】	【C】	【D】		
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています		○			本人20代より、横浜で独り暮らししていたが、半年前より独居困難。実家を思い実家近くの当施設入居。記憶、見当識、著しく低下。入居時歩行困難だったが、現在杖歩行まで回復。本人20代で、実家に兄弟と生活していると認識の為、ほぼ毎日実家へ出かけようとするが、ある程度外に一緒にいたり、記録物を見せながら、年齢、生い立ち等自分でみる事で、納得し帰る気持ちが無くなる。 医師 看護師 職員と連携をとり、食事 排泄のコントロールに気を付けている。 課題：親 兄弟が亡くなっている事が理解できていないので、時間をかけ認識できるような方法を探す。親や兄弟が生きていると思っている事が帰宅の理由になっている。B型肝炎、圧迫骨折に注意。
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています		○			
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	○				
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています		○			アルバム等を活用し、昔の話を聞き以前の生活等聞きだし参考にしている。日々の行事に参加し、誕生日には、好きな物を聞き外食等行っている。得意だった編み物が出来るよう、居室へ置き、居室内でテレビ、編み物、片付け等しながら過ごしている。 課題：趣味活動の充実
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています		○			
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています		○			
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています		○			調理の手伝い・洗濯物たたみ等行いADLを落とさないようにする。本人は、明るい性格なので、誰とでも話ができる。買い物支援など一緒に行き、本人の若き日の記憶を頼りに、外部の交流を図っている。課題：92歳で、未婚、子供無く、姪を子供のように思い、実家を自分の家と頼っている。社交的でどなたとでも明るい話が出る為、ここでの生活する事を自覚でき
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひとつや、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています		○			
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています		○			

						るようになると、もっと生活に張りが出る。
総合	10	本人は、このグループホームにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている		○		入居して半年、横浜の家や、本人の思っている自分とのギャップに戸惑いがあるが、横浜で生活していた 60 年間で覚えていない為、今後、より良い余暇時間の過ごし方を見つけられれば、満足いく生活が送れるようになる。

⑧ さん	把握・確認項目	【選択】いずれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題	
		【A】	【B】	【C】	【D】		
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている		○			日課を理解し自由に過ごせている。特別に何がしたいわけではなく、淡々と日々が過ぎていく。自主的にリビングに出てくることが多かったが、寒くなり腰痛発症。居室で寝ていることが多くなった。声を掛けないと、リビングに出て来なくなってきた。居室内の活動を上げられるよう、手すりの増設、TV位置の調整、配置換えをし、自主的に居室内で動けるように支援している。 課題：痛みが緩和し、自主的に動けるような働きかけ
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている		○			
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている		○			
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている		○			外出 歩行 買い物は体調が良ければ行える。腰の痛みから動くことが億劫になり、歩くことが出来るが車椅子を利用したい、着替えを手伝って欲しい等依存傾向にある。 課題：依存傾向から自立へ戻るような支援が必要
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている		○			
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている		○			
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行っていくことができている			○		調理の手伝いは行う。手芸、習字など声掛けするが、「もう 94 なんだから…」とあまり好まない。入浴 洗濯物など自分で出来るだけ行えるよう手伝っている。特別な趣味活動より、会話や、日常生活上の作業、外出を
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひとつや、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている		○			

	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている		○		好む。 課題：外出は好きなようなので外出の機会を増やすこと
総合	10	本人は、このグループホームにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている		○		本人の事を知っている入居者や、親類も入居しており、会話は、弾む。不満が聞かれることは少なく、グループホームでの生活に満足されていると思われる。

⑨ さん	把握・確認項目	【選択】いずれかに○をつける				【記述事項】 本人の変化、今できていることと今後の課題
		【A】	【B】	【C】	【D】	
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています		○		最近、わからなくなっている事が多くなり入居者同士の会話も調子を合わせているだけの事が多い。時々思いが伝わらず、焦りを感じていると思われる。日課の理解はある程度できており、時間を見ながら、部屋に居たり、フロアへきたりしている。糖尿病があり、月2回の訪問診療と、NS毎日の健康管理で経過観察している。 課題：積極的に他入居者コミュニケーションを取りにはいかないので、孤立しないように働きかける事
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	○			
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	○			
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています		○		5年前、アパート一人暮らしからの引っ越し、入居。居室にはアパートにあった物がたくさん置いてあり、床で布団の生活。施設行事や、買い物も積極的に参加。家族の面会、外出も定期的に行っている。 課題：転倒を含めたのけがにつながる事が無いような環境作り金銭的に特養待機しているが、まだ順番は、回ってこない。金銭面で、入居の継続が可能か、随時相談が必要
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	○			
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています		○		
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています		○		本人から進んで食事の準備を行っている。手順がわからなくなると、その都度職員に質問しながら出来ている。社交的な面があるので、近隣や地域の人々と笑顔で雑談が出来ている。 課題：出来る場面はたくさんあ
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています		○		

	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	○				るが他者との兼ね合いから行えない場合もある。能力の活用と維持が課題。
総合	10	本人は、このグループホームにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	○				元々アパート暮らし。長年生活しているので、住み慣れた我が家になっている。

2) 本人の暮らしの状況把握・確認シート 全体表 (A-2シート)

<1) で示した同事業所1ユニット9名分の全体表>

※見やすくするため、シートの様式を一部加工して掲載している。

区分	項番	把握・確認項目	個票からの転記：【A】【B】【C】【D】を記入								
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
本人主体の暮らし	1	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	B	B	B	B	D	C	B	B	B
	2	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	B	B	A	B	B	B	B	A
	3	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	B	A	A	B	B	A	B	A
生活の継続性	4	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	B	C	B	B	C	C	B	B	B
	5	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	C	C	B	A	C	B	B	B	A
	6	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	D	D	A	C	D	C	B	B	B
本人が持つ力の活用	7	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	D	B	A	B	D	C	B	C	B
	8	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	D	B	A	B	D	C	B	B	B
	9	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	D	D	A	B	D	C	B	B	A
総合	10	本人は、このグループホームにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	B	B	B	A	B	C	B	B	A

<p>【現時点できていること】本人主体の暮らしについては、本人の意向を確認し、ほぼ出来ていると評価する。現在ターミナルの対象者が3名いる為、生活の継続や本人の持つ能力の継続の点で全体的なばらつきが目立つ。ターミナル対象者には、話し合いを重ねその時に応じたケア・支援が出来ている。健康・医療・安全環境面については入居者ほとんどが出来ていると評価するADLが低い方や自分から意思を発信できない方は評価は低くなり、そうでない方は、ほぼ高評価となる。総合では評価が高い。</p>	<p>【これからの取組】ADLが高い方、自分で発信する能力が高い方に職員の支援が多い傾向にある。本人主体と捉えれば良いが、職員が受け身の体制であり、訴えてこなければ行動しないこともあり、入居者の希望や要望が訴えだけではない事を自覚し、気づくケアが必要。入居者と話をする機会を持ち、希望や要望を探り叶えられるようにしていきたい。居室担当者が1対1で居室で話をする時間をつくりたい。機能訓練としての外出・散歩の時間を作りたい。担当者や曜日・時間を決め、生活の一部としたい。</p>
---	--

3) 体制と運営に関する確認シート (Bシート)

< 1・2) で示した、同事業所のBシート >

※見やすくするため、シートの様式を一部加工して掲載している。

区分	項番	把握・確認項目	【選択】 いづれかに○をつける				【記述事項】 サービスの質の確保・向上に向けて、現時点できていること、課題と考えていること
			【A】	【B】	【C】	【D】	
環境	1	共用空間は、不快な刺激に配慮し、家庭的な居心地のよさに配慮している	○				テーブル席ソファ等、好きな場所でテレビや新聞を見たり、音楽を聴いたり出来る環境づくりが出来ている。庭や隣の棟へ自由に入出入り出来る環境。
人格の尊重	2	利用者の誇りやプライバシーを尊重して関わっている。適切な個人情報の管理が行われている		○			身体拘束・虐待については内部研修を行い、自己点検シートを活用して理解を深めている。施設は原則夜間のみで、自由な暮らしを支援している。個人的な支援の内容が他者に聞こえないように配慮するなど、一人一人の人格を尊厳した支援が出来ている。
	3	身体拘束(日中の玄関施設等含む)について学んでおり、拘束のない暮らしを実現している	○				
	4	職員は、虐待にあたる行為を理解している。代表者・管理者は、虐待や不適切なケアの防止策を講じている		○			
基本的な生活支援	5	利用者の気持ちや体調の変化を把握、記録し、職員間で共有している	○				基本的な一日の流れはあるが、その日の利用者の体調や気分に合わせて、入浴、食事、外出と自己決定を尊重した生活が送れる支援を心掛けている。理念に添った「その人らしい当たり前の生活」が送れるように常に考えながら支援している。介護計画は、独自の書式用い、緊急な計画を立てやすい様になっている。
	6	利用者、家族等、職員チームで話し合い、現状に則した介護計画を作成している	○				
	7	利用者の状況にあわせて、食事、入浴、排泄、整容、睡眠、外出等の日常生活行為を支援している		○			

	8	利用者の食事その他の家事は、職員と利用者が共に行っている		○			より、効果的に情報・目標・支援内容の共有しやすい書類にすることが課題。
健康管理	9	利用者・家族等の希望や納得を得た医療機関で、適切な受診ができるよう支援している	○				本人 家族の希望に添って主治医を決めている。利用者の医療面での情報や気付きを、毎日看護師に報告、相談し助言を受け、常に健康管理や状態変化に応じた支援に努めている。入居時にターミナルケアの説明を行い、終末期の過ごし方や看取りの場所の希望を聞いている。入居期間を1年契約にし、契約更新時や状態変化時に今後の意向を再度確認。随時家族等の意志を共有している。
	10	口腔ケア、服薬支援、感染症対策などの健康管理を実施している	○				
	11	重度化や終末期のあり方について、本人、家族等、関係者で方針を共有し、支援している	○				
安全管理	12	さまざまな災害に対して実践的訓練を重ねるとともに、地域と共同防災訓練等に取り組んでいる	○				災害時を想定した訓練を年2回行っている。災害時における福祉避難所として市と協定を結び、地域との協力体制を築いている。火災（ホーム内・外）地震・風水害・噴火等のマニュアルを設置し、職場に近い職員より、防火管理者取得。現在3名。年1回内部研修行い緊急時に備えている。
	13	緊急事態の対応マニュアルにそって、応急手当や対応策の実践力を身に付けている		○			
地域との連携	14	地域の活動に参加したり、役割を担うなど地域との関係づくりを行っている	○				自治会行事へ積極的に参加、協力している。包括社協主催の、認知症家族のつどいに参加協力し地域の介護支援を行っている。昨年度より、社協の地域福祉活動計画策定委員の依頼を受け協力している。運営推進会議に、市の高齢介護課、社協、包括、自治会の方に参加して頂いたり、会議以外でもお互いに相談等連絡を取り合っている。
	15	グループホームの機能・実践を活かして、地域に開放したり、還元している	○				
	16	市町村、地域包括支援センター、その他のサービス機関と協力関係を築くように取り組んでいる	○				
家族との連携	17	家族と共に、利用者を支えあう関係をつくっている		○			利用の相談の段階から、本人と家族の立場に立ち、話を傾聴し受け止めながら家族との関係を築くことに努めている。利用の契約・更新時は、本人の意思確認を基本としている。面会時には、本人の様子を伝え日頃の状態を報告している。体調変化があった時には、家族へ連絡している。毎月、写真入りのポストカードを送り生活の様子や、予定を伝えている。
	18	家族等の意見、要望、不安などを聞き、適切な対応をしている		○			
	19	家族等に、暮らしぶりや健康状態、金銭管理や職員の異動等について報告している	○				

									より、家族と共に本人の人生について、目線を合わせる事が重要課題。
職員育成	20	代表者は、職員の働きやすい労働環境や労働条件を整備し、ストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○						外部研修へ参加し、研修報告書を全職員が閲覧している。定期的な内部研修や勉強会では、職員が講師となり行い全職員の質の向上を図り、職員育成に取り組んでいる。
	21	代表者・管理者は、法人内外の研修を受けたり、OJT（働きながらのトレーニング）に取り組んでいる	○						
質の向上	22	自己評価・外部評価の意義を理解し、活かした上での取り組みを行っている	○						自己評価 外部評価から課題をみつけ、質の向上にむけて努力している。

4) 地域関係者意見・提案シート (Cシート)

< 1・2・3) で示した同事業所 >

※見やすくするため、シートの様式を一部加工して掲載している。

区分	項番	把握・確認項目	【選択】人数を記入				【記述事項】 選択した理由・意見	【記述事項】 今後のグループホーム運営、地域連携推進への提案
			A	B	C	D		
環境	1	このグループホームでは、共用生活空間は、家庭的で居心地のよいものになっていますか	3	5			<ul style="list-style-type: none"> ・建物の作りや雰囲気から居心地のよさを感じる ・ゆったりとした空間、生花を飾る、いつもお茶の飲める準備など、工夫を感じる ・食堂とリビングが別々だとよい ・施設は利用利用者の家職員の意識に共感している ・家事を自ら行っている姿がみられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・別ユニットでも時々開催してはどうか 様子を見てみたい ・現状で良い
本人主体	2	このグループホームでは、本人の意向に沿った暮らしができていますか	3	5			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の穏やかな顔を見ればよくわかる ・本人の意向が伝えられる方については、把握している ・ADL の低い人やターミナルの人、認知症が重度ななどについて、課題がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状で良い ・プライバシーの観点から、難しいかもしれないが、一人ひとりの生活状況をもう少し詳しく報告する機会があってもよいのかなあと思った。
継続性	3	このグループホームでは、本人のこれまでの暮らしの習慣にあっ		5	3		<ul style="list-style-type: none"> ・共同生活をしている以上制約はあるが、その中で良く意向を反映している ・共同生活になじめない方に 	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの観点から、難しいかもしれないが、一人ひとりの生活状況

		た生活ができていると思いますか					<ul style="list-style-type: none"> ・ にとっては、これまでの習慣どうりとはいかない面もある ・ 全ての人が合うのは難しい ・ 家族の協力の度合いで差がある 	<p>をもう少し詳しく報告する機会があってもよいのかなあと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出来るだけ本人の自由に暮らせるよう更なる工夫が必要
力の活用	4	このグループホームでは、本人の役割があり、楽しみごとを行うことができていると思いますか	1	5	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 料理など出来るひとはやれる環境 ・ 個別に役割を持ち、良い表情をしている ・ 役割分担について、他利用者に納得して頂くが、難しい ・ 自ら自主的に行う時間を増やすとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更なる、本人が自主的に行う活動が増える支援をして欲しい
総合	5	このグループホームにいて、本人は、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができていると思いますか	1	7			<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の表情から、安心を感じる・職員と本人とのやり取りにやさしさを感じる・家庭的な雰囲気がある・適度になされていると思う・何となく職員も落ちつける場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人々との親しみの場はもっと増やしても良い・自治会長以外も地域住民として、参加して頂けるとよい
安全管理	6	このグループホームでは、地域住民の協力や、警察署・消防署等との連携を図りながら、見守りや災害への備えを行っていますか	4	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の福祉避難所としての意識を持ち、日頃から自治会と訓練する等連携が図れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に特化した運営推進会議の開催は、今後も続けて欲しい
地域との連携	7	このグループホームでは、地域の活動に参加したり、役割を担うなど地域との関係づくりを行っていますか	3	5			<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の集いに勢力的・積極的に参加している様子が見られる・徘徊者・行方不明者に気を配る等行い地域に根差している・自治会の文化祭作品展示や民生委員の見学の受け入れ等行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真やビデオなどの導入はいかがでしょう
	8	このグループホームでは、地域の住民等に対して、介護や認知症の相談、アドバイスを行っていますか	3	1	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症家族の集いや入居申し込み家族に対し、丁寧にアドバイスを含め対応されていると感じる ・ 必要時に相談対応してもらっている ・ 立地的に住民が気軽に寄るのが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行っているかこの情報だと不明、判るようになってほしい ・ 運営推進会ではあまりそのような報告がなかったように感じている、判るような工夫をし

												て欲しい ・少し住宅からは離れているが、地域包括ケアシステム構築の見地から在宅の人へのケアもお願いしたい	
家族との連携	9	このグループホームでは、家族等の意見、要望、不安などを聞き、対応を行っていますか	1	7								・利用者様を含めての会議にはいつも感動させられる ・クレーム対応が難しい点もあると思うが、努力していると感じる ・時間をかけて話し合いや理解を深めている	・6月頃利用者家族を呼んで一緒にお昼を取る機会があった。それ以外は大体出席者が決まってしまうのが難しいところ
	10	このグループホームでは、家族等に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理や職員の異動等について報告を行っていますか	6	2								・利用者様を含めての会議にはいつも感動させられる ・運営推進会議の際など、資料作成に工夫がみられる ・細かな情報提供がなされ、家族との信頼関係が築けている ・写真や手紙、小遣い帳で行っている	現状でよい
職員	11	このグループホームでは、職員がやりがいを持って、継続的に働くことができるよう職場環境づくりを行っていますか	4	3	1							・職員の勤務年数や保有資格などが、他の施設と比べても良い・資格取得、研修の実施等、職員のスキルアップが可能な職場・施設長や理事長が資格や研修参加の意識が高く良い環境が出来ている・職員数が良くうまくいっている・目標を持って介護にあたっている。離職者が少ない	・一般の介護職員の話を聞く機会があると良い
質の向上	12	自己評価・外部評価の意義を理解し、活かした上での取り組みを行っていますか	1	6	1							・今回のアンケート等積極的な取り組みがみられる ・現状時で無く、改善する方向に行っている	・今回のアンケートの結果についてもご報告願いたい

4) 課題改善取り組みシート (Dシート)

<1・2・3・4) で示した同事業所>

※見やすくするため、シートの様式を一部加工して掲載している。

今回(28年2月)の課題と改善についての取組計画			
	本人の暮らしの状況把握	体制と運営	地域関係者からの意見・提案
今回の課題・改善点	・ADLの高い方、自己表出の出来る方は、本人本位の介護が出来るが、自己表出出来ない方に対し、現状のケアで本人本位になっているか再確認必要	①地域との連携について、自治会、社協、包括、行政等各機関との連携は、取れているが、地域住民、近隣住民といった個人の連携、年数回程度 増やしていきたい ②そのときの個人の気持ちに合わせられるような職員教育に課題がある	①運営推進会議を別ユニットで開催すると、両棟把握できる ②更なる個人が自主的に活動する工夫が必要 ③個人の暮らしが見えやすい報告の仕方が必要(写真・ビデオ等) ④地域、在宅向けのケアの提供もお願いしたい
課題・改善点への取組計画	本人本位について考える機会を作る	①自治会活動で、今以上に参加できそうな活動がないか模索 ②現任職員のスキルアップ計画の見直し	①別ユニットの開催がスペース的に可能か検討 ②入居者個人の自主性を出せるようなケア取得支援 ③個人の生活の様子報告様式の検討 ④地域・在宅向けの相談の機会の確保
優先度が高い取り組み	本人本位について考える機会を作る	1、②現任職員のスキルアップ計画の見直し 2、①自治会活動で、今以上に参加できそうな活動がないか模索	1、②入居者個人の自主性を出せるようなケア取得支援 2、④地域・在宅向けの相談の機会の確保 3、③個人の生活の様子報告様式の検討 4、①別ユニットの開催がスペース的に可能か検討
取組みを行っていく上で、地域等から助力・協力を得たいこと	本人が地域活動を望んだ場合の見守り等	職員研修予算の確保本人本位について、事例検討の機会確保自治会活動、公民館活動の見学等地域の高齢者活動の把握	1、良い研修会の紹介 2、相談形式の具体案検討 3、4 運営推進会議の開催場所やの報告内容の再検討、提案

3. 試行アンケート票様式

1) グループホーム事業所用

平成27年度老人保健医療推進事業「本人・家族の視点を重視する認知症ケアに向けたグループホームの地域拠点化と、新たな本人視点の質確保のプロセス開発に関する調査研究事業」試行調査

試行調査アンケート票 <事業所用>

<記入のご注意>

●本紙に手書きでご記入の場合

- ・網掛けしている欄にご記入下さい。
- ・選択肢をご記入の場合は、○印をつけてください。
- ・記述欄が不足するときは別用紙をお使いください。

●電子ファイルに入力する場合

- ・網掛けしている欄にご記入下さい。
- ・選択肢の場合は、数字の「1」を入力してください。
- ・自由記述の欄は、入力画面上では文字が潜っていても構いませんので、セル幅等は変更しないでください。

I. 属性 ※アンケート集計において、事業所名・個人名は「公表しません」。

1. 事業所名	都道府県:	
2. ご記入者	お名前:	職名:

II. [A-1, A-2シート]「本人の暮らしの把握・確認」、[Bシート]「体制と運営に関する確認」の実施について

1. 実施方法	a 管理者のみで	b 管理者・職員全員で	
	c その他 ()		
2. かかった時間数	おおよそ	時間	分

問1. [A-1, A-2シート]「本人の暮らしの把握・確認」、[Bシート]「体制と運営に関する確認」について、項目案及び記入様式についておたずねします。1つに○、またS-Qにはその理由をご記入ください。

1) シートの形式について(全体)	a 取り組みやすい	b まあ取り組みやすい
	c あまり取り組みやしくない	d 取り組みにくい
S-Q c.d.の理由 ()		
2) 項目のわかりやすさ(全体)	a わかりやすい	b まあまあわかりやすい
	c あまりわかりやしくない	d わかりにくい
※個別の項目については別紙 S-Q c.d.の理由 ()		
3) 項目数について	a たいへん多い	b やや多い
	c 適当	d やや少ない
	e たいへん少ない	
4) 記入のしやすさについて (選択肢方式、記述欄)	a 記入しやすい	b まあまあ記入しやすい
	c あまり記入しやしくない	d 記入しにくい
S-Q c.d.の理由 ()		

問2. [A-1]「本人の暮らしの状況把握・確認項目」、[B]「体制と運営に関する確認項目」について、回答が難しいと感じた項目、不要だと思う項目についてお知らせください。※【別紙1・2】にご記入ください。

問3. [A-1, A-2]、[B]を実施してみて、現状把握ができ、優位点や課題点が明らかになりましたか。

a おおいになった	b まあなった
c あまりならなかった	d まったくならなかった

Ⅲ. 運営推進会議での「地域関係者意見・提案」の試行について

1) 運営推進会議の出席者 (今回出席された方)	a.市町村職員	人	b.地域包括支援センター職員	人
	c.地域住民・団体	人	d.利用者	人
	e.利用者家族	人	f.近隣事業所職員	人
	g.事業所職員	人	h.評価機関・評価調査員	人
	i.その他 ()			
2) 運営推進会議で今回の試行調査にかかった時間数	おおよそ	時間		分

問1. 運営推進会議での「地域関係者意見・提案」の実施、また「地域関係者項目」案及び記入シートについておたずねします。1つに○、またS-Qにはその理由をご記入ください。

1) 地域関係者項目の わかりやすさ(全体) ※個別の項目については別紙	a わかりやすい	b まあまあわかりやすい
	c あまりわかりやすすくない	d わかりにくい
S-Q c.d.の理由 ()		
2) 評価項目数について	a たいへん多い	d やや少ない
	b やや多い	e たいへん少ない
	c 適当	
3) 「地域関係者意見・提案シート」 の記入のしやすさについて	a 記入しやすい	b まあまあ記入しやすい
	c あまり記入しやすすくない	d 記入しにくい
	S-Q c.d.の理由 ()	

問2. [C]「地域関係者意見・提案項目」について、
回答が難しいと感じた項目、不要だと思う項目についてお知らせください。※【別紙3】にご記入ください。

Ⅳ. 今回の試行全体の流れについて

問1. [A-1, 2]「本人の暮らしの状況把握・確認」及び[B]「体制と運営に関する確認」を実施し、結果を運営推進会議に報告、[C]「地域関係者意見・提案シート」を用いて、意見・提案をもらう一連の流れを実施してみのご意見をお聞きます。

全体の流れ	選択肢	課題と思う点／ご意見
1) [A-1, 2]「本人の状況」 [B]「体制」確認の実施について	a スムーズに実施できた	
	b やや難点があった	
	c 難点が多かった	
2) 運営推進会議への準備 (資料化・伝達)等	a スムーズに実施できた	
	b やや難点があった	
	c 難点が多かった	
3) 運営推進会議における [A-2]「本人の状況」 [B]「体制」の内容の報告・説明	a スムーズに実施できた	
	b やや難点があった	
	c 難点が多かった	
4) 運営推進会議での話し合い [C]「地域関係者意見・提案」の 実施	a スムーズに実施できた	
	b やや難点があった	
	c 難点が多かった	
5) [C]「地域関係者意見・ 提案シート」の作成	a スムーズに実施できた	
	b やや難点があった	
	c 難点が多かった	
6) [D]「課題改善取組シート」の 作成	a スムーズに実施できた	
	b やや難点があった	
	c 難点が多かった	

問2. 今回の試行調査では、運営推進会議の参加者に、本人の状況や事業所の運営等、項目に沿って話し合ってもらいました。現行の(評価機関による)外部評価と比べて、不都合を感じたことはありましたか。

<input type="checkbox"/>	a 全くない	<input type="checkbox"/>	b あまりない
<input type="checkbox"/>	c 少しある	<input type="checkbox"/>	d 大いにある

S-Q 上記の理由をご記入ください。

V. ご意見欄

今回の試行調査についてご意見などあれば、ご自由に記述ください。

※質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2) 運営推進会議参加者用

平成27年度老人保健健康増進等事業「本人・家族の視点を重視する認知症ケアに向けたグループホームの地域拠点化と、新たな本人視点の質確保策のプロセス開発に関する調査研究事業」試行調査

試行調査アンケート票 <運営推進会議参加者用>

◆記入者情報

1. 事業所名			
2. 運営推進会議参加時の立場 (○を付けてください)	a 市町村職員	b 地域包括支援センター職員	c 地域住民・地域団体
	d 利用者	e 利用者家族	f 近隣事業所
	g その他()		
3. 運営推進会議への参加状況	今年度	回	これまでの通算参加回数
			回

I. 事業所との日頃の関わりについて

問1. 日頃、この事業所(グループホーム)を訪問したり、職員や利用者の方と交流する機会はありますか。
(運営推進会議への参加以外で) いずれか1つに○印を付けてください。

a 週に2回以上	b 週に1回	c 月に2~3回
d 月に1回程度	e 2~3ヶ月に1回程度	f ほとんどない

問2. この事業所(グループホーム)が行っている催事や訓練、地域交流の取組みに協力したり、参加したことはありますか。(運営推進会議への参加以外で) いずれか1つに○印を付けてください。

a 協力したことがある(具体的に:)
b 参加したことがある
c 協力・参加したことはない

II. 本試行について

問1. 事業所の説明や使用したシート等についていかがでしたか。いずれか1つに○印を付けてください。

1) 「本人の暮らしの状況把握・確認」(A-2)や「体制と運営に関する確認」(B)について、事業所の説明はわかりやすかったですか	a よくわかった	b まあわかった
	c あまりわからなかった	d ほとんどわからなかった
2) 「地域関係者意見・提案シート」(C)の項目の内容について、わかりやすかったですか	a よくわかった	b まあわかった
	c あまりわからなかった	d ほとんどわからなかった
3) 「地域関係者意見・提案シート」(C)にそって、話し合うことができましたか	a よくできた	b まあできた
	c あまりできなかった	d ほとんどできなかった

問2. 今回の運営推進会議での話し合いについて、お気づきの点を具体的にご記入ください。
(よかったと思われたこと、課題点や進めていくうえで問題と感じられたこと等)

<よかったと思われたこと>	<課題点や進めていくうえで問題と感じられたこと>

3) 評価機関（調査員）用（運営推進会議参加）

平成27年度老人保健健康増進等事業「本人・家族の視点を重視する認知症ケアに向けたグループホームの地域拠点化と、
新たな本人視点の質確保策のプロセス開発に関する調査研究事業」試行調査

試行調査アンケート票 <評価機関・調査員用>

<記入のご注意>

- 網掛けしている欄にご記入下さい。
 - ・選択肢の場合は、**数字の「1」を入力**してください。
 - ・自由記述の欄は、入力したとき画面上では文字が潜ってしまっても構いませんので、セル幅等を変更しないでください。
- もし、本紙を「手書き」される場合、自由記述欄が不足するときは別紙を用いても結構です。

<ご提出について>

- ご記入後、メールまたは、手書きの場合はFAXにてご返信ください。
 - ・メールアドレス: cs-sc@mx3.alpha-web.ne.jp
 - ・FAX: 03-3986-8172

I. 属性 ※アンケート集計において、評価機関名・個人名は「公表しません」。

1. 評価機関、ご記入者	機関名	記入者名
2. 資格や団体等の所属について (該当全てに1を付けてください)	介護支援専門員	介護福祉士 社会福祉士
	社会福祉主事	看護師 保健師
	ヘルパー	介護相談員 家族の会会員
	民生委員・児童委員	その他 ()

II. [A-1, A-2シート]「本人の暮らしの把握・確認」、[Bシート]「体制と運営に関する確認」について

問1. 評価機関・評価調査員からみて、事業所の[A-1, 2]「本人の暮らしの状況把握・確認」、
[B]「体制と運営に関する確認」の項目案及びシート様式についておたずねします。
当てはまるものひとつに「1」を付け、S-Qにはその理由をご記入ください。

※回答は、事業所が実施することを想定して、評価調査員の経験に基づきお答えください。

1) 確認表形式について(全体)	a 取り組みやすい	b まあ取り組みやすい
	c あまり取り組みやすすくない	d 取り組みにくい
	S-Q c.dの理由 ()	
2) 項目のわかりやすさ(全体) ※個別の項目については別紙	a わかりやすい	b まあわかりやすい
	c あまりわかりやすすくない	d わかりにくい
	S-Q c.dの理由 ()	
3) 項目数について	a たいへん多い	b やや多い
	c 適当	d やや少ない
	e たいへん少ない	
4) 記入のしやすさについて (シート様式、選択肢方式)	a 記入しやすい	b まあ記入しやすい
	c あまり記入しやすすくない	d 記入しにくい
	S-Q c.dの理由 ()	

問2. [A-1]「本人の暮らしの状況把握・確認項目」及び[B]「体制と運営に関する確認項目」の妥当性について、評価機関・評価調査員からの視点でご意見をお聞かせください。※【別紙1・2】にご記入ください。

Ⅲ. 運営推進会議での「地域関係者意見・提案」の試行について

問1. 今回の運営推進会議での試行調査において、あなた(評価調査員)はどのような役割を担いましたか。当てはまるものすべてに「1」を付けてください。

a	事業所からの[A-2]、[B]シートの報告について補足し、参加者の理解を図った
b	[C]「地域関係者意見・提案」の項目の内容や考え方について説明した
c	話し合いが円滑に進むよう、進进行をサポートした
d	参加者からの意見、提案の取りまとめ役を担った
e	出された意見等を[C]「地域関係者意見・提案シート」に記入、まとめた
f	グループホームや地域連携等について、第三者として説明し、理解を図った
g	その他 ()

問2. 運営推進会議での「地域関係者意見・提案」の実施、また「地域関係者項目」案及び記入シートについておたずねします。当てはまるものひとつに「1」を付け、S-Qにはその理由をご記入ください。

1) 出席者との話し合いについて	a	円滑に話し合えた	b	まあ話し合えた
	c	あまり話し合えなかった	d	ほとんど話し合えなかった
S-Q c.d.の理由 ()				
2) 地域関係者項目のわかりやすさ(全体) ※個別の項目については別紙	a	わかりやすい	b	まあわかりやすい
	c	あまりわかりやすすくない	d	わかりにくい
S-Q c.d.の理由 ()				
3) 確認項目数について	a	たいへん多い	b	やや多い
	c	適当	d	やや少ない
	e	たいへん少ない		
4) 「地域関係者意見・提案シート」の記入のしやすさについて	a	記入しやすい	b	まあ記入しやすい
	c	あまり記入しやすすくない	d	記入しにくい
S-Q c.d.の理由 ()				

問3. [C]「地域関係者意見・提案項目」の妥当性について、評価機関・評価調査員からの視点でご意見をお聞かせください。※【別紙3】にご記入ください。

Ⅳ. 今回の試行全体の流れについて

問1. [A-1, 2]「本人の暮らしの状況把握・確認」及び[B]「体制と運営に関する確認」を実施し、結果を運営推進会議に報告、[C]「地域関係者意見・提案シート」を用いて、地域関係者からの意見・提案をもらい一連の流れを実施・参加してみてのご意見をお聞かせください。当てはまるものひとつに「1」を付け、その理由をご記入ください。

※評価機関・評価調査員からの視点でご記入ください。

全体の流れ	選択肢	課題と思う点/ご意見
1) [A-1, 2]「本人の状況」 [B]「体制」確認の実施について	a	スムーズに実施されている
	b	やや難点がある
	c	難点が多い
	d	関与していないので不明
2) 運営推進会議における [A-2]「本人の状況」 [B]「体制」の内容の報告・説明	a	スムーズに実施されている
	b	やや難点がある
	c	難点が多い
3) 運営推進会議での話し合い [C]「地域関係者意見・提案」の 実施	a	スムーズに実施されている
	b	やや難点がある
	c	難点が多い
4) [C]「地域関係者意見・ 提案シート」の作成	a	スムーズに実施されている
	b	やや難点がある
	c	難点が多い
	d	関与していないので不明

問2. 今回の試行調査では、運営推進会議の参加者に、本人の状況や事業所の運営等、項目に沿って話し合ってもらいました。現行の(評価機関による)外部評価と比べて、不都合を感じたことはありますか。当てはまるものひとつに「1」を付けてください。

a 全くない	b あまりない	c 少しある	d 大いにある
--------	---------	--------	---------

S-Q 上記の理由をご記入ください。

V. ご意見欄

今回の試行調査についてご意見などあれば、ご自由に記述ください。

※質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

本アンケートをご返送いただく際に、下欄もご記入ください。

◆評価機関・評価調査員の交通費・経費請求分

評価機関名		ご担当者名	
-------	--	-------	--

ふりがな	ふりがな		
銀行名	支店名	支店	
ふりがな	預金種別 ※該当番号に○	口座番号	
口座名義人	1 普通 / 2 当座		

4. 試行協力事業所・評価機関一覧

1) グループホーム事業所

No.	事業所名	法人名	都道府県
1	グループホーム幸豊ハイツ・ほのぼの	社会福祉法人幸清会	北海道
2	グループホーム福寿荘Ⅲ	有限会社ライフアート	北海道
3	グループホームアウル登別館	有限会社グッドライフ	北海道
4	グループホームこもれびの家	株式会社橙果舎	北海道
5	グループホーム花縁すみかわ	有限会社ライトマインド	北海道
6	グループホームみたらの杜	社会福祉法人幸清会	北海道
7	グループホームせせらぎ月寒	有限会社プラクティス	北海道
8	グループホームななかまど美唄館	特定非営利活動法人 NPO 社会福祉振興会	北海道
9	グループホームトトロの森	有限会社シャイニング	北海道
10	グループホーム癒しの郷	社会福祉法人大滝福祉会	北海道
11	グループホームななかまど歌志内館	特定非営利活動法人 NPO 社会福祉振興会	北海道
12	グループホームいちょうの木	社会福祉法人典人会	岩手
13	グループホーム平	社会福祉法人典人会	岩手
14	グループホーム氷上山	社会福祉法人典人会	岩手
15	グループホーム後ノ入	社会福祉法人典人会	岩手
16	グループホームさくら	社会福祉法人憲幸会	岩手
17	グループホームたじりの杜	有限会社バイタルサポート	宮城
18	グループホームしわひめ	有限会社バイタルサポート	宮城
19	グループホームひだまり	社会福祉法人田尻福祉会	宮城
20	グループホーム和楽路	社会福祉法人大崎市社会福祉協議会	宮城
21	グループホームふかふかはうす	社会福祉法人さんりん福祉会	宮城
22	グループホームなつぎ埜	株式会社リブレ	宮城
23	グループホーム縄文の風	有限会社みどりの風	宮城
24	グループホームあさみず	医療法人仁泉会	宮城
25	グループホームよもぎ埜	株式会社リブレ	宮城
26	グループホームゆうゆう多賀城	株式会社アルテディア	宮城
27	グループホーム桜木荘	医療法人長慶会	秋田
28	グループホームみずほ	有限会社すずらん	秋田
29	グループホーム樹の里おおもり	合資会社大森産業	秋田
30	グループホームバンドー北欧の里	バンドーケアポート株式会社	秋田
31	グループホームのがわ	医療法人社団つくし会	東京
32	グループホームななかまど	社会福祉法人愛翁会	神奈川
33	グループホームオクセン	株式会社フクイカイ	神奈川
34	グループホーム横浜はつらつ	医療法人活人会	神奈川
35	グループホーム相模原	社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会	神奈川
36	グループホームオカリナ	医療法人社団珠泉会	神奈川
37	グループホーム四季の丘	医療法人社団帰陽会	神奈川
38	グループホームなかのくち	社会福祉法人愛宕福祉会	新潟
39	グループホームひのくち	社会福祉法人吉田福祉会	新潟
40	グループホーム中之島	社会福祉法人長岡三古老人福祉会	新潟
41	グループホーム癒しの家	有限会社藤田企画	新潟
42	グループホーム縁	社会福祉法人桜井の里福祉会	新潟

43	グループホームやたの	社会福祉法人共友会	石川
44	グループホームいろり	社会福祉法人朋友会	石川
45	グループホームしゃくなげ	社会福祉法人鶴寿会	石川
46	グループホームまどい	医療社団法人長久会	石川
47	グループホームいこいの家	医療社団法人長久会	石川
48	サポートハウスおおばり	有限会社サポートハウス	愛知
49	アットホームあいり	有限会社アット	愛知
50	グループホームグリーンハウス	株式会社山市	愛知
51	丸八グループホーム日吉	有限会社丸八介護サービス	愛知
52	グループホーム渚園	有限会社介護センター田中	三重
53	グループホーム太陽の家	有限会社アルファルファアンドカンパニー	三重
54	グループホームこころ	有限会社こころ	三重
55	グループホームレモンの里	有限会社レモンの里	三重
56	グループホームしあわせ	有限会社しあわせ	三重
57	グループホーム太陽のおうち	株式会社 MURO	和歌山
58	グループホームつつじ園	株式会社下里福祉	和歌山
59	グループホームひまわり	有限会社プライムタイム	和歌山
60	グループホーム喜成会	社会福祉法人喜成会	和歌山
61	グループホームあいの里	社会福祉法人安原福祉会	和歌山
62	グループホームのどか宅老所	NPO 法人高齢者介護研究会のどか宅老所	岡山
63	グループホームクレパス	医療法人社団功寿会	香川
64	グループホームたまもよし	医療法人社団五色会	香川
65	グループホームなごみ	社会福祉法人博安会	香川
66	グループホームこすもす	医療法人社団修美会	香川
67	グループホーム高瀬	有限会社オバタ	香川
68	グループホームだんだん	株式会社クロス・サービス	愛媛
69	グループホーム風花	株式会社クロス・サービス	愛媛
70	グループホームむく	株式会社クロス・サービス	愛媛
71	グループホーム土香里	有限会社土香里	愛媛
72	グループホーム陽だまり	社会福祉法人すいよう会	愛媛
73	グループホームなかまちの家	社会福祉法人それいゆ	福岡
74	シャルールコパン	社会福祉法人それいゆ	福岡
75	グループホームふぁみりえ	社会福祉法人東翔会	福岡
76	グループホームきらめき	医療法人精光園白川病院	福岡
77	グループホームあんのん	有限会社あんのん	長崎
78	グループホーム太陽	有限会社旭ケアサービス	宮崎
79	グループホームこすもす	特定非営利活動法人こすもすの里	宮崎
80	グループホームやすらぎ	医療法人与州会柳田病院	宮崎
81	グループホームたいよう	特定非営利活動法人仁秀会	宮崎
82	グループホーム希望山荘	社会福祉法人春生会	宮崎

2) 評価機関

No.	評価機関名	都道府県
1	社会福祉法人北海道社会福祉協議会	北海道
2	株式会社サンシャイン	北海道
3	公益財団法人いきいき岩手支援財団	岩手
4	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会	岩手
5	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	宮城
6	介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ	宮城
7	特定非営利活動法人秋田マイケアプラン研究会	秋田
8	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会	神奈川
9	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」	新潟
10	有限会社エイ・ワイ・エイ研究所	石川
11	株式会社中部評価センター	愛知
12	社会福祉法人三重県社会福祉協議会	三重
13	社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会	和歌山
14	株式会社東京リーガルマインド	岡山
15	社会福祉法人香川県社会福祉協議会	香川
16	特定非営利活動法人JMACS	愛媛
17	特定非営利活動法人医療・福祉ネットワークせいわ	福岡
18	特定非営利活動法人福祉総合評価機構長崎県事務所	長崎

平成27年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

本人・家族の視点を重視する認知症ケアに向けた
グループホームの地域拠点化と、
新たな本人視点の質確保策のプロセス開発に関する
調査研究事業
報告書

発行元 特定非営利活動法人 地域生活サポートセンター
〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-9-8-203
発行 平成 28(2016)年 3月